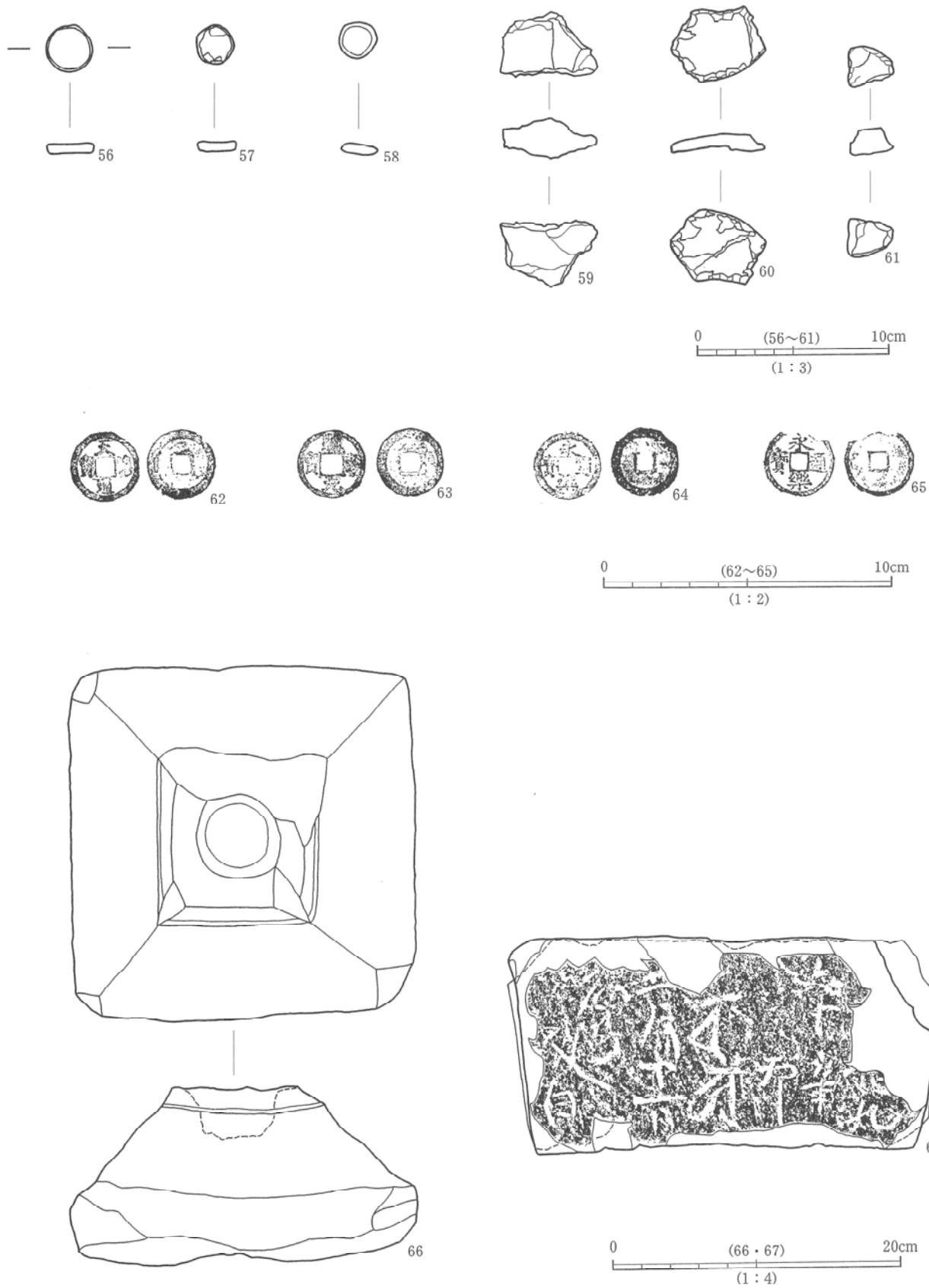


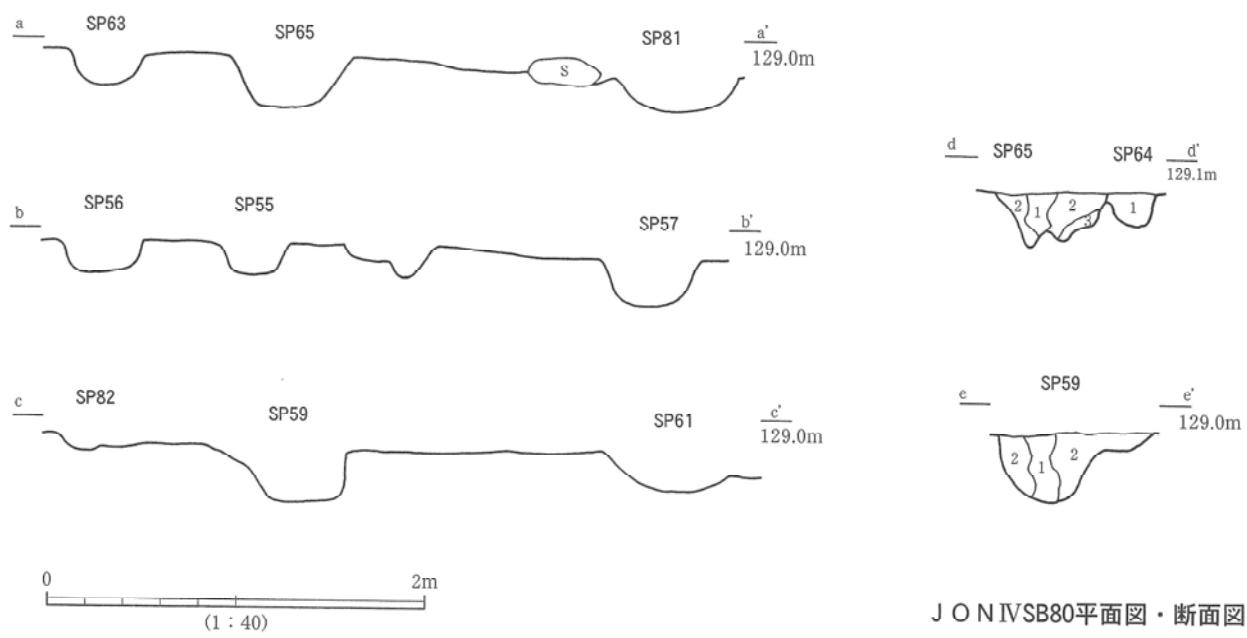
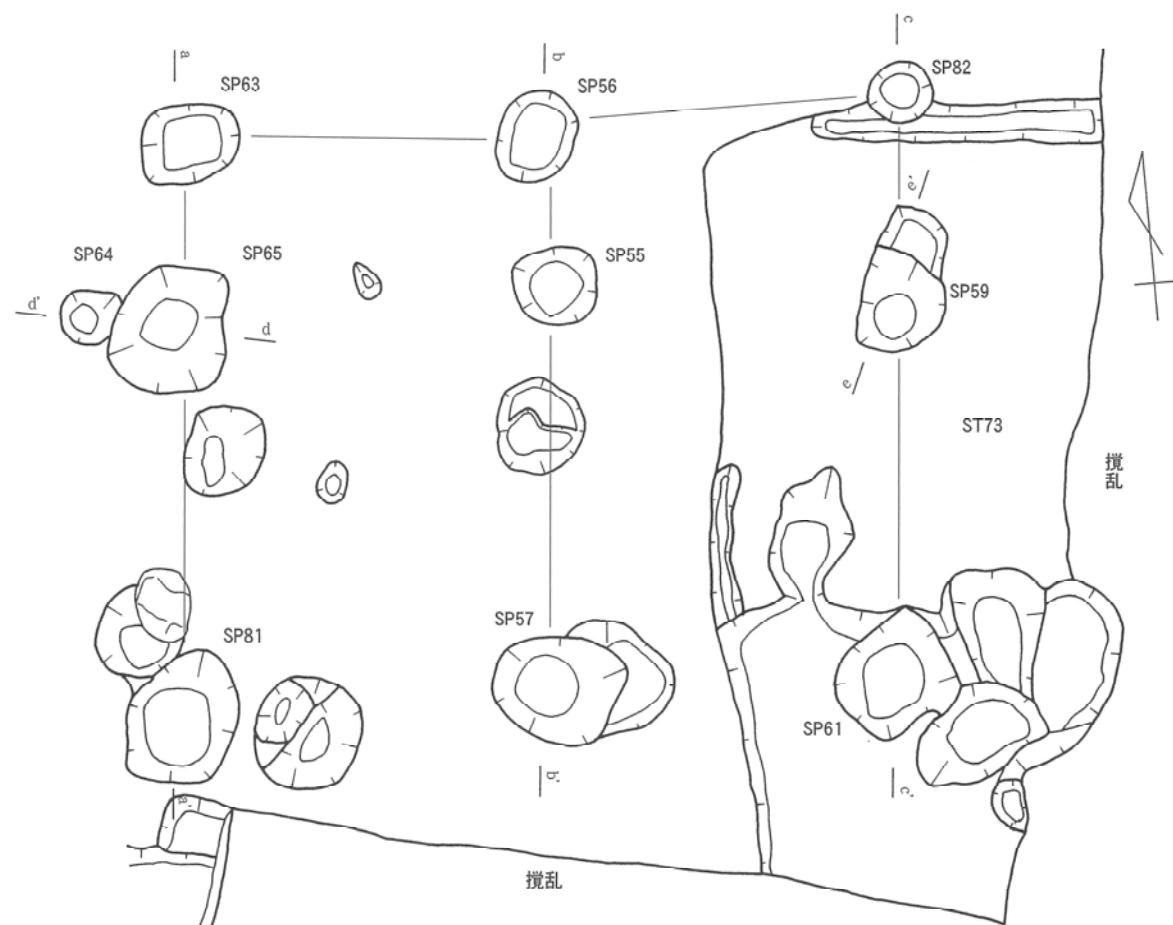
JON IV S X79出土遺物(3)

第166図



Jōnivsx79出土遺物(4)

第167図



J O N I V S B 80平面図・断面図

第168図

うな様相を呈する。

時 期 龍泉窯の製品から肥前系磁器の二重網目文碗に至るまで、出土遺物の生産年代の幅が広い。埋没した時期は、肥前系磁器の二重網目文碗から18世紀前半頃と考えられる。

J O N IVSSB80 (第168図)

特 徴 北に底を有する。南を搅乱に切られ全体像は不明である。ST73を切る。

出土遺物 なし。

時 期 不明である。

(4) 小結

古代の豊穴住居で検出されたカマドはすべて北カマドで、ソデは粘土で構築されているのが確認された。また、ST39のみ掘り方を有するが、他に確認できるものはすべて地山を直接床面としている。中世の溝であるSD33は、南に隣接する調査区のF T B SD6035・F T B III SD24・SD26とつながると推定され、方形館の周郭溝の可能性が高い。近世の遺構については、出土遺物は16世紀末～19世紀前半までと年代幅がある。他の調査区がおよそ17世紀半ば～後半を下限とするのに比べると、それ以降の生産年代を示す遺物が多い。J O N IVは近世半ば～後半まで、小規模ながら山形城三の丸の居住域が残っていた可能性が高い。

4 第5次調査 (J O N V)

(1) 遺跡の層序

遺跡の層序は大きく5層に区分された。現場段階でI～V層の基本層序を確認した(第171図)。I～II層までが表土及び耕作土である。III層(にぶい黄色細砂層)で近世以降の遺構面を、IV(灰褐色シルト層)～V層(黒色シルト層)(第171図「基本層序」IV・V層)で古代及び縄文の遺構面を確認した。

IV～V層における遺構の広がりは調査区の中央東側、C-4～C-7グリッド以東でのみ確認され、調査区全面には下層に文化層は広がらないことを確認した。

(2) 遺構と遺物の分布

本調査区では近世の土坑群や井戸跡群、縄文時代や平安時代の柱穴群を中心として多数の遺構・遺物が確認された。遺構と遺物の分布は調査区中央に特に集中して検出され、全体的に近年までの開発による搅乱が著しい様相であった。

本調査の前年度に、南側隣接地で発掘調査を実施(J O N IV)しており、古代及び近世の遺構・遺物群が数多く検出されている。市街地化に伴い開発の繰り返されてきた地区でもあり、概括的な傾向として、北側に向かうにつれて遺構・遺物の分布が希薄になり、搅乱が著しくなる状況であった。県道山形都市計画道路東原村木沢線南側に隣接する調査区北端区域においては特に近年の開発の痕跡が著しく、遺構・遺物の残存がほとんど確認できない状況にあり、埋蔵文化財調査は不要と判断された。

今回の調査においては、遺物は近世初頭の陶磁器・瓦類、古代の土師器・須恵器、縄文時代前期～晚期の土器群・石器がまとまって検出された。局所的ではあるが、近世地山層のIII層を除去した後、下層の遺物包含層を精査した下層から、縄文時代の柱穴とおぼしき柱穴群及び平安時代の豊穴住居跡痕跡が検出された。

それ以前の城南町遺跡の調査において、縄文時代の遺物は混入と判断される形で確認されていたが、今回

IV 城南町遺跡

の調査は城南町遺跡内における縄文時代に当該する遺構の初検出例となる。集落域としての中心は縄文時代後～晩期と考えられるが、後述するように出土状況が良好でなく、具体的な年代の比定は避けたい。

中世から近世以降の遺構はⅢ層（第171図）、縄文～平安時代の遺構はⅣ～V層にて確認された。遺物は大半が遺構内からの出土であり、全体で整理箱にして30箱出土した。以下、JONVの調査で検出された掲載遺構の概要について略述する。

（3）検出された遺構と遺物

①縄文時代

JONVSP114（第170・172・174図）

- 特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。5基前後のピットが切りあう。
出土遺物 縄文土器（1）が出土した。
時期 縄文時代後期～晩期中葉と推定される。

JONVSP116（第170・172図）

- 特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。SI179に切られる。
出土遺物 なし。
時期 縄文時代後期～晩期中葉と推定される。

JONVSP122（第170・172・174図）

- 特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。5基前後のピットが切りあう。
出土遺物 縄文土器深鉢体部片（SP122-1）が出土した。
時期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

JONVSP123（第170・172図）

- 特 徴 平面プランは、円形を呈する。4基前後のピットが切りあう。
出土遺物 なし。
時期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

JONVSP124（第170・172・174図）

- 特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。
出土遺物 縄文土器浅鉢口縁部片（SP124-1）が出土した。
時期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

JONVSP125（第170・172図）

- 特 徴 平面プランは、円形を呈する。複数のピットが切りあう。
出土遺物 なし。
時期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP126 (第170・172図)

特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。3基のピットが切りあう。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP127 (第170・172図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。7基前後のピットが切りあう。SI179に切られる。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP128 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。5基前後のピットが切りあう。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP129 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP130 (第170・173・174図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。2基のピットが切りあう。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP131 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。5基のピットが切りあう。SI179に切られる。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP132 (第170・172図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。4基のピットが切りあう。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP134 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。3基のピットが切りあう。

出土遺物 なし。

時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

IV 城南町遺跡

J O N VSP135 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。SP136に切られる。
出土遺物 なし。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP136 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。SP135を切る。
出土遺物 なし。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP137 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、不整円形を呈する。
出土遺物 なし。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP138 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。
出土遺物 なし。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP146 (第170・174図：図版87)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。
出土遺物 繩文土器深鉢 (SP146-1) が出土した。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP152 (第170・173図：図版84)

特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。4基前後のピットが切りあう。SP153を切る。
出土遺物 なし。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP153 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。複数のピットが切りあう。SP152に切られる。
出土遺物 なし。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP157 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。SP158を切る。
出土遺物 なし。
時 期 繩文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP158 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。SP157に切られる。

出土遺物 なし。

時 期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP159 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。SP160に切られる。

出土遺物 なし。

時 期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP160 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、円形を呈する。SP159を切る。SP161に切られる。

出土遺物 なし。

時 期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP161 (第170・173図)

特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。SP160を切る。

出土遺物 なし。

時 期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP170 (第170・174図)

特 徴 平面プランは、不整円形を呈する。

出土遺物 縄文土器深鉢体部片 (SP170-1) が出土した。

時 期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VSP204 (第185図：図版86)

特 徴 調査区南半にも、縄文・古代の包含層の広がりの有無を確認するため、C-6グリッドで断ち割りを行い、若干の遺物と遺構の広がりを確認した。検出面の層位は基本層序V層直下であり、北側調査区と同層位である。その中で、特に土器がまとまって出土したピットについてSP204として登録した。平面プランは、楕円形を呈する。

出土遺物 縄文土器浅鉢口縁部片(1)・深鉢体部片(2～4)が出土した。

時 期 縄文時代後期～晩期中葉が推定される。

J O N VRP480 (第175図：図版96)

特 徴 D-4グリッド地点において、縄文土器及び石器が集中して確認されたため、RP480として取上げた。

出土遺物 土師器(1)、縄文土器(2)～(7)、石器(8)～(9)が出土した。図化していないが、この他にも石器の剥片が多数出土している。

年 代 土師器(1)が出土しており、出土した縄文土器の年代幅も広い。包含層形成時、平安時代以降近世以前の時期に堆積したものと推定される。

IV 城南町遺跡

② 平安時代

J O N VSI179 (第176図 : 図版82・88)

特 徴 平面プランは、隅丸方形の竪穴住居跡である。断面観察では貼り床面などの層位は確認できなかった。北端で焼土が集中して検出されたが、炉やカマドなどの燃焼施設とは判断し難く、確認できなかった。

出土遺物 須恵器坏(1)・甕(3)が出土した。それ以外の出土遺物は縄文時代中～晚期の遺物が大半を占める。

年 代 (1)・(3)の年代、及び遺構の形状から9世紀代前半の年代が推定される。

J O N VSP115 (第176図)

特 徴 平面プランは、楕円形を呈する。SI179を切る。SI179との関連については判断できなかった。

出土遺物 縄文土器片 (SP115-1) が出土した。

時 期 遺構の切り合いから9世紀代前半の年代が推定される。

J O N VSP117 (第176図)

特 徴 平面プランは、不整円形を呈する。SI179を切る。SI179と関連するかどうかは判断できなかった。

出土遺物 なし。

時 期 遺構の切り合いから9世紀代前半の年代が推定される。

J O N VSK192 (第177図 : 図版82・86)

特 徴 平面プランは、不整形の土坑である。上層のSI179を精査した後にプランが検出された。SI179に切られ、覆土も類似しており、平安時代の土坑と推定される。

出土遺物 縄文土器 (SK192-1) が出土した。

時 期 縄文土器 (SK192-1) が出土しているが、覆土や遺構の形状から、平安時代の土坑と判断される。上層のSI179との関連性については不明である。

J O N VSX162 (第170・178～181図)

特 徴 平面プランは、不整形を呈して、IV層上面から西に向かって低く落ち込んでいく様相であった。自然地形の落ち込みの可能性も推定されたが、性格不明遺構として判断した。層位はI～III層に区分できた。基本層序のI～III層とは異なる層位となり、後述の包含層I～III層と対比させている。基本層序のIV層とI層、基本層序のV層とII層がそれぞれ同等の層位となり、III層はその下層の層位となる。

出土遺物 土師器・須恵器・縄文土器が各層位から大量に出土した。

時 期 出土遺物の概括的な傾向として、縄文時代の形式からは、後期前葉～晚期中葉の時期が推定される(表9)。土師器・須恵器については、底部ヘラ切り無調整の須恵器坏や、赤焼土器の底部糸切り有台坏が出土しており、8世紀末～9世紀前半の年代が推定される。中世以降の遺物は確認されなかつたため、平安時代以降に自然営力による堆積作用が起り、平安時代及び縄文時代の遺構を削平しながら、I～III層及び基本層序III層が堆積

したものと判断される。

包含層（第182～184図）

特　　徴 C-4・5グリッドにて、近世の遺構面（基本層序Ⅲ層）を掘り込んだ下層に、縄文時代及び平安時代の遺物を含む包含層が確認できた。そのため、この堆積層の確認できる範囲において掘下げを行い、遺物を取り上げた。包含層を精査した更に下層には、縄文時代及び平安時代の遺構が確認できた。それら遺構の詳細については前述のとおりである。

包含層の層位はI～Ⅲ層に区分できた。基本層序のI～Ⅲ層とは異なる層位となり、前述のSX162 I～Ⅲ層と類似するため対比させている。基本層序のIV層とI層、基本層序のV層とII層がそれぞれ同等の層位となり、Ⅲ層はその下層の層位となる。

出土遺物 土師器・須恵器・縄文土器が各層位から大量に出土した（第182～184図）。

時　　期 概括的な傾向として、縄文時代の形式から判断すると、後期前葉～晚期中葉の時期が推定される（表9）。土師器・須恵器は、古墳時代かと推定される器形不明の内黒土師器が出土している。更に底部ヘラ切り無調整の須恵器坏や、赤焼土器の底部糸切り有台坏が出土しており、これらは8世紀末～9世紀前半の年代観が推定される。中世以降の遺物は確認されなかったため、SX162と同様に、平安時代以降に自然営力による堆積作用が起り、平安時代及び縄文時代の遺構を削平しながら、I～Ⅲ層及び基本層序Ⅲ層が堆積して、この包含層が形成されたものと判断される。

③ 中世～近世

JONVSE95（第186図：図版82）

特　　徴 平面プランは不整円形を呈する素掘り井戸である。南側をSD101に切られる。両者が同時期に存在したかどうかは判然としない。

出土遺物 中国産磁器（1～2）・土師質壙（3）・凹み石状石製品（4）・縄文土器（5～6）が出土した。

時　　期 出土遺物や土層の堆積状況から、近世初頭の年代が推定される。

JONVSE96（第187～188図：図版82・85・90）

特　　徴 平面プランは円形を呈する石組み井戸である。SD99を切る。

出土遺物 中国産磁器（1～2）・瀬戸美濃焼皿（3～5）・肥前系陶器皿（6）が出土した。

時　　期 出土遺物や土層の堆積状況から、近世初頭の年代が推定される。

JONVSE194（第189図：図版83）

特　　徴 平面プランは、円形を呈する石組み井戸である。SK202・SK203の遺構を精査途中、SK20底面で確認した。よってSK203に切られる。

出土遺物 図化していないが、土師器の小片がわずかに出土した。

時　　期 覆土や遺構の形状から、近世の年代が推定される。

JONVSK84（第190～191図：図版82・85・89）

特　　徴 平面プランは、不整円形を呈する土坑である。土層観察を行ながら、1層と2層に分けて出土遺物を取り上げた。

IV 城南町遺跡

出土遺物 1層からは肥前系陶器皿(1・3)・瀬戸美濃系陶器皿(2)・硯(4)・砥石(5)・壁材(6)が、2層からは中国産磁器皿(1)・肥前系磁器皿(2)・瀬戸美濃系陶器向付(3)・肥前系陶器碗(4)・皿(9)・石鉢(6～7)などが出土した。

1層と2層の年代観は、遺物の様相から勘案して、大きな隔たりはないものと判断される。

時期 出土遺物や土層の状況から、近世初頭の年代が推定される。

JONVSK86 (第192図：図版85)

特徴 平面プランは、円形を呈する土坑である。

出土遺物 瀬戸美濃系陶器(1)のみ1点が出土した。

時期 (1)が出土しているが、覆土や遺構の形状から、年代は近世以降の新しい時期と判断される。詳細な時期は判然としない。

JONVSK92 (第193図：図版90)

特徴 平面プランは、不整円形を呈する土坑である。断面図は作成していない。

出土遺物 肥前系陶器皿(1～3)・碁石(4)他に須恵器・縄文土器が出土した。

時期 出土遺物や覆土の状況から、近世初頭の年代が推定される。

JONVSK97 (第194・195図：図版82・85・97)

特徴 平面プランは、長楕円形を呈する土坑である。深さも確認面から80cmを測る。1層中に大量の焼土・炭化物を含む。後述のSK111等と同様に、ゴミ捨て穴等の機能が推定されるが、整った形状をしており、素掘りの井戸等の目的で掘削した後、廃棄されたものであろうか。

出土遺物 中国産磁器(1)、肥前系陶器小型広口壺(2)、肥前系陶器皿(3・5)・碗(4)、瀬戸美濃系陶器皿(6)、燻し瓦(7・9)、砥石(8)、他に須恵器・縄文土器が出土した。

時期 出土遺物および覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

JONVSK98 (第208図)

特徴 平面プランは、円形を呈する土坑である。SD101に切られる。

出土遺物 なし。

時期 出土遺物や覆土の状況から、近世初頭の年代が推定される。

JONVSK100 (第196図：図版83)

特徴 平面プランは、不整の長楕円形を呈する土坑である。SK103・SK104に切られる。

出土遺物 肥前系陶器皿(1～2)、瀬戸美濃系陶器天目茶碗(4)、かわらけ(3)、須恵器系陶器壺(5)、不明石製品(6)、硯(7)が出土した。縄文晩期の土器(8)も出土している。

時期 出土遺物や覆土の状況から、近世初頭の年代が推定される。

JONVSK103 (第196・197図：図版83)

特徴 平面プランは、不整円形を呈する土坑である。SK100を切る。

出土遺物 肥前系陶器皿(1)、かわらけ(2~3)、不明瓦質製品(4)、須恵器(5~6)が出土した。
時 期 出土遺物や覆土の状況から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSK104 (第196・197図 : 図版83)

特 徴 平面プランは、不整円形を呈する土坑である。SK100を切る。

出土遺物 肥前系磁器碗(1)、肥前系陶器碗(2)・皿(3)が出土した。

年 代 出土遺物や覆土の状況から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSK110 (第199図 : 図版85)

特 徴 平面プランは、不整形を呈する土坑である。

出土遺物 瀬戸美濃系陶器(1)、かわらけ(2)が出土した。

年 代 出土遺物の年代観は近世初頭だが、覆土や遺構の形状から、近世以降の新しい年代が推定される。

J O N VSK111 (第199~202図 : 図版83)

特 徴 平面プランは、複数の不整形の長軸1.5m前後の規模を測る土坑が東西にアトランダムに切り合っている様相が検出された。後述のSK193も同様の形状を呈すが、切り合いかから判断してSK111より新しい様相が窺えた。各土層中に大量の焼土・炭化物・壁材を含み、粒度の大きなブロックで土砂が堆積している様相であった。廃棄のための土坑であると推測される。

出土遺物 漳州窯系磁器(1~6)、肥前系磁器碗(7)、肥前系陶器皿(8~9)、白磁碗(15)、越前系陶器(35)、大量の燻し瓦及び瓦質製品(16~24) が出土した。

時 期 出土遺物や土層の堆積状況から、近世初頭と推定される。

J O N VSK193 (第199・203図 : 図版92)

形 態 平面プランは、SK111同様に複数の不整形の長軸1.5m前後の規模を測る土坑がアトランダムに切り合っている様相であった。上層の切り合い等から、現場の調査段階ではSK111とほとんど時間差はないものの、やや新しい様相が窺えた。

SK111同様、廃棄のための土坑と推定すると、土砂や遺物の堆積期間は極めて短いスパンであったと想定される。そのため、他の井戸や溝に比べて近世初頭の時期に該当し得る可能性がより高いものと判断される。

出土遺物 景徳鎮窯製品(1~3)、瀬戸美濃系陶器(4~8)、燻し瓦(12)等が出土した。

時 期 出土遺物や土層の堆積状況から、近世初頭と推定される。

J O N VSK119 (第206図)

特 徴 平面プランは、不整形を呈する土坑である。

出土遺物 なし。

時 期 覆土や遺構の形状から、近世の年代が推定される。

IV 城南町遺跡

J O N VSK168 (第204図 : 図版86)

- 特 徴** 平面プランは、円形を呈する土坑である。断面記録は作成していない。
出土遺物 須恵器甕(1~2)が出土した。
時 期 出土遺物は古代のものが出土しているが、覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSK199 (第205図 : 図版86)

- 特 徴** 平面プランは、円形を呈する土坑である。断面記録は作成していない。
出土遺物 肥前系陶器碗(1)・円盤状度製品(2)・不明石製品(3)が出土した。
時 期 出土遺物及び覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSK202 (第189図 : 図版83)

- 特 徴** 平面プランは、不整形の土坑である。SK203を切る。
出土遺物 なし。
時 期 覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSK203 (第189図 : 図版83)

- 特 徴** 平面プランは、不整方形の土坑である。SK202に切られ、SE194を切る。
出土遺物 なし。
時 期 覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSD99 (第207図 : 図版86)

- 特 徴** 平面プランは、東西に蛇行して流れる溝である。SE96に切られる。近現代の搅乱が著しい。
出土遺物 磁器碗(1)、肥前系陶器皿(2)、壁材(3)、かわらけ(4)が出土した。
時 期 出土遺物および覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSD101 (第208図 : 図版93)

- 特 徴** 平面プランは、北東より南西に直行して流れる溝である。断面観察からは、SK98を切る様相であった。
出土遺物 肥前系磁器碗(1)、かわらけ(2)、土師器(3)が出土した。
時 期 出土遺物及び覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSD141 (第209図 : 図版93)

- 特 徴** 平面プランは、東西に緩やかに湾曲しながら流れる溝である。調査期間の制約上、完掘できていない。
出土遺物 不明磁器(1~2)、土師器・須恵器が出土した。
時 期 出土遺物には当該するものはないが、覆土や遺構の形状及び他の遺構と比較して、近世初頭の年代が推定される。(1)・(2)は近代まで遡り得ると考えられ、上層からの混入と考えられる。

J O N VSD183 (第210図 : 図版83・93)

特 徴 平面プランは、東西に直行して流れる溝である。近現代の搅乱が著しい。

出土遺物 中国産磁器(1)、肥前系磁器(2~4・8)、肥前系陶器(5~6)、須恵器系陶器(7)、かわらけ(9~10)、燻し瓦(11)、不明石製品(12)、不明磁器(16)、碍子(17)、他に須恵器・土師器等が出土した。

時 期 近世に帰属する遺物が多量に出土している。具体的な年代は比定できないが、覆土や遺構の形状から、近世～近代の年代が推定される。

J O N VSP106 (第204図 : 図版84)

特 徴 平面プランは、円形を呈する柱穴である。平たい礫を礎石に据えている。周辺に類似の柱穴は確認されず、掘立柱建物跡を構成する柱穴と考えられるが、上部の建物構造、及び関連する柱穴は不明である。

出土遺物 なし。

時 期 覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSP118 (第206図 : 図版86)

特 徴 平面プランは、円形を呈する柱穴である。

出土遺物 瀬戸美濃系陶器皿(1)、肥前系陶器皿(2)が出土した。

時 期 出土遺物より、近世初頭の年代が推定される。

J O N VSP121 (第206図)

形 態 平面プランは、橢円形を呈するピットである。

出土遺物 肥前系陶器皿(1)が出土した。

時 期 出土遺物及び覆土や遺構の形状から、近世初頭の年代が推定される。

確認面出土遺物 (第211図 : 図版87)

A-12確認面で出土した遺物について掲載した。面整理段階で植木鉢(3)他、個別に確認面段階での出土遺物として取り上げ、掲載した。(1)は石製品の砥石、(2)は燻し瓦の平瓦、(3)は近世～近代にかけてのものと推定される瓦質植木鉢である。

(4) 小結

城南町遺跡第5次調査 (J O N V) 区では、大きく分けて4時期の遺構・遺物が確認された。

①縄文時代後～晩期のピット群と、縄文土器・石器

②平安時代の竪穴住居・柱穴と、土師器・須恵器

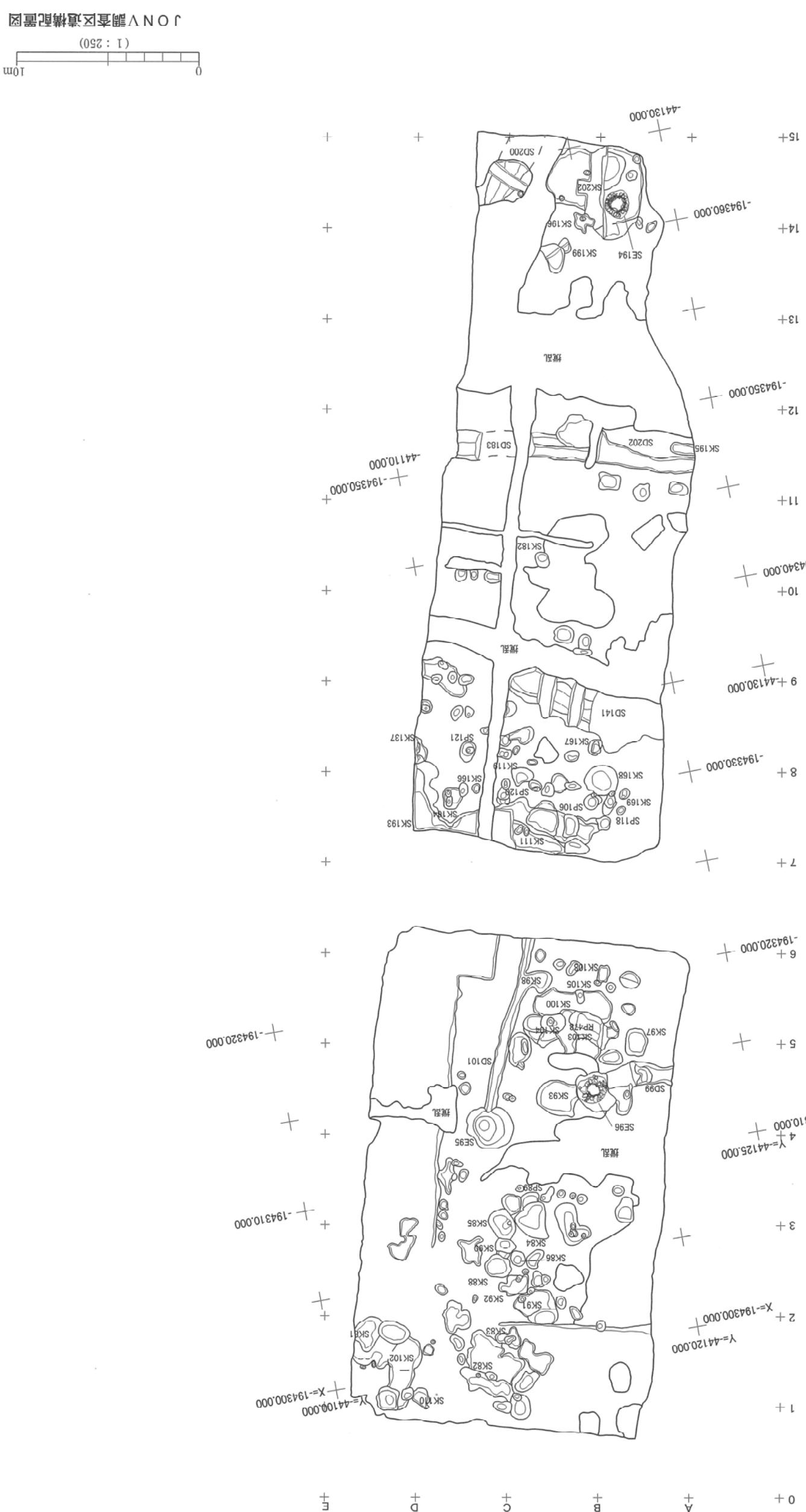
③近世初頭の土坑群・井戸跡及び溝跡と、瀬戸美濃系陶磁器・肥前系陶磁器・中国産磁器

④近世～近代と考えられる溝跡

である。

まず、①について概略を述べる。出土した土器群の様相は、縄文時代後期前葉及び晩期中葉の2つの時期に主体を成すものであった。大半がピットからの出土ではなく、包含層やSX162遺構覆土中からの出土であった。土器群の分類については(財)山形県埋蔵文化財センター 小林圭一氏・水戸部秀樹氏の両者より多大

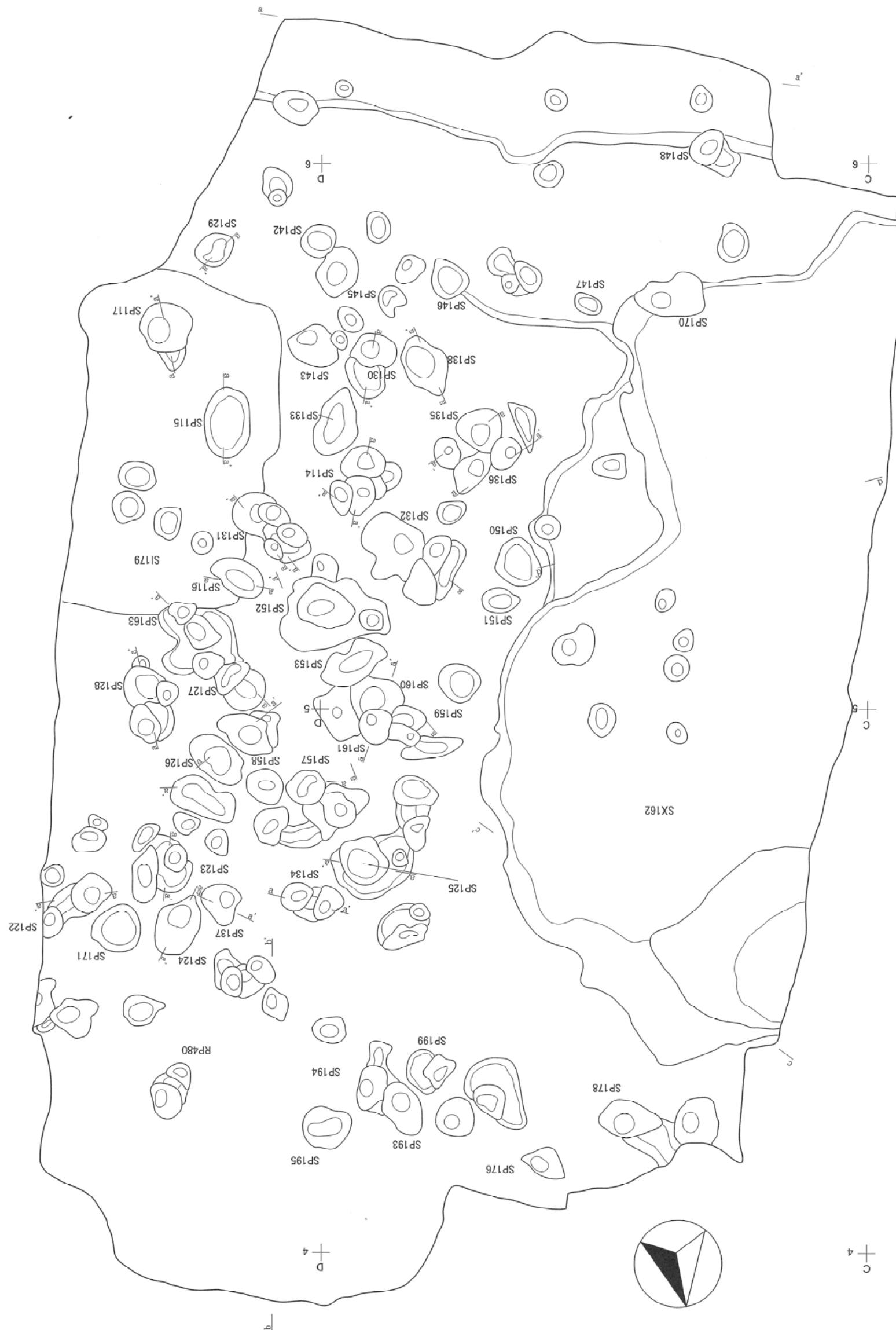
第169図

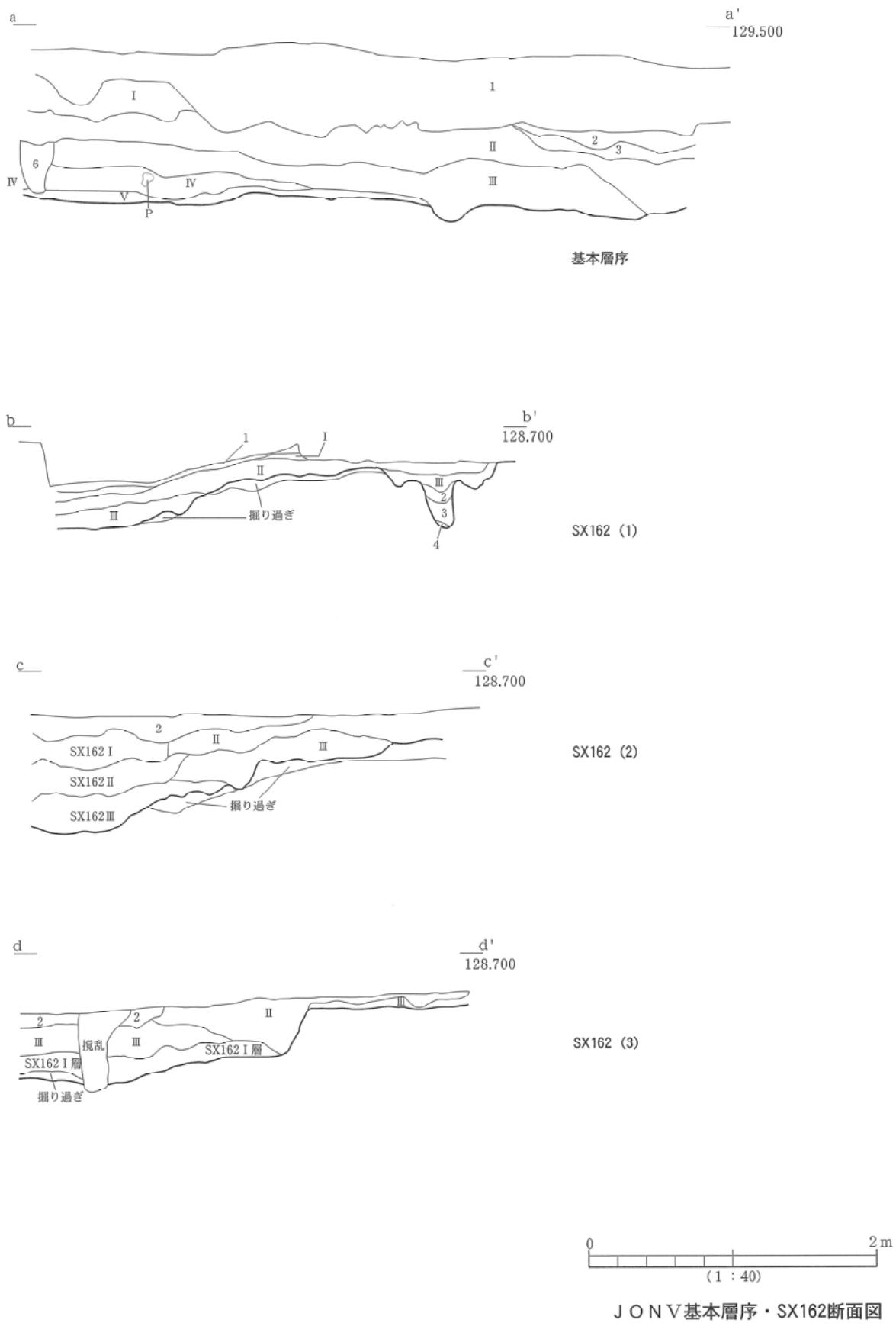


第170図

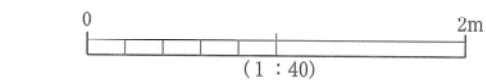
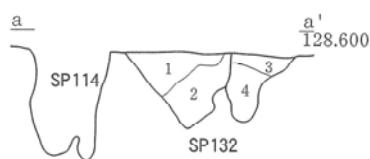
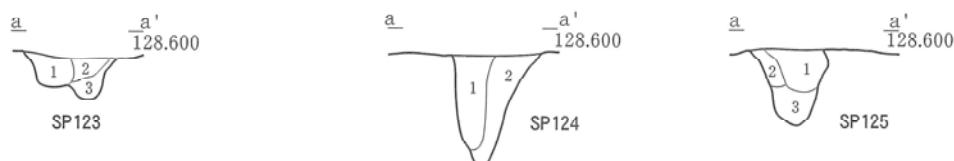
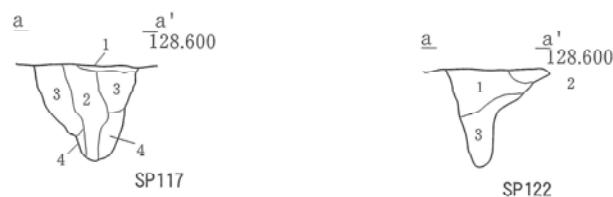
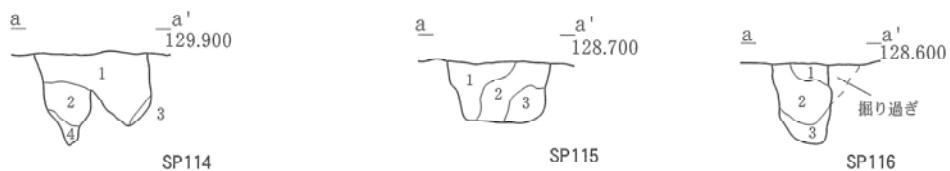
JONVT層面 遺構配置図

(I : 40)
0
2m



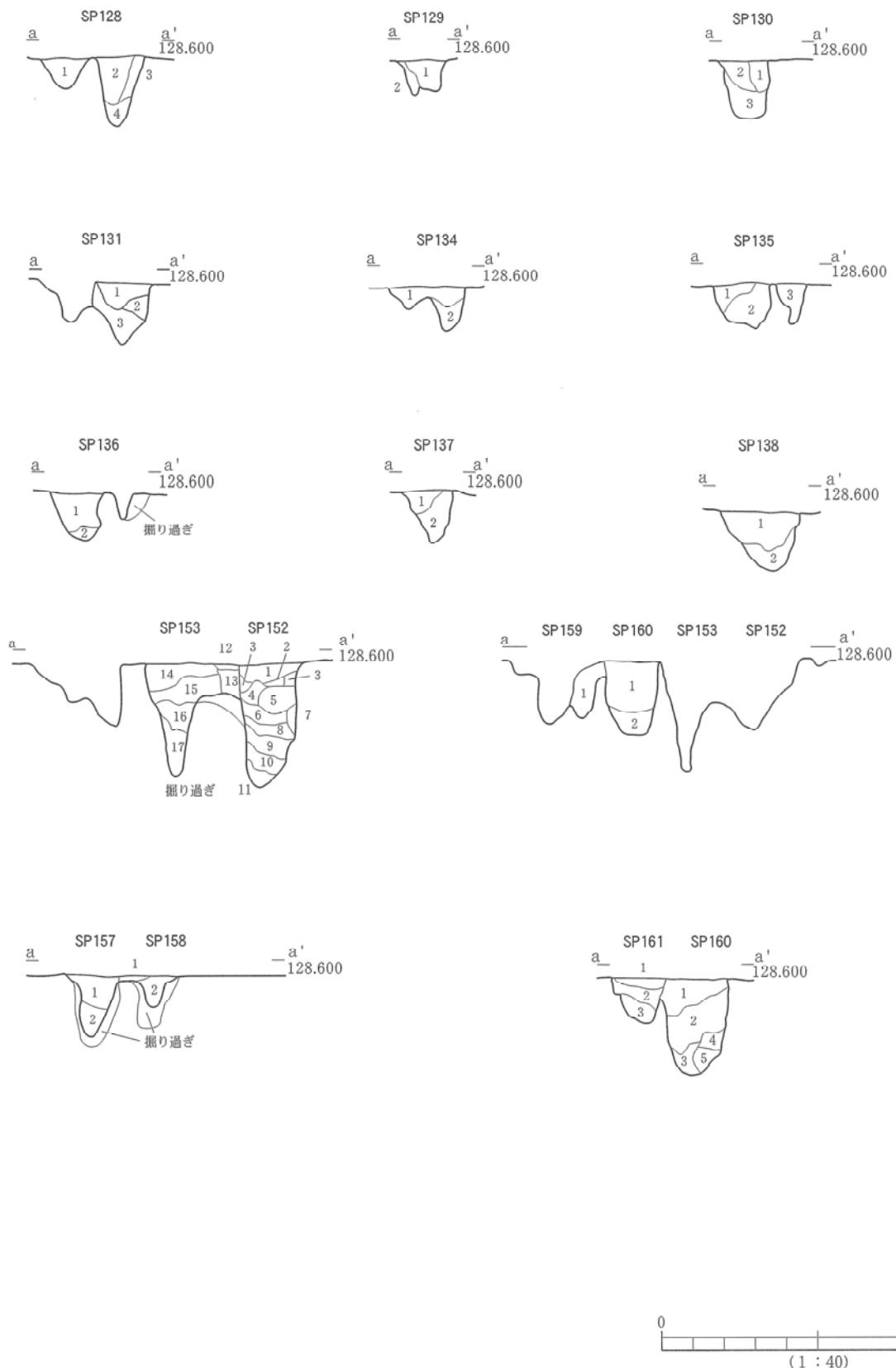


IV 城南町遺跡



J O N V SP114 · SP116 · SP117 · SP122 · SP123 · SP124 · SP125 · SP126 · SP127 · SP132 断面図

第172図

J O N V SP128 · SP129 · SP130 · SP131 · SP134 · SP135 · SP136 · SP137 · SP138 ·
SP152 · SP153 · SP157 · SP158 · SP159 · SP160 · SP161断面図

第173図



JONVSP114-1



JONVSP115-1



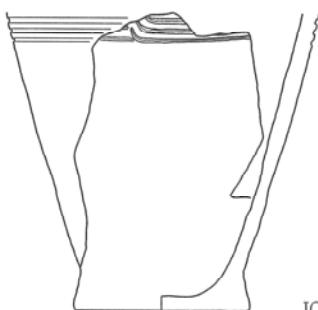
JONVSP122-1



JONVSP124-1



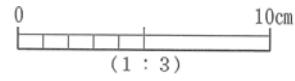
JONVSP130-1



JONVSP146-1

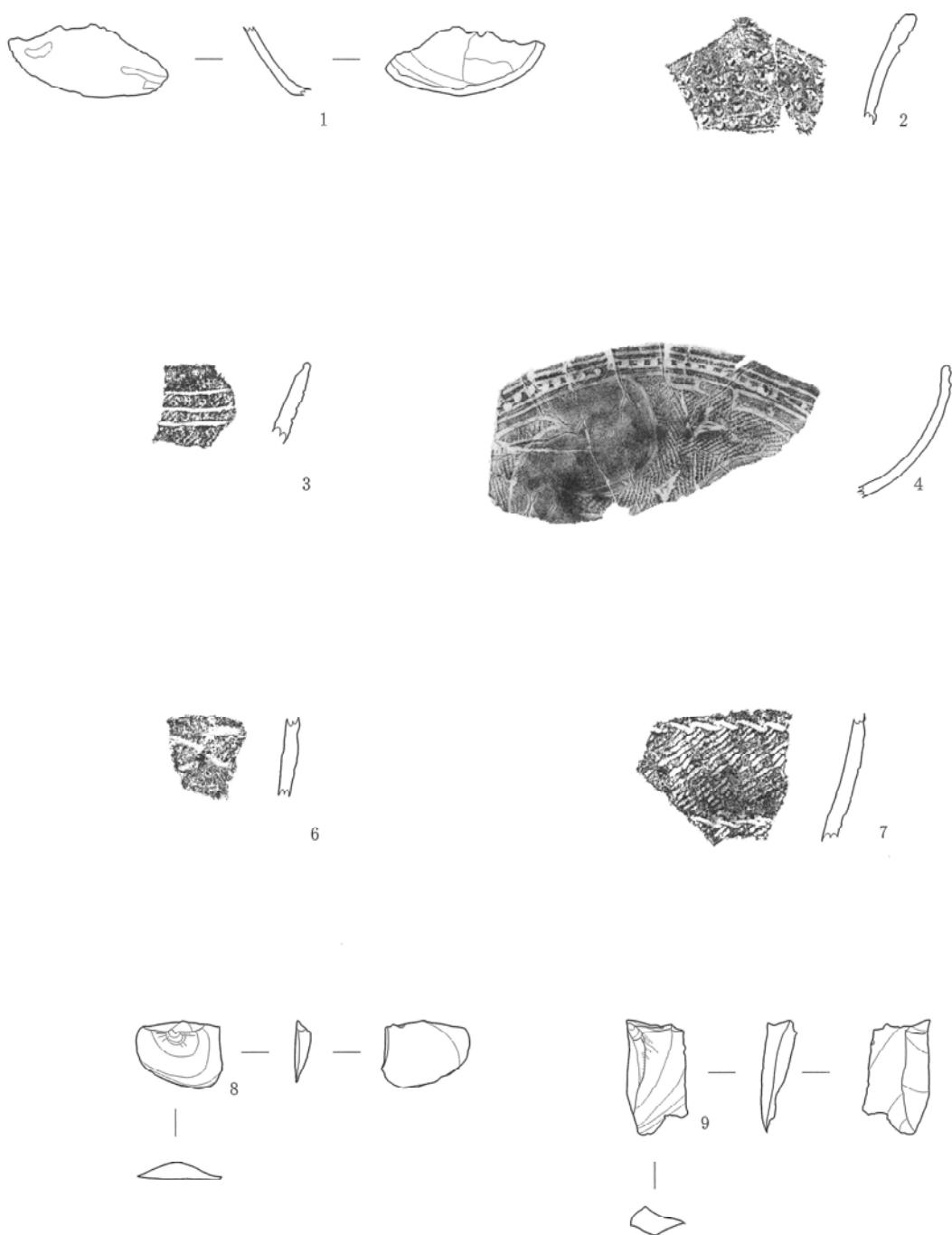


JONVSP170-1



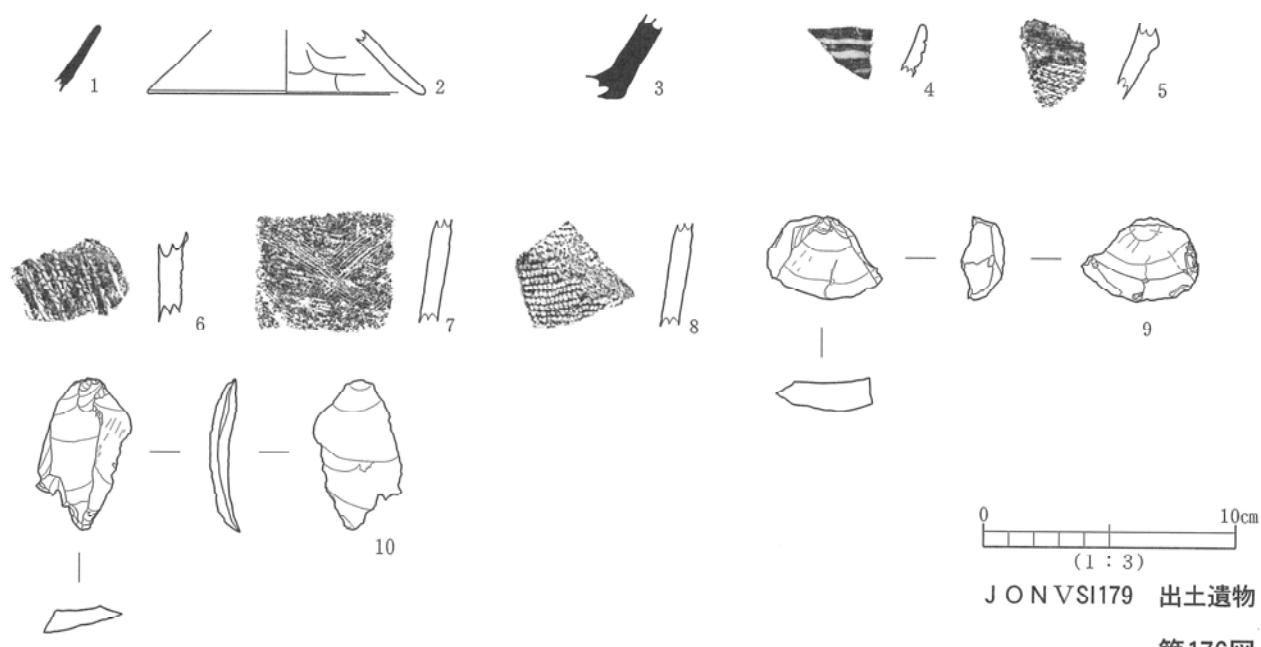
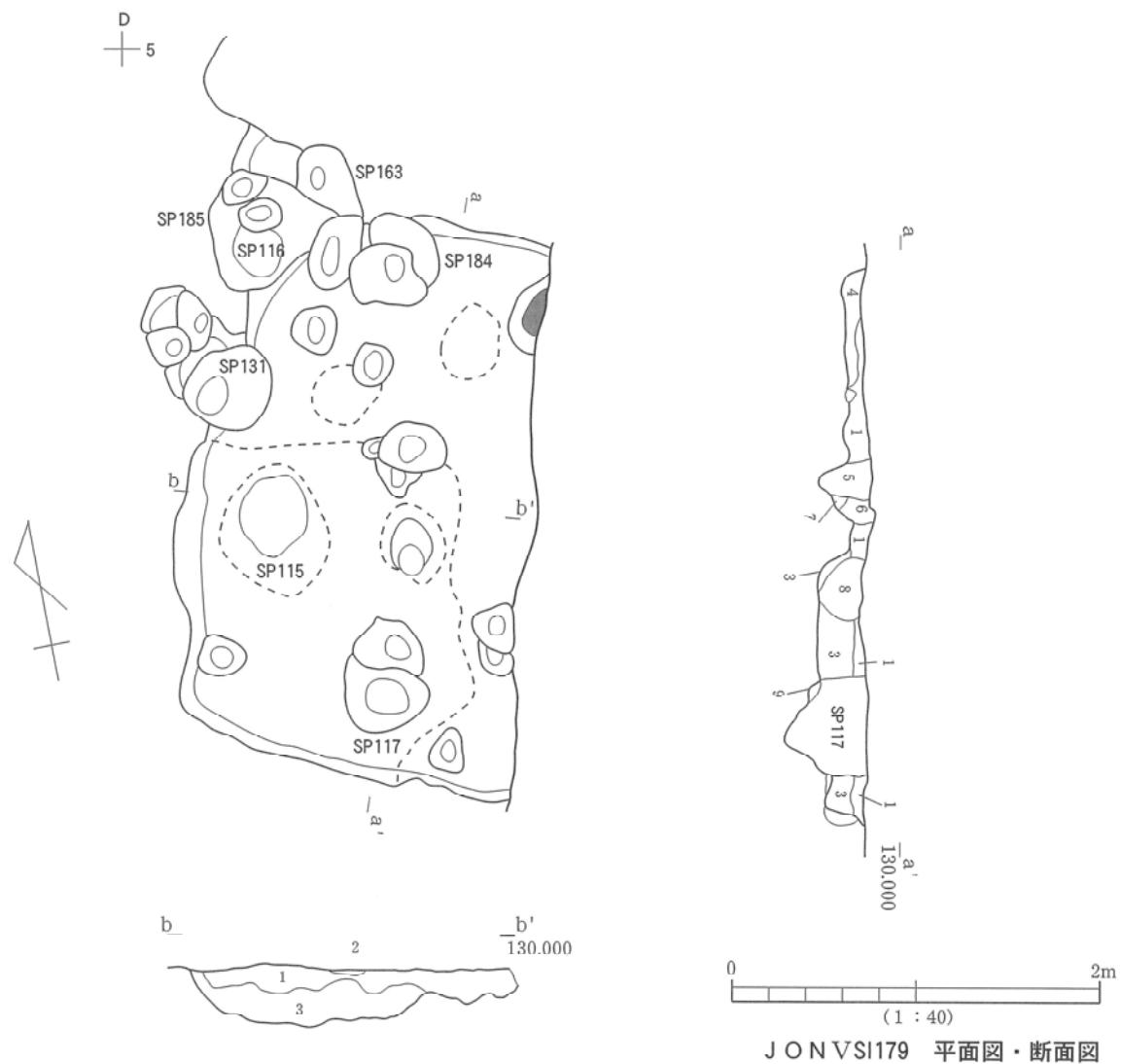
JONVSP114・SP115・SP122・SP124・SP130・SP146・SP170 出土遺物

第174図

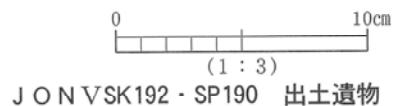
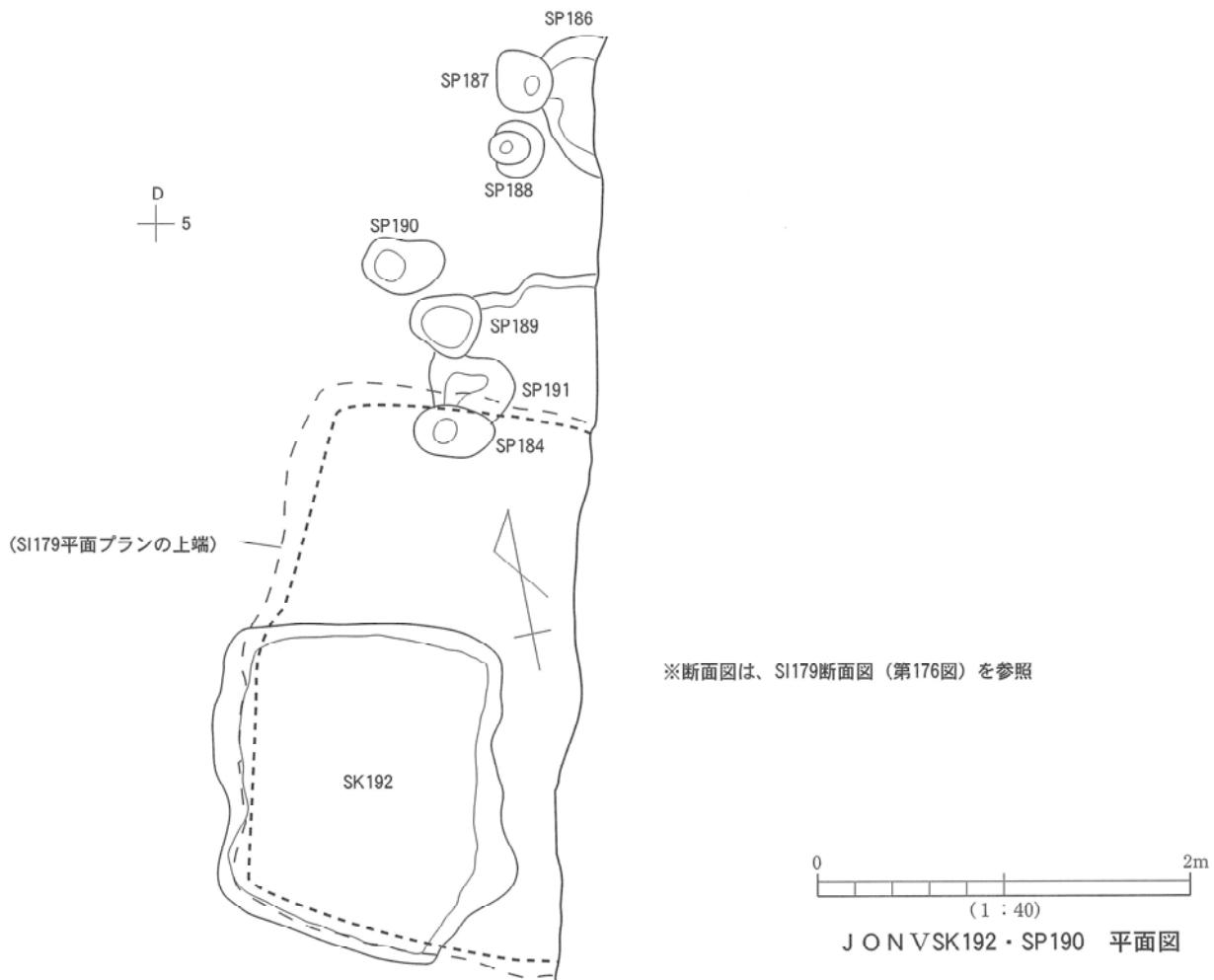


0 10cm
(1 : 3)
J O N VRP480 出土遺物

第175図

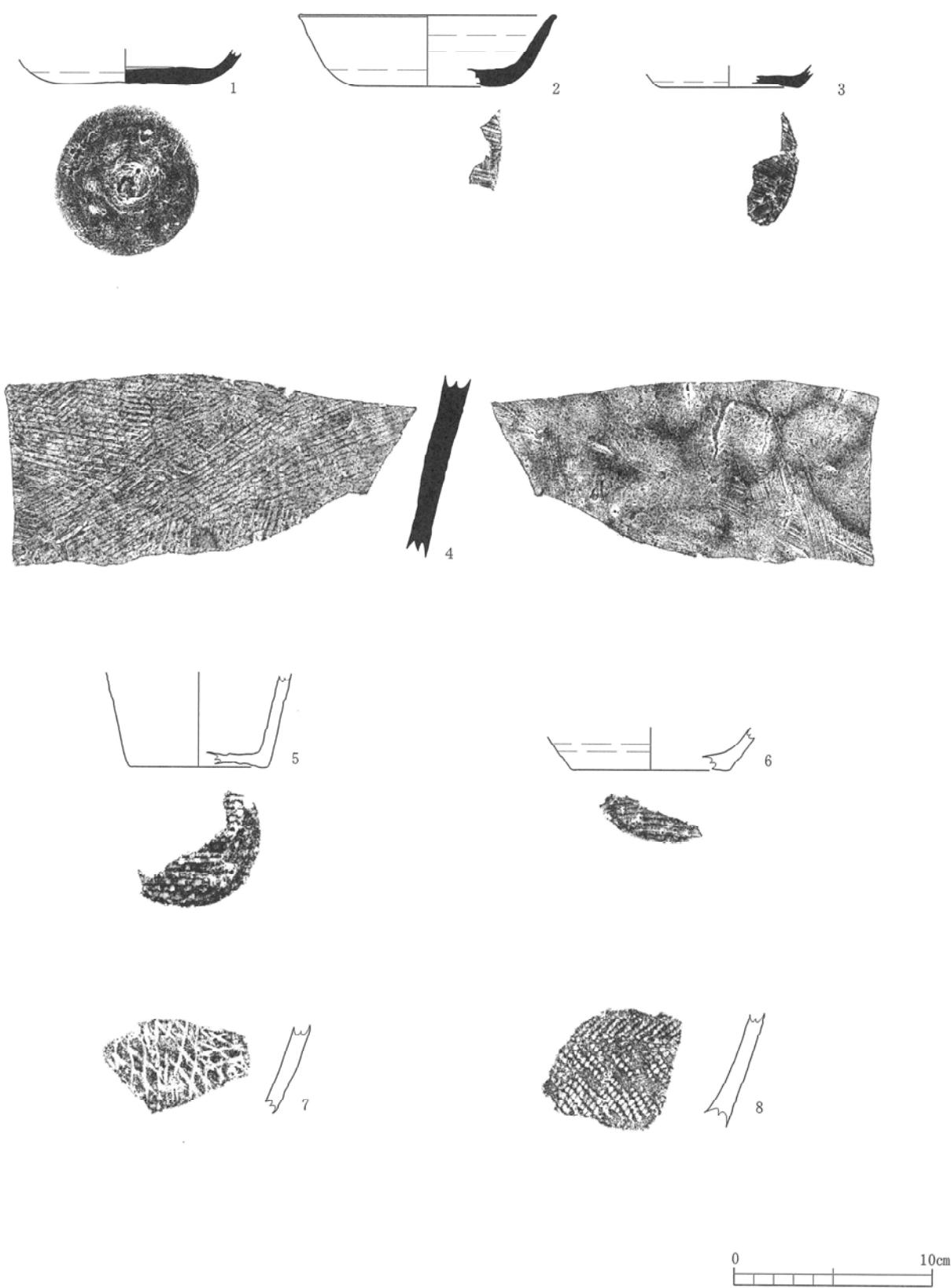


第176図

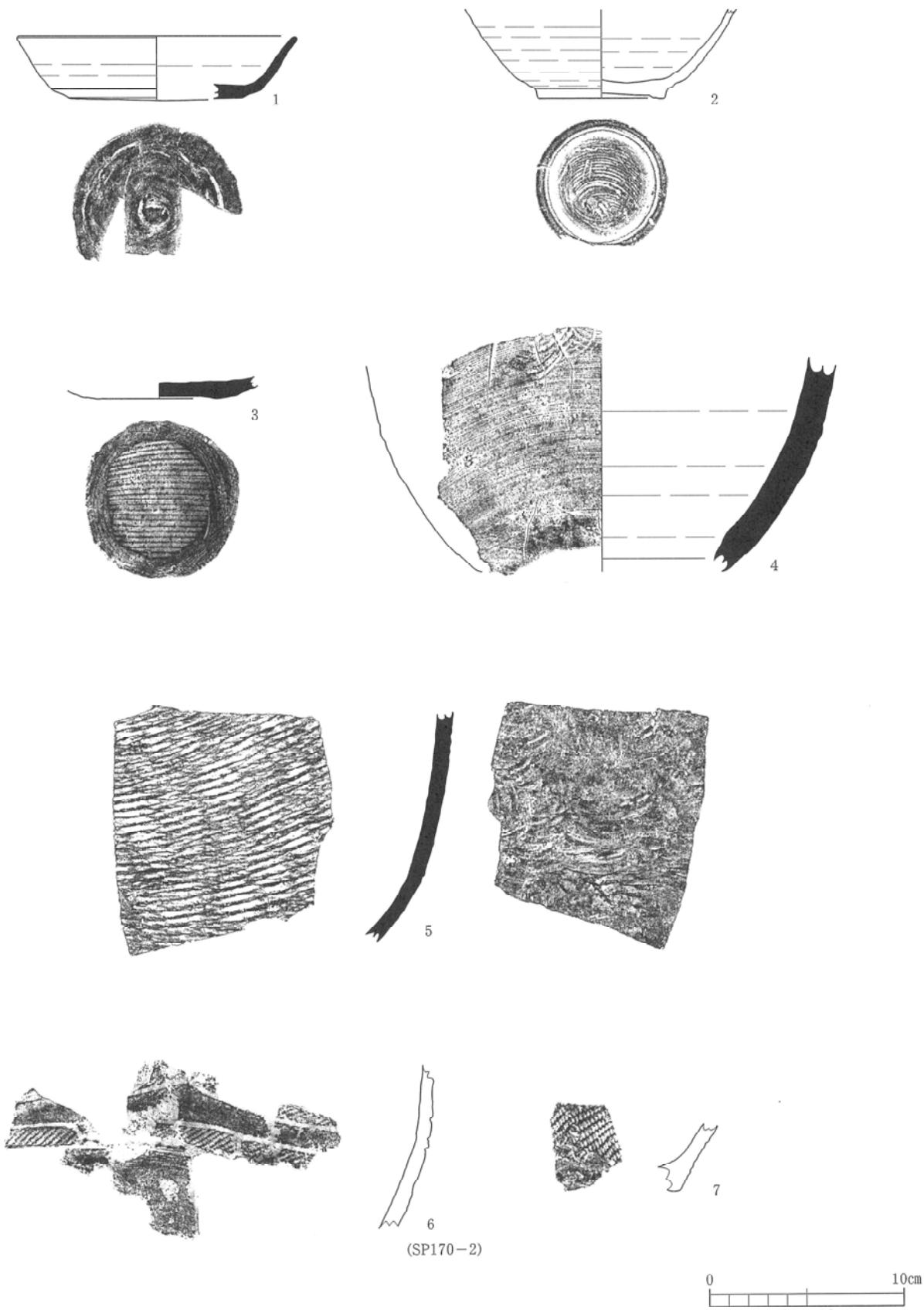


JON VSK192 - SP190 出土遺物

第177図



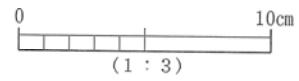
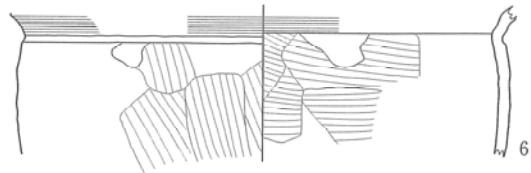
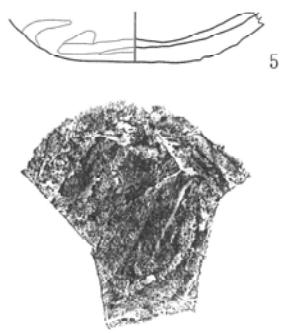
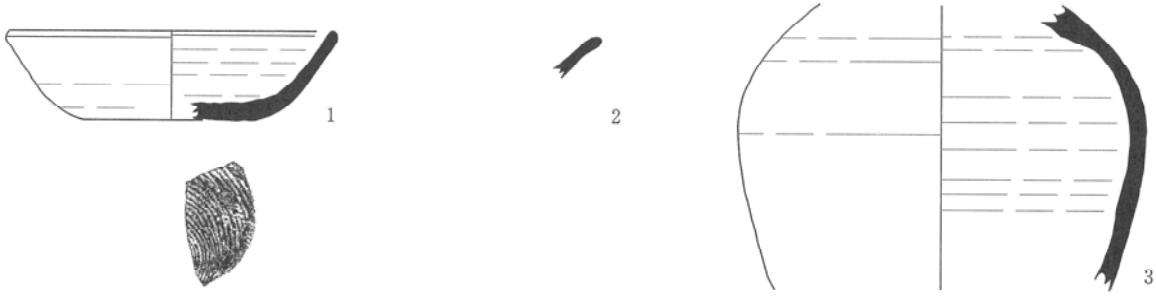
JON VSX162 I層 出土遺物
第178図



JON VSX162 II層 出土遺物

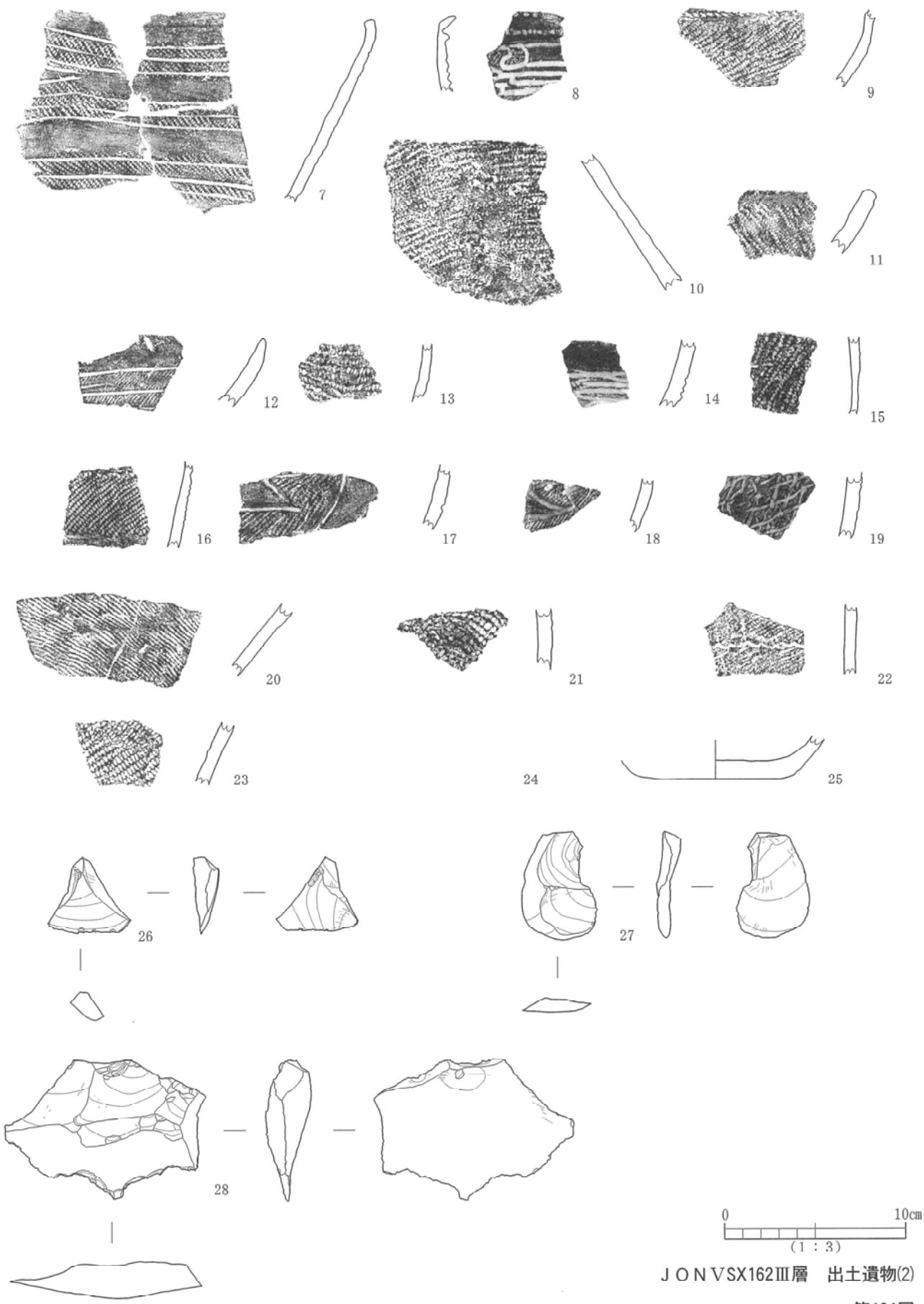
第179図

IV 城南町遺跡



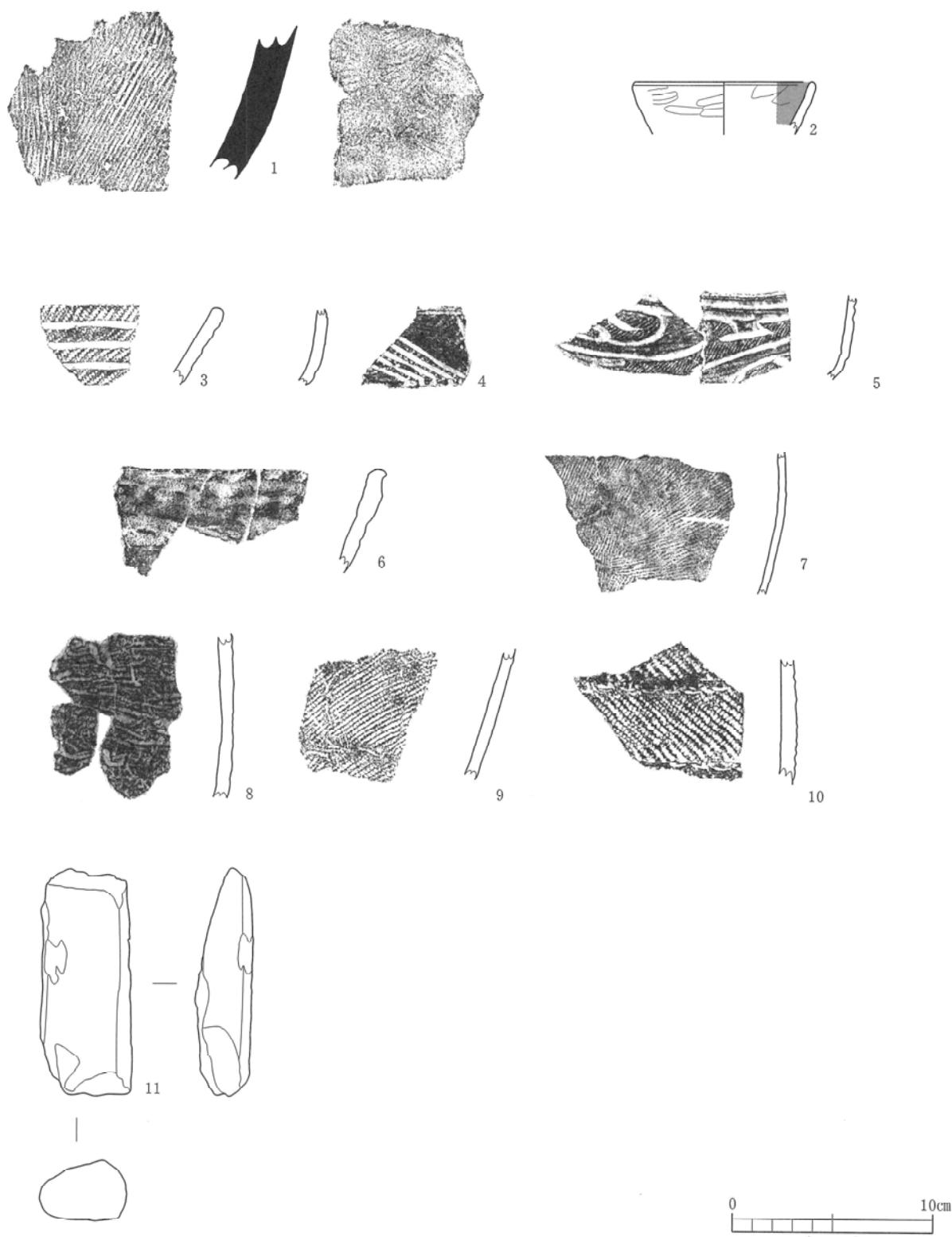
J O N V S X 162 III層 出土遺物(1)

第180図



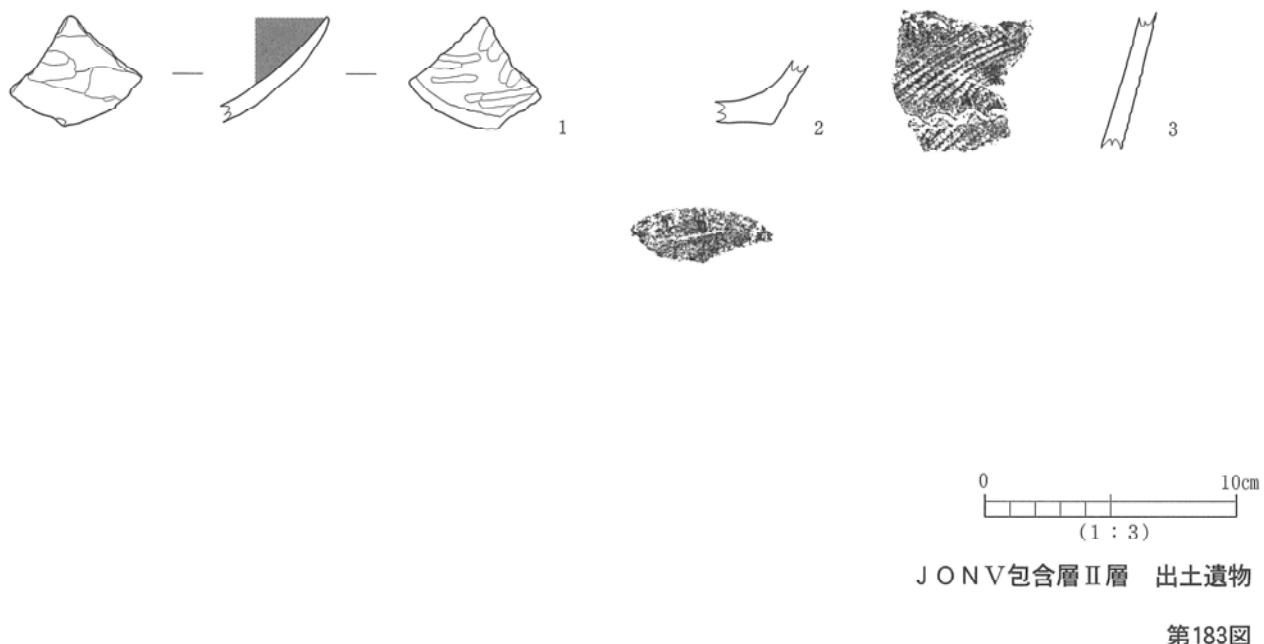
JON VSX162 III層 出土遺物(2)

第181図



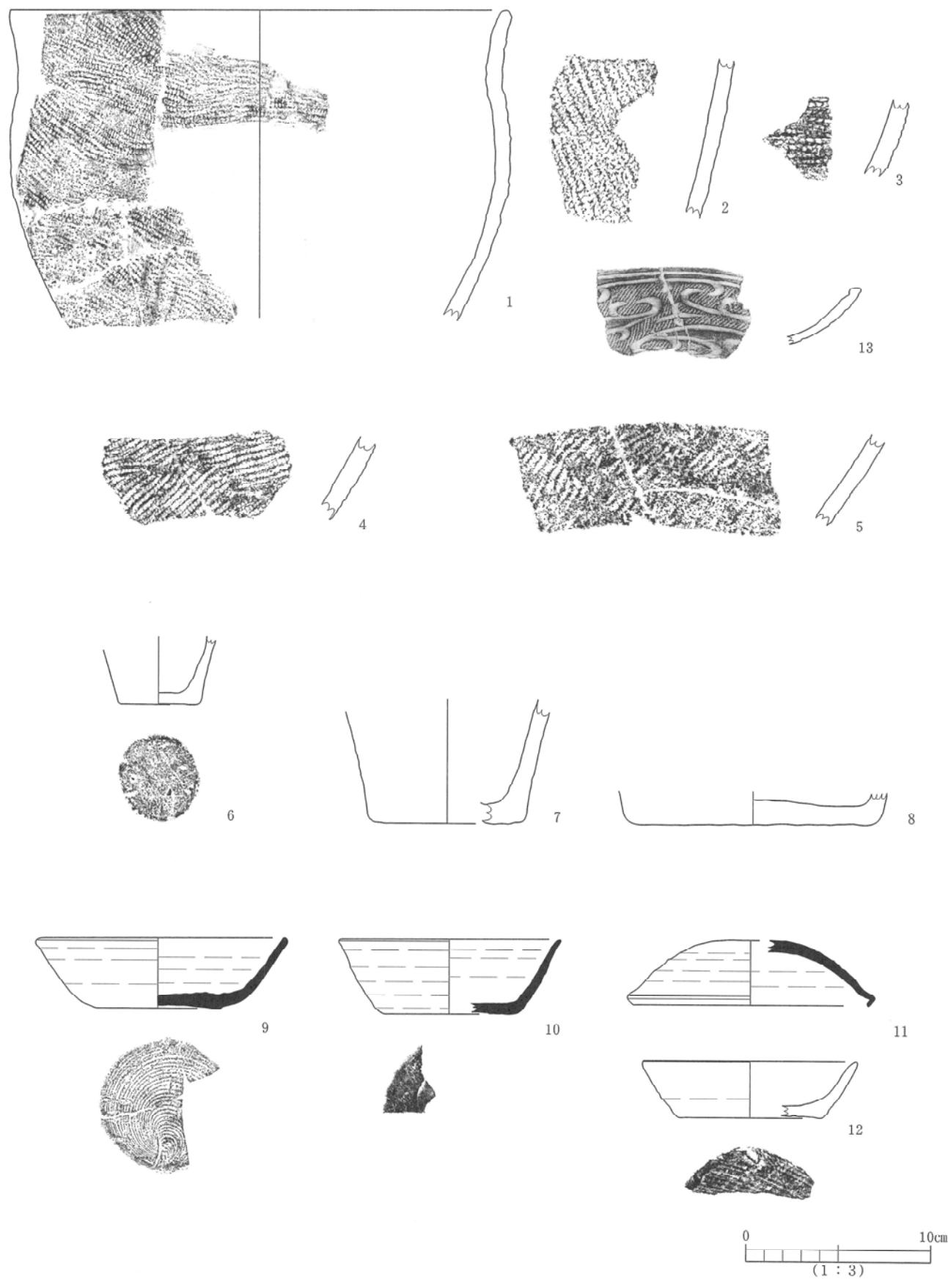
JONV包含層I層 出土遺物

第182図



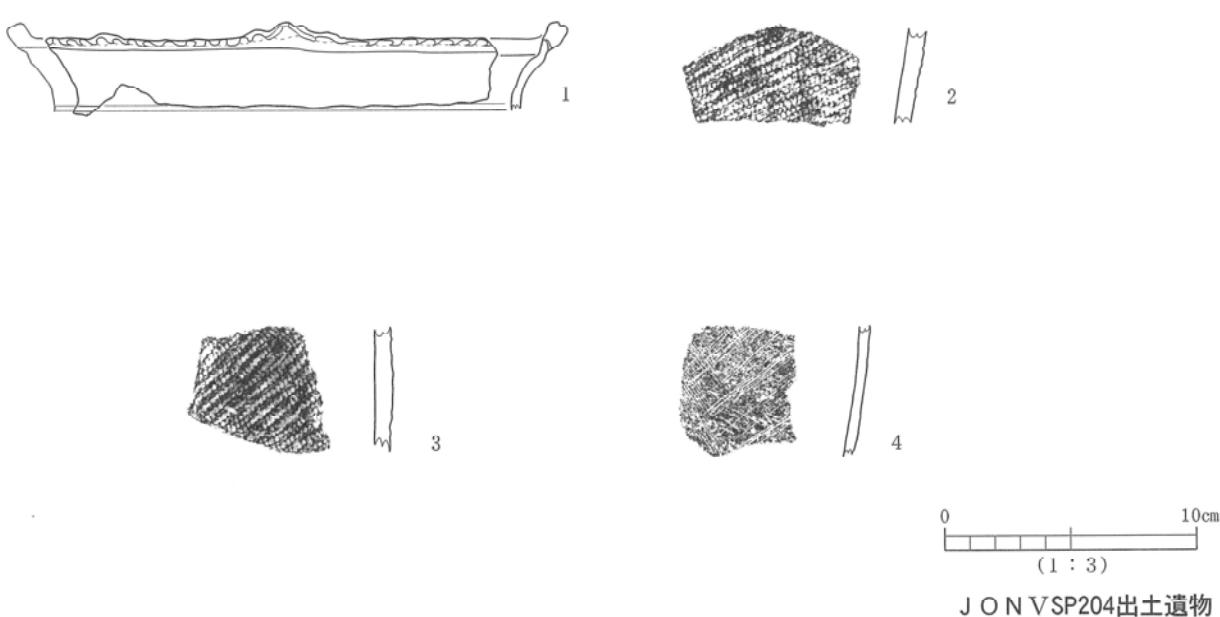
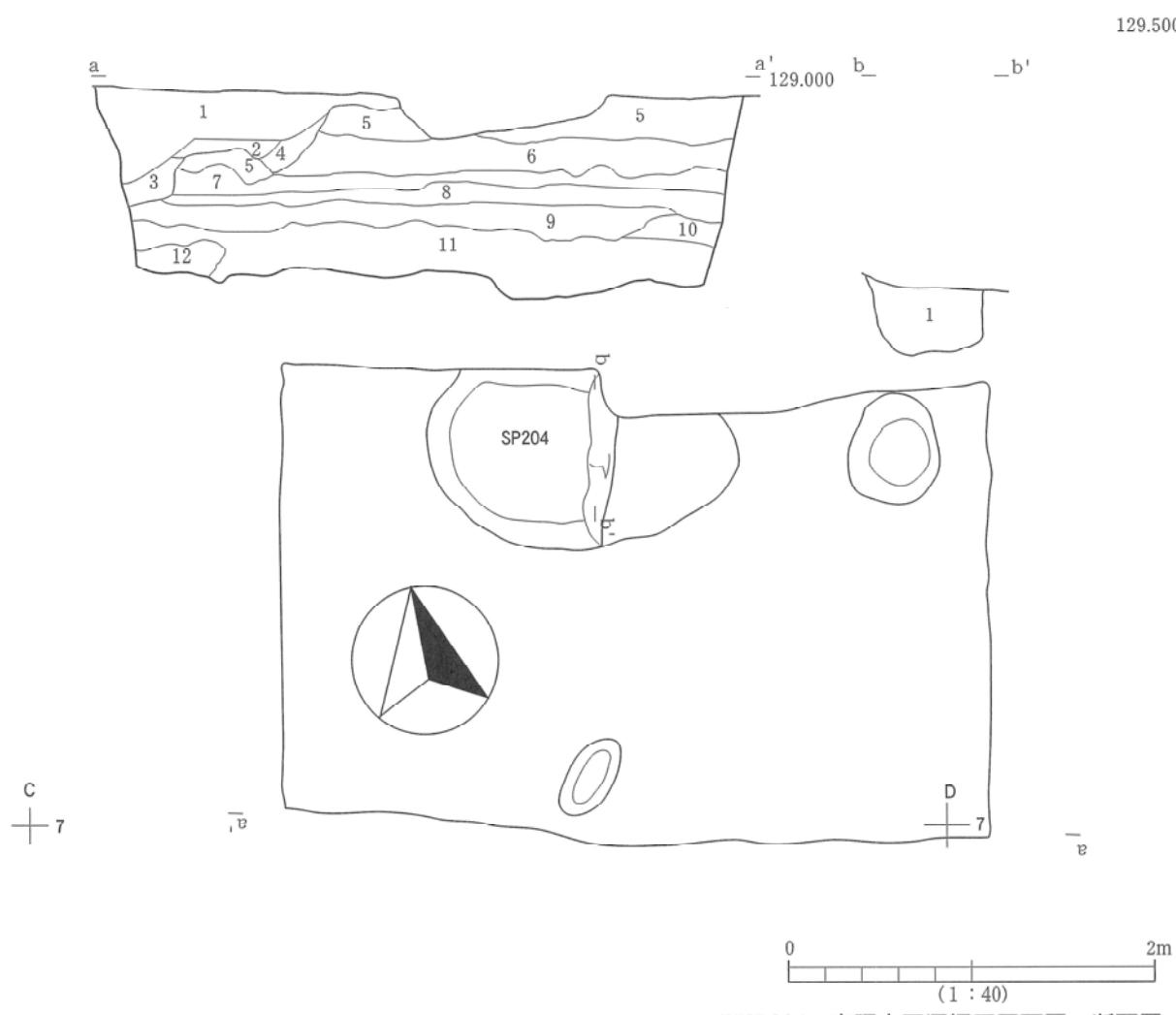
JONV包含層Ⅱ層 出土遺物

第183図



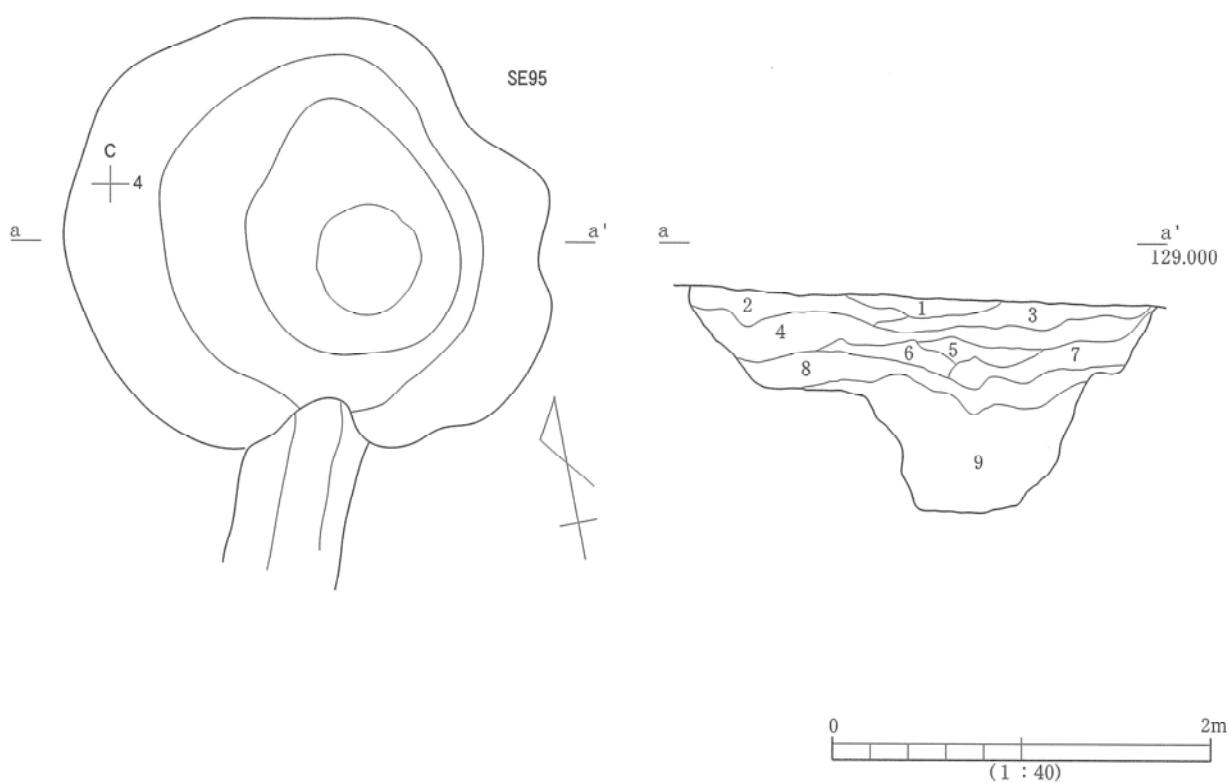
JONV包含層Ⅲ層 出土遺物

第184図

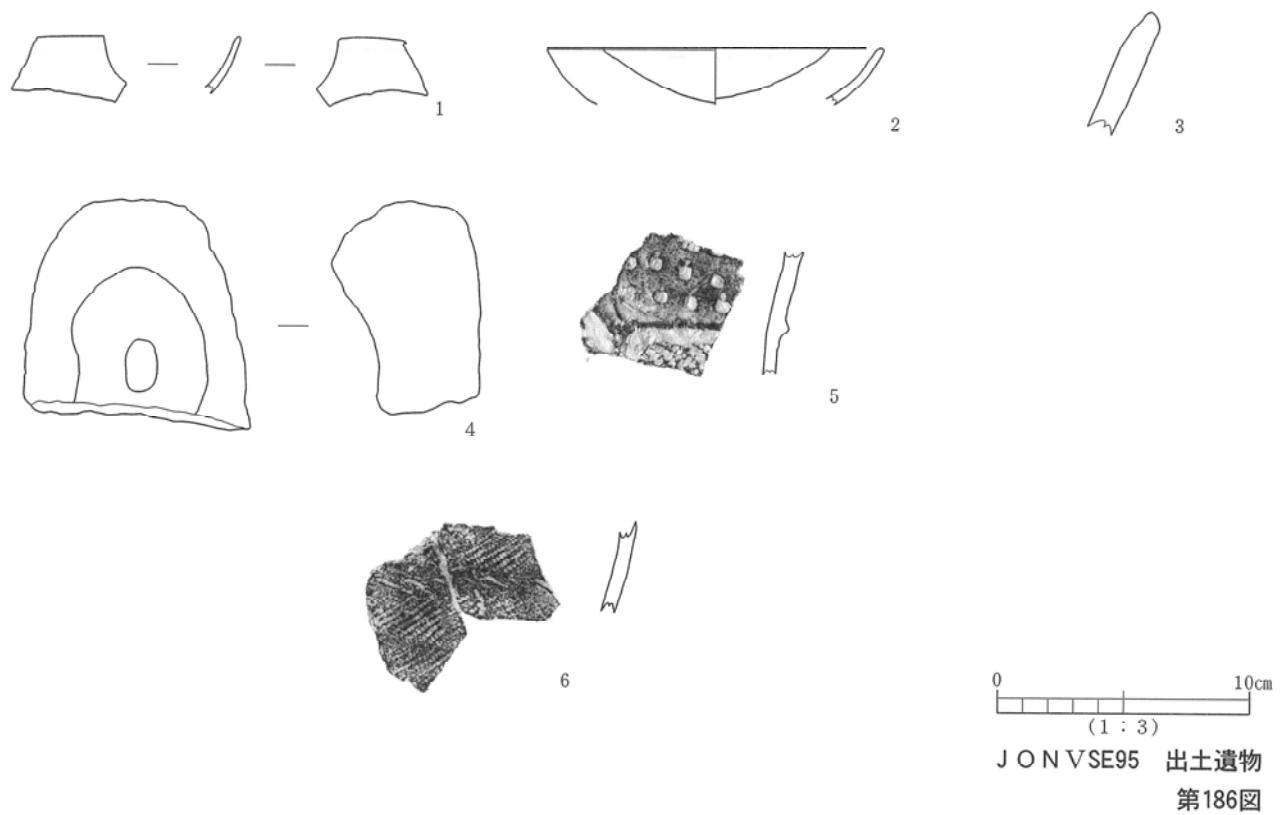


第185図

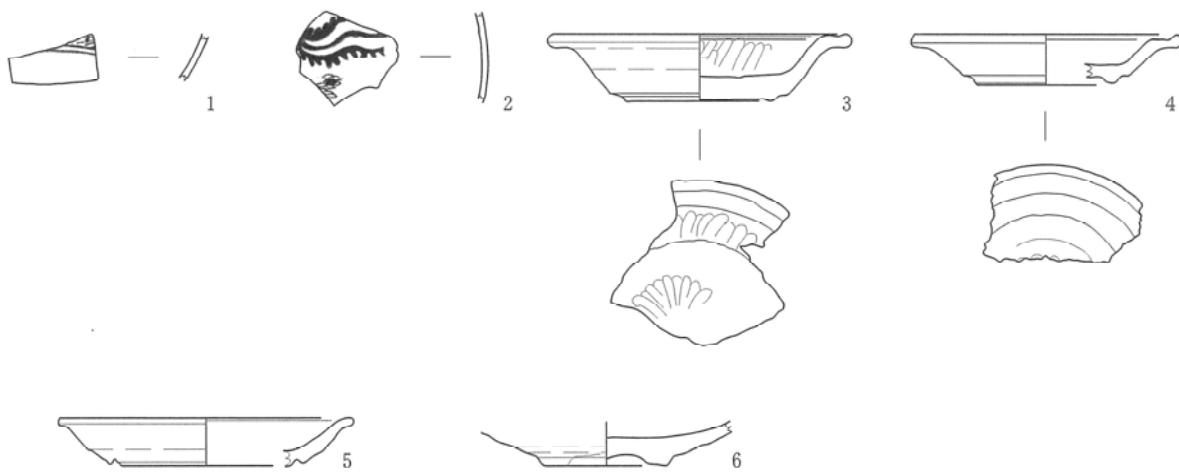
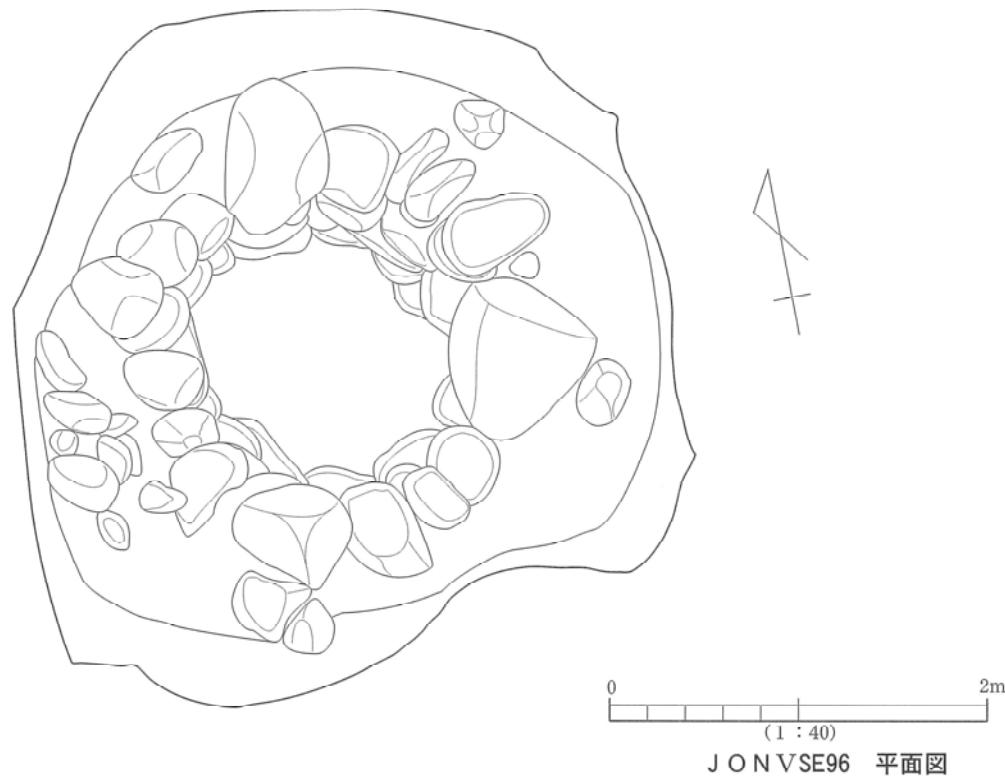
IV 城南町遺跡



JONVSE95 平面図・断面図



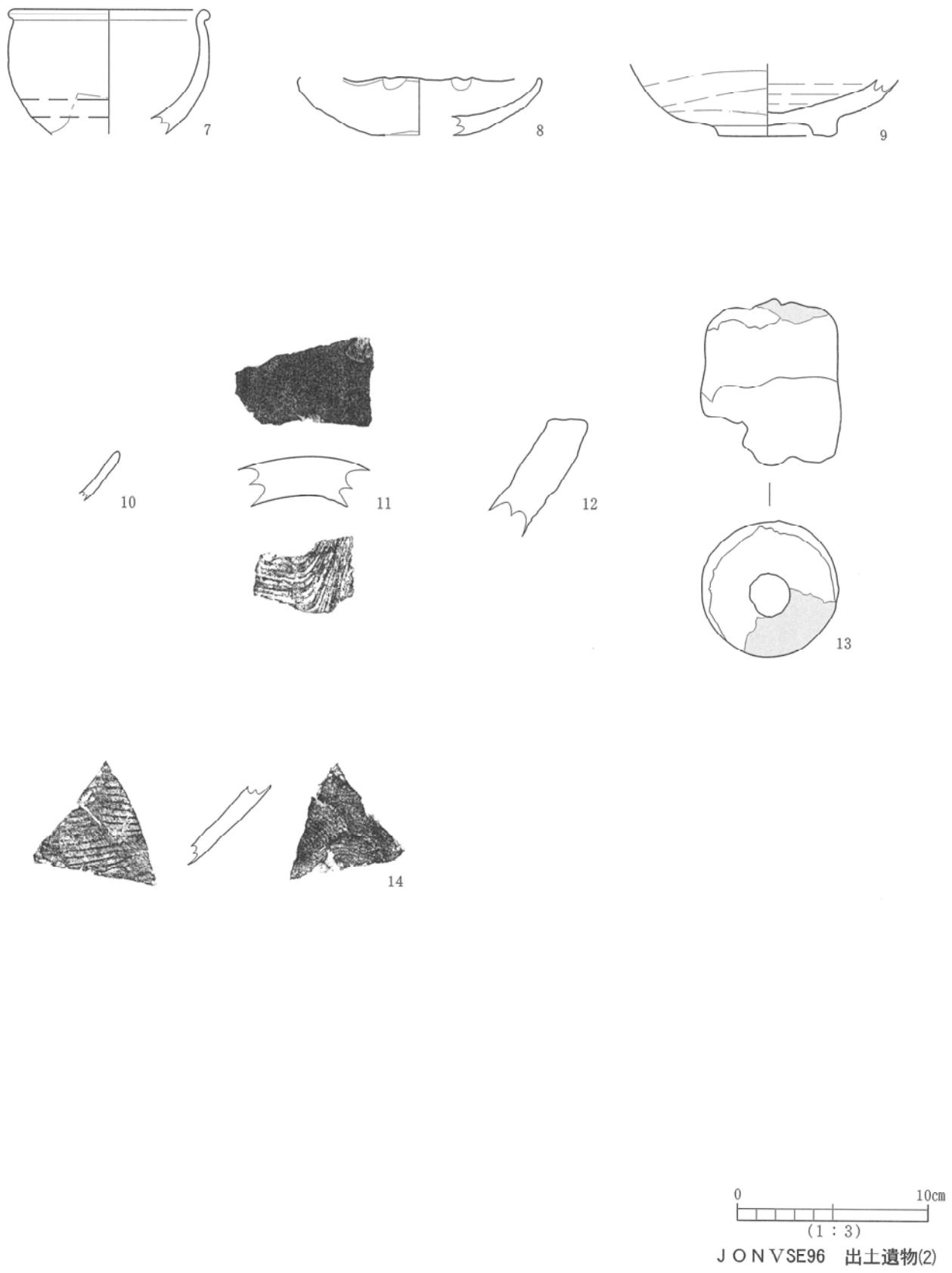
JONVSE95 出土遺物
第186図



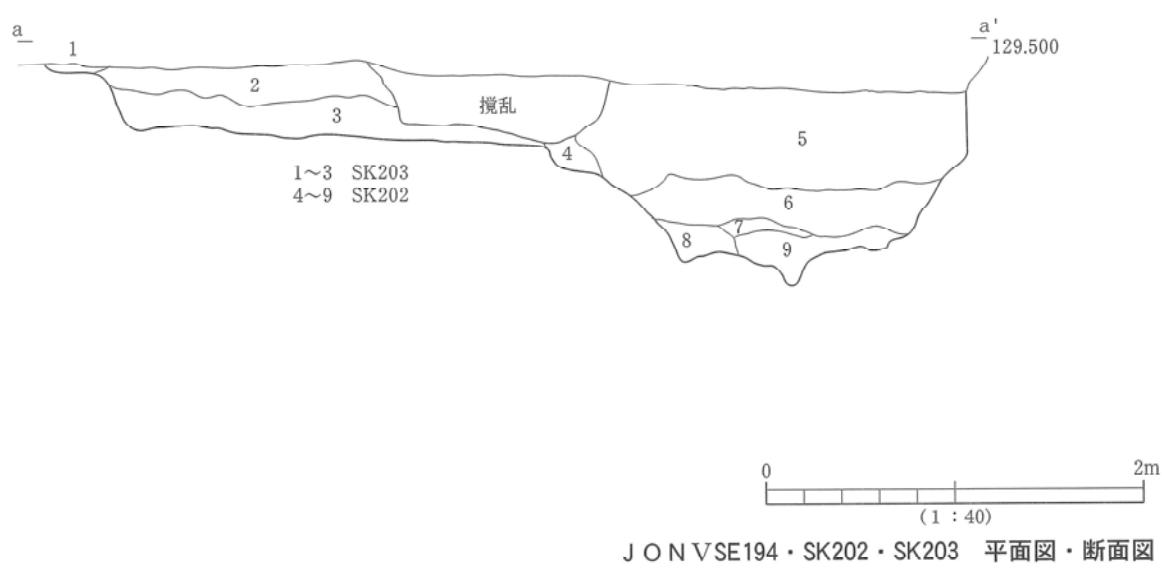
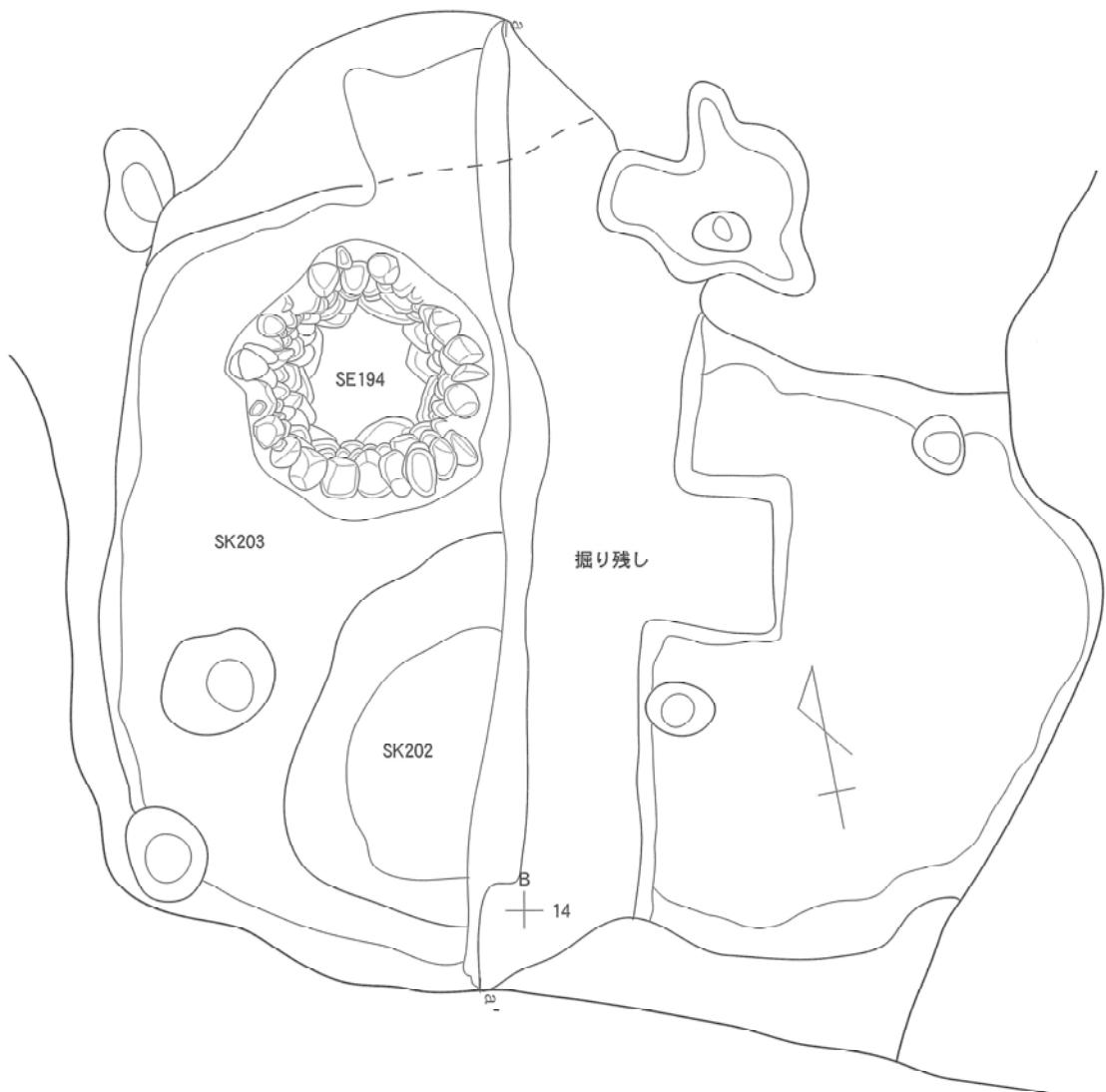
0
10cm
(1 : 3)

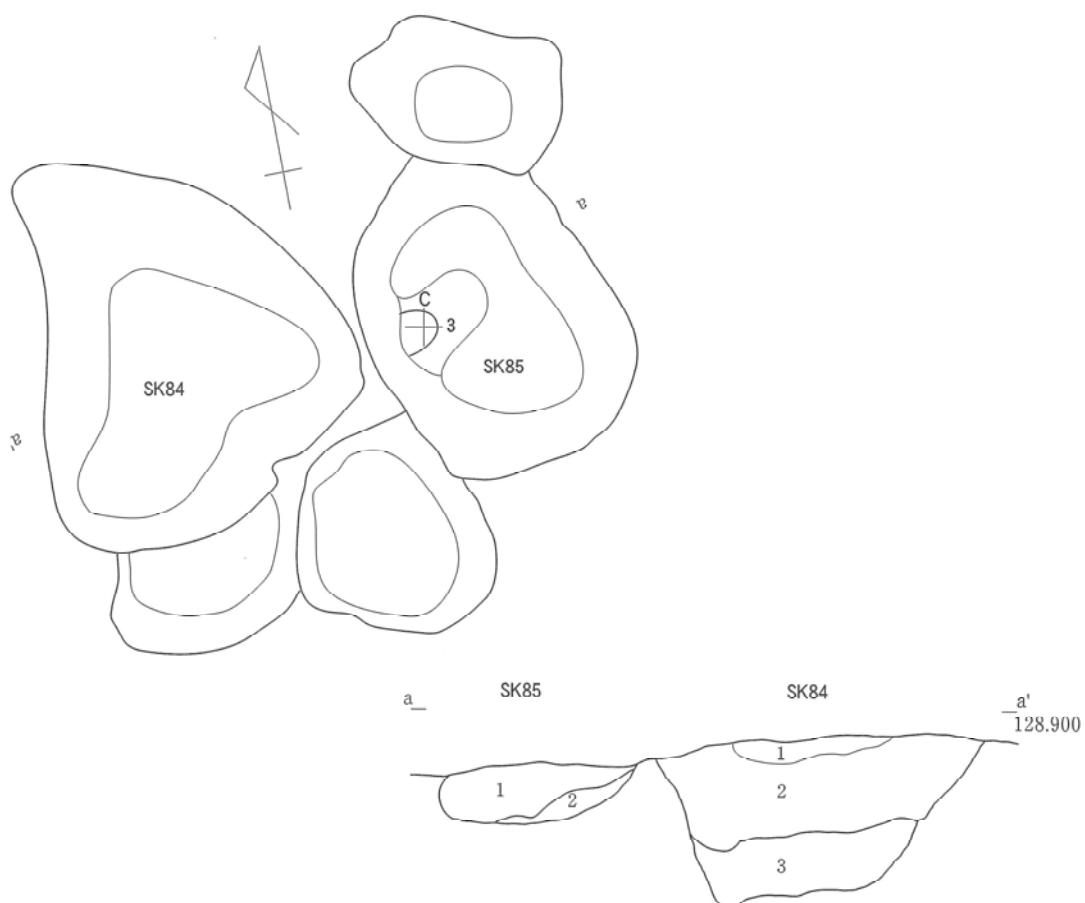
JONVSE96 出土遺物(1)

第187図

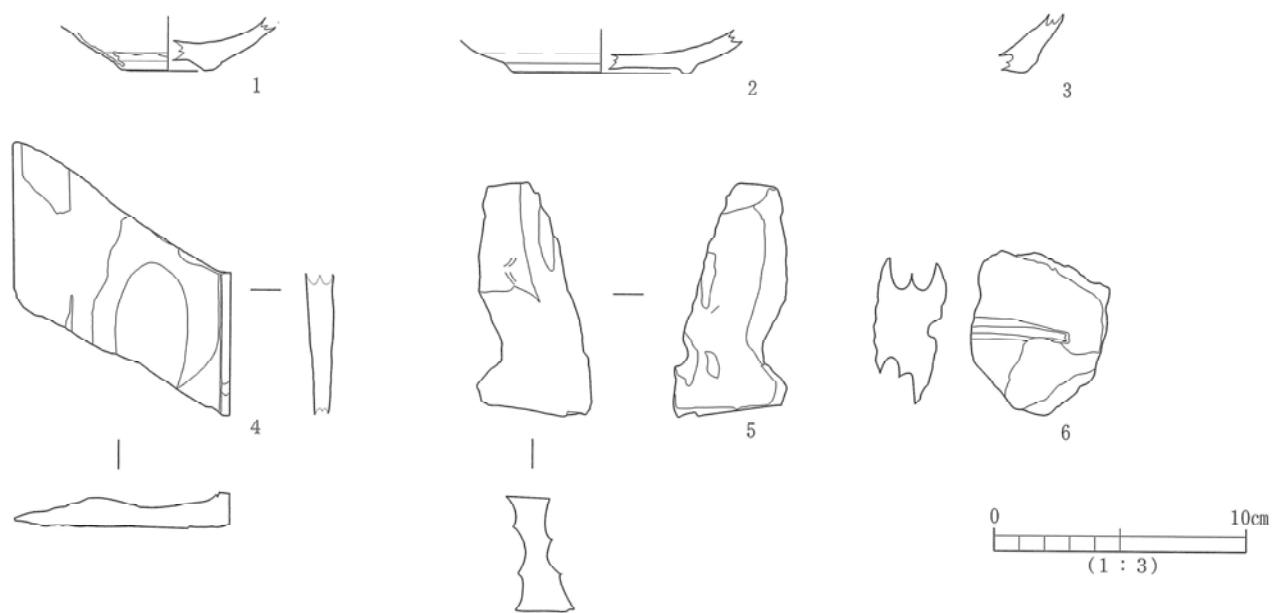


第188図



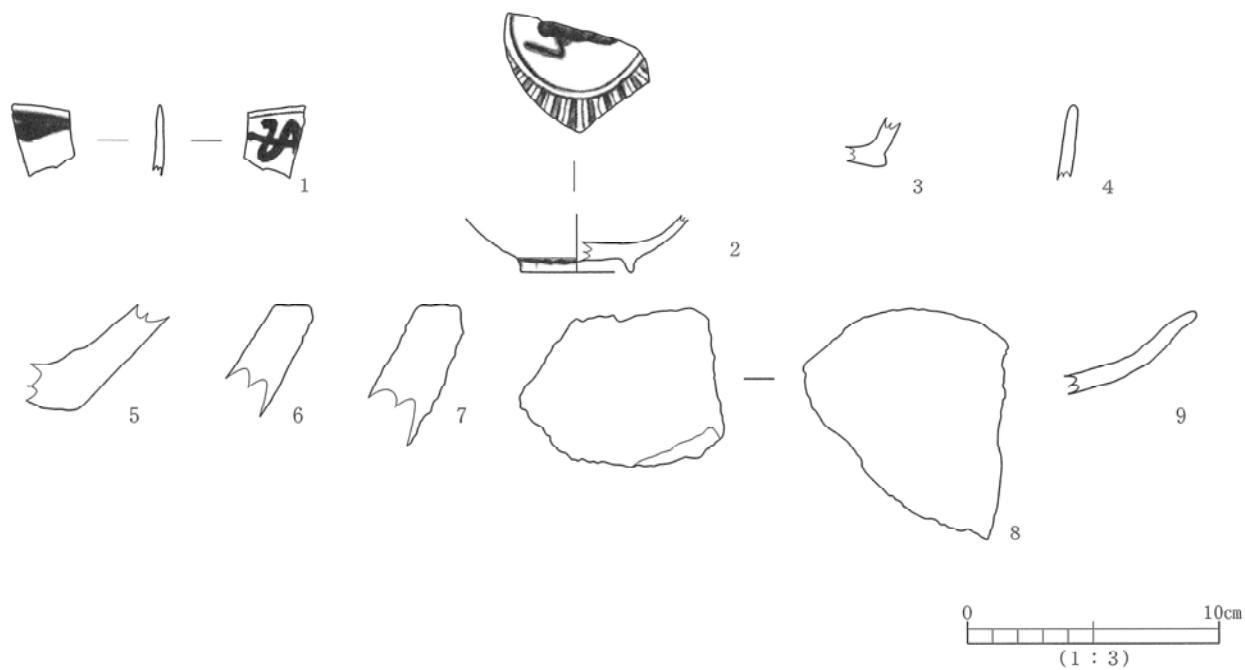


JON VSK84・SK85平面図・断面図



JON VSK84 (1層) 出土遺物

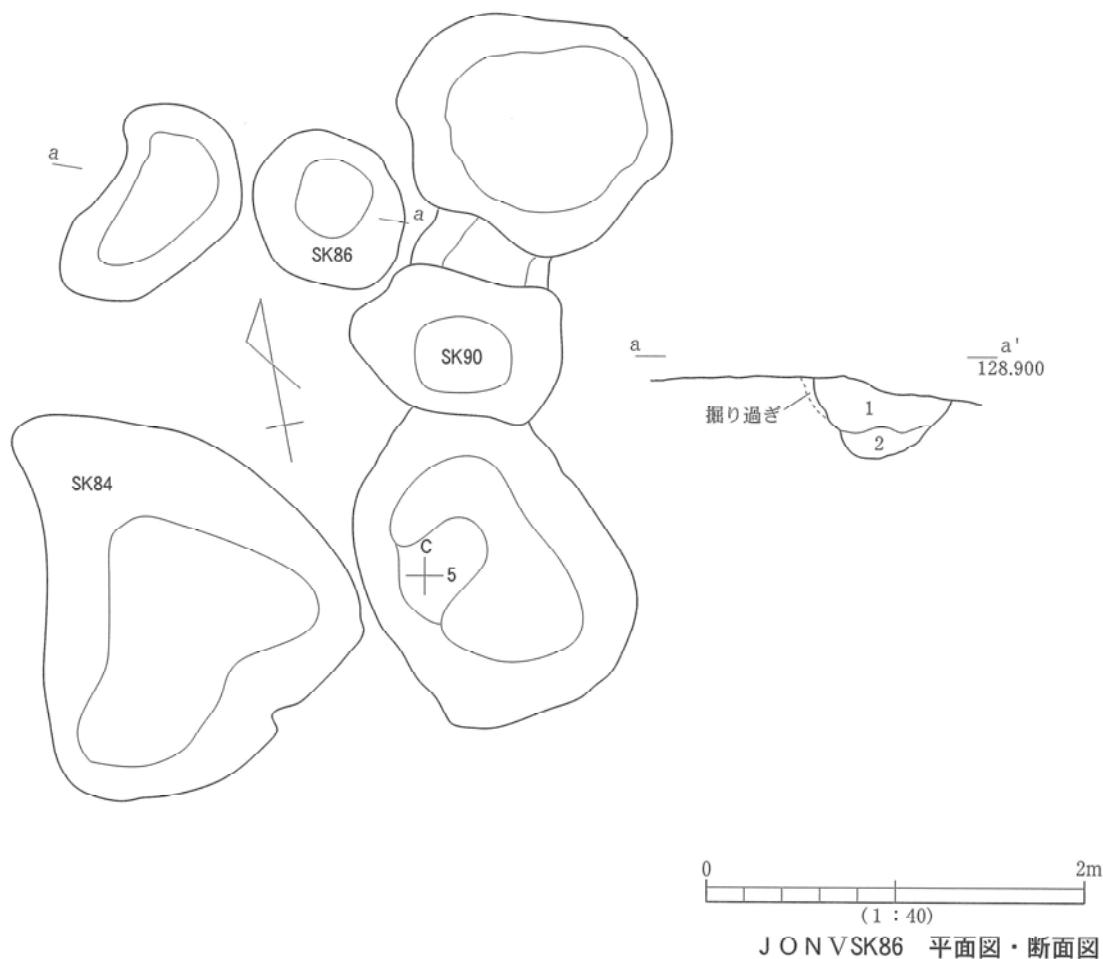
第190図



JONVSK84 (2層) 出土遺物

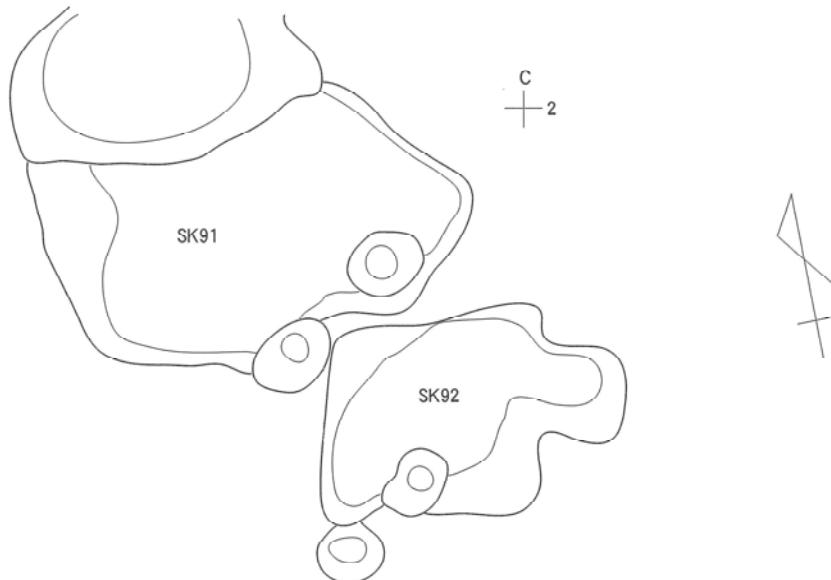
第191図

IV 城南町遺跡

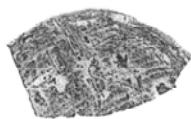
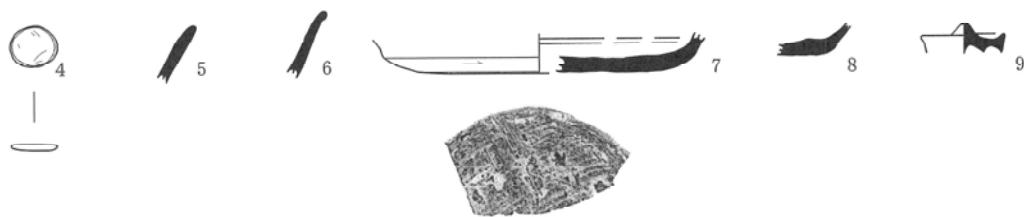


JONVSK86 出土遺物

第192図

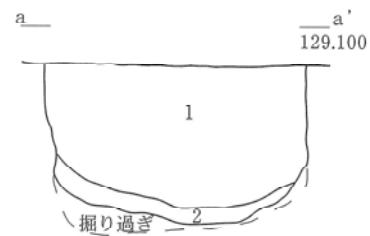
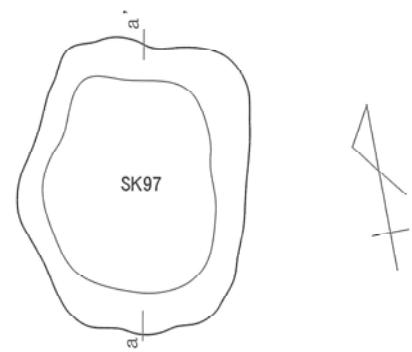


0 2m
(1 : 40)
J O N V S K 9 2 平面図



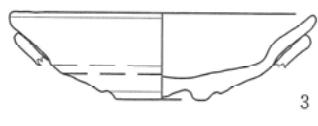
0 10cm
(1 : 3)
J O N V S K 9 2 出土遺物

第193図



0 2m
(1 : 40)

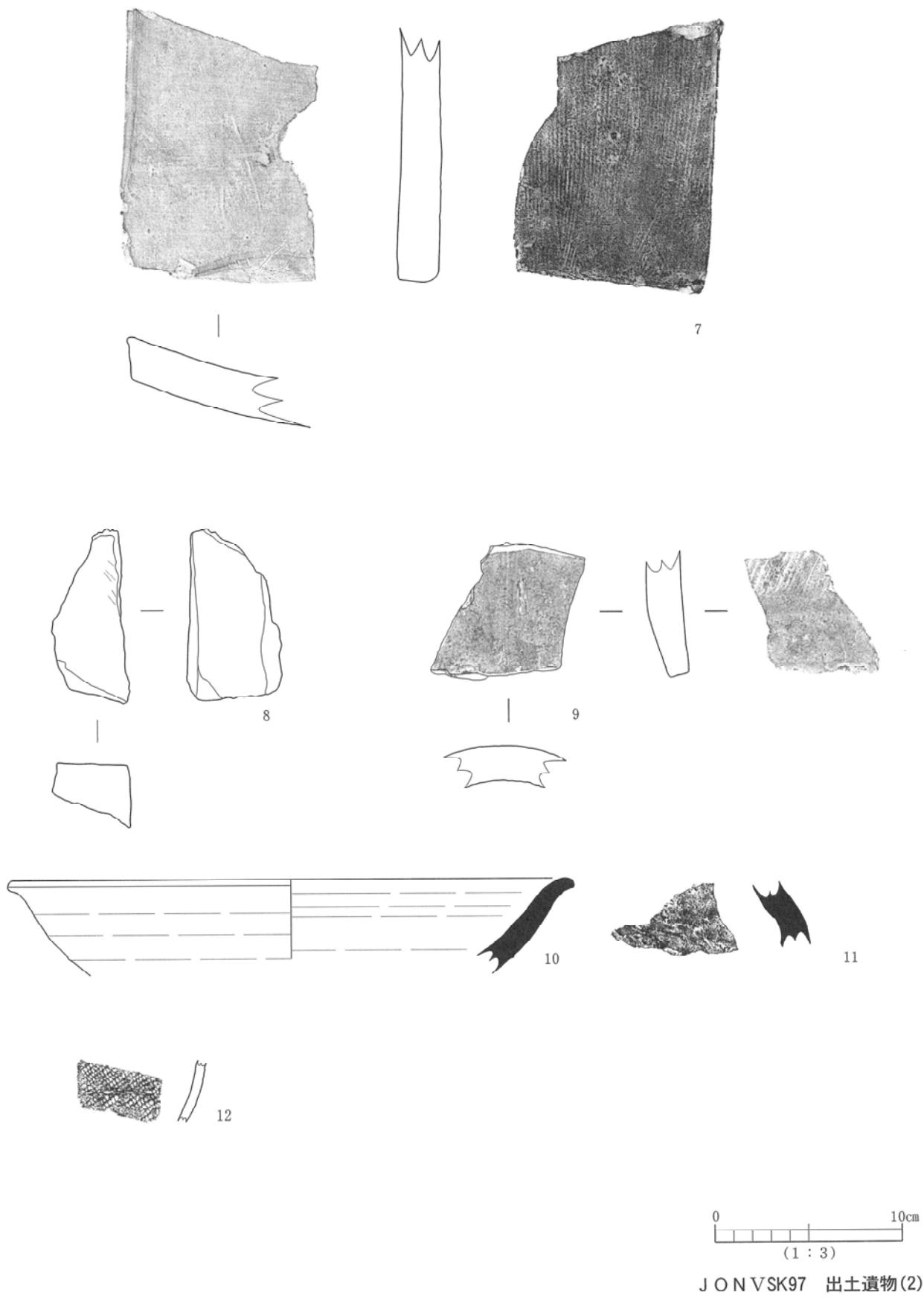
J O N VSK97 平面図・断面図



0 10cm
(1 : 3)

J O N VSK97 出土遺物(1)

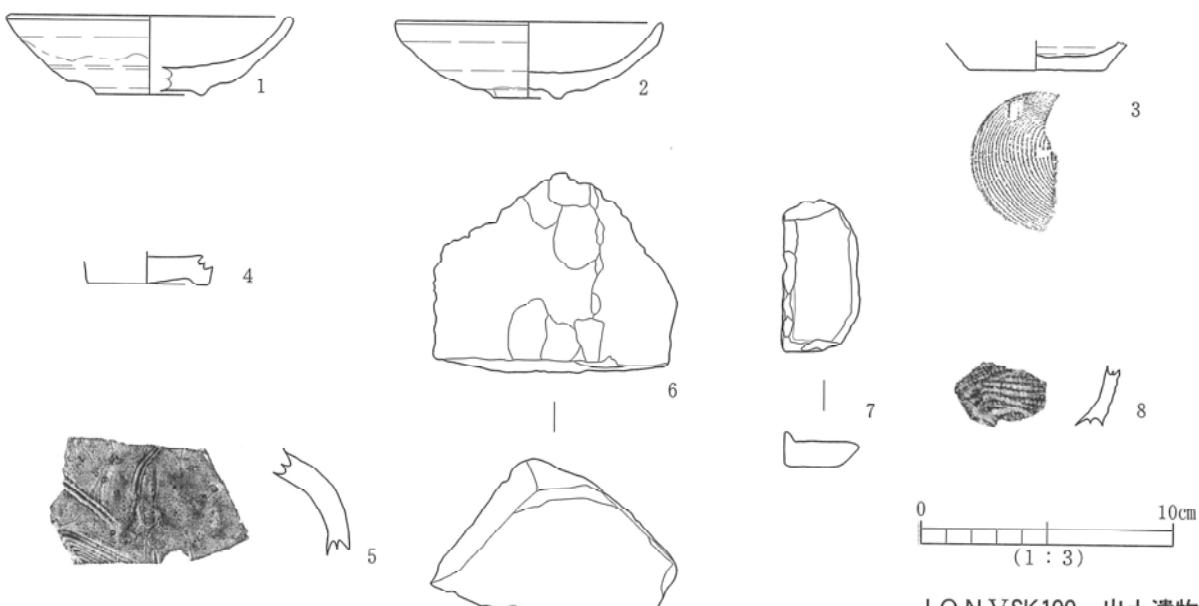
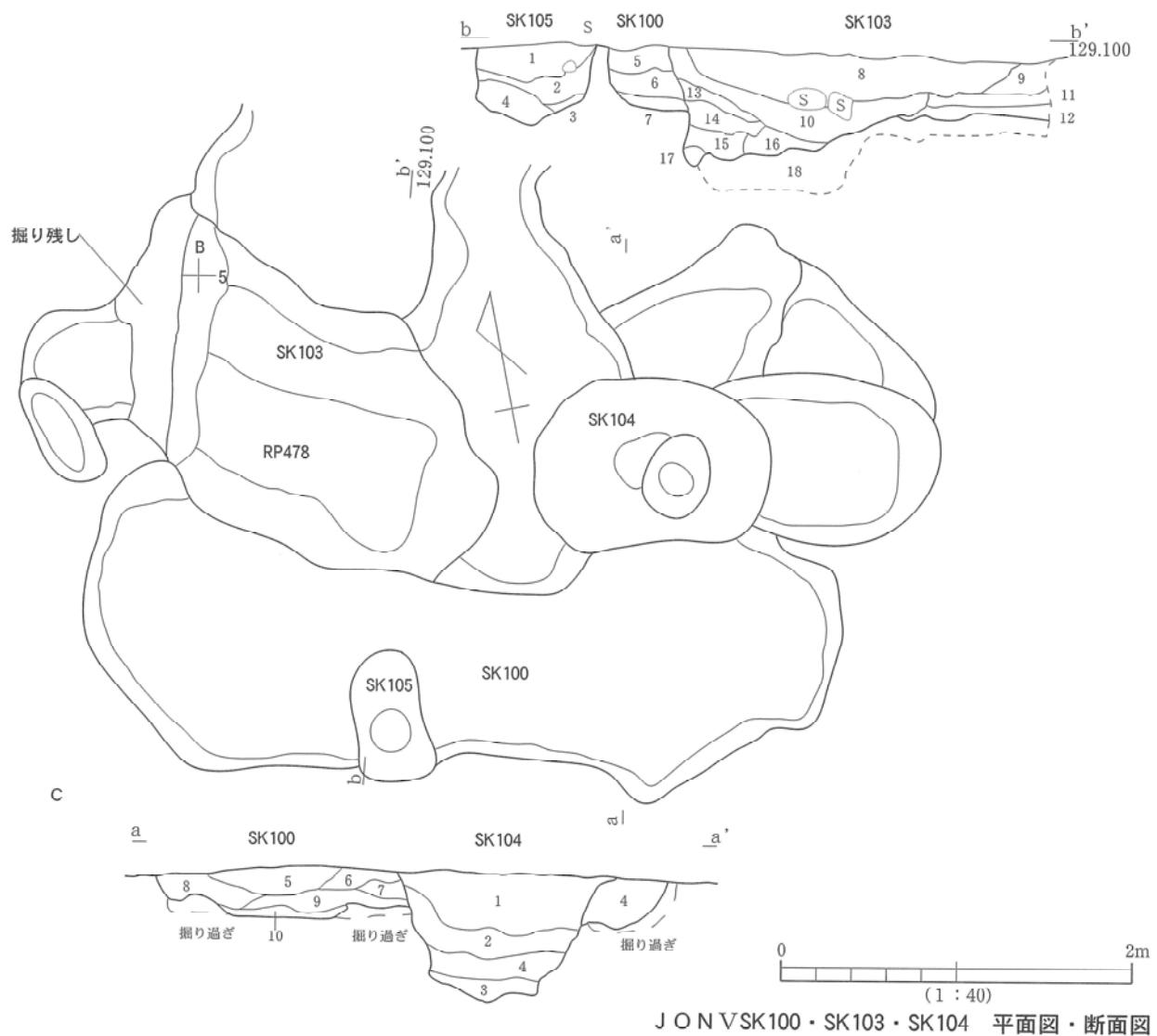
第194図



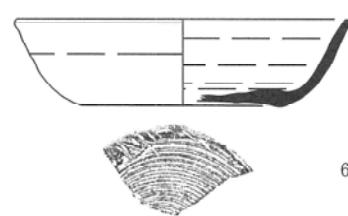
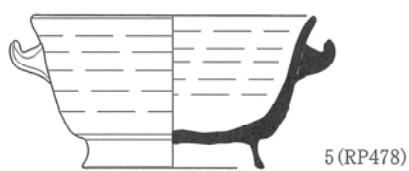
JON VSK97 出土遺物(2)

第195図

IV 城南町遺跡



第196図



0 10cm
(1 : 3)

J O N VSK103出土遺物

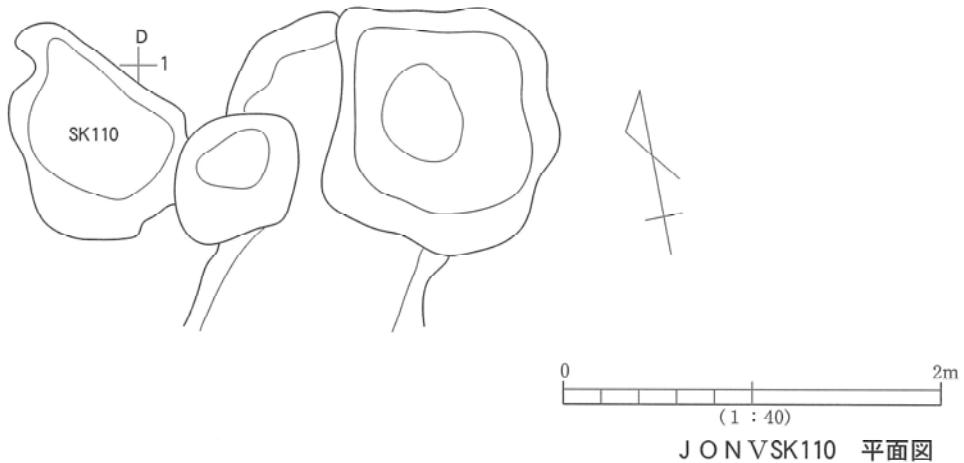


0 10cm
(1 : 3)

J O N VSK104出土遺物

第197図

IV 城南町遺跡

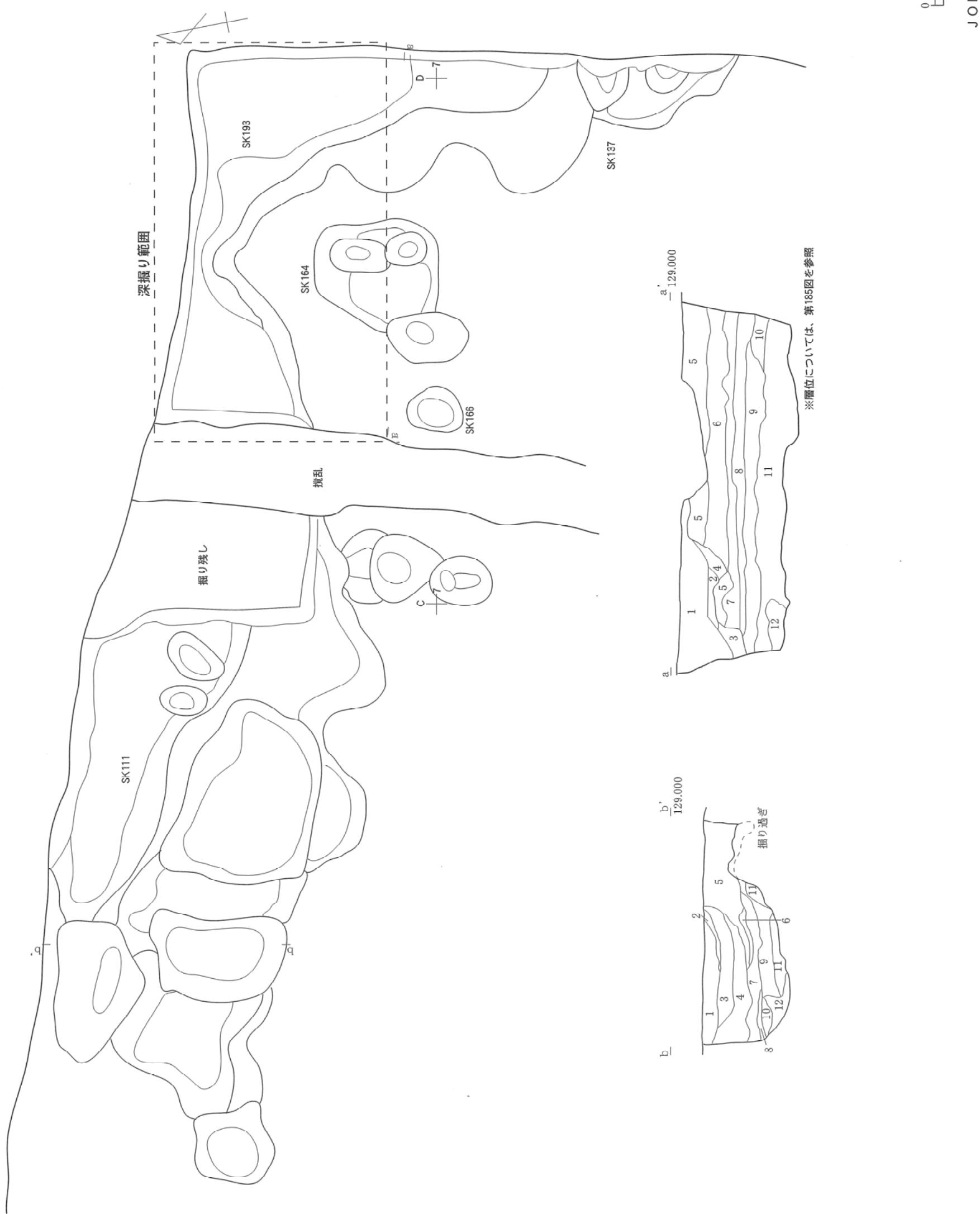


JONVSK110 平面図

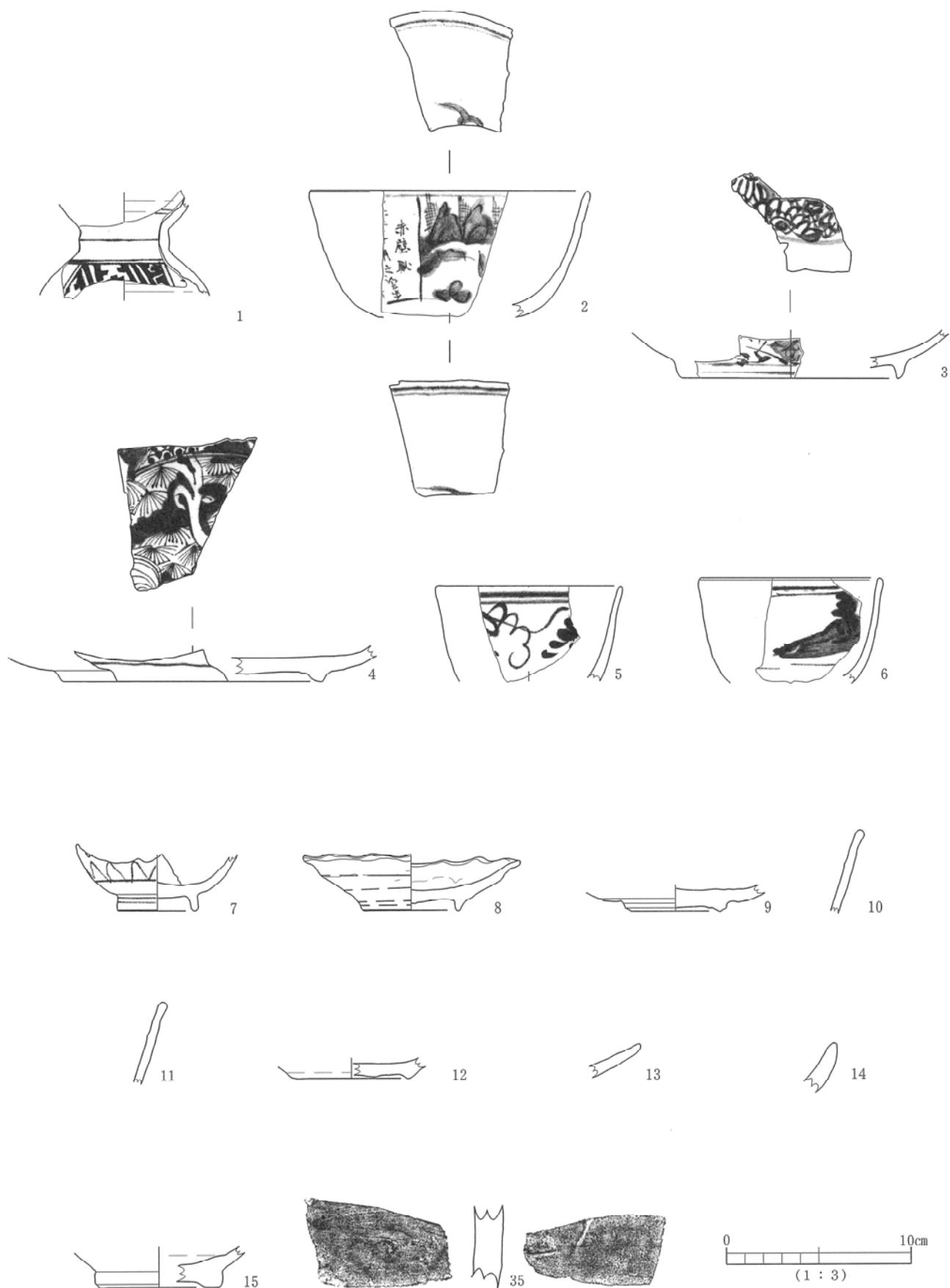


JONVSK110 出土遺物

第198図



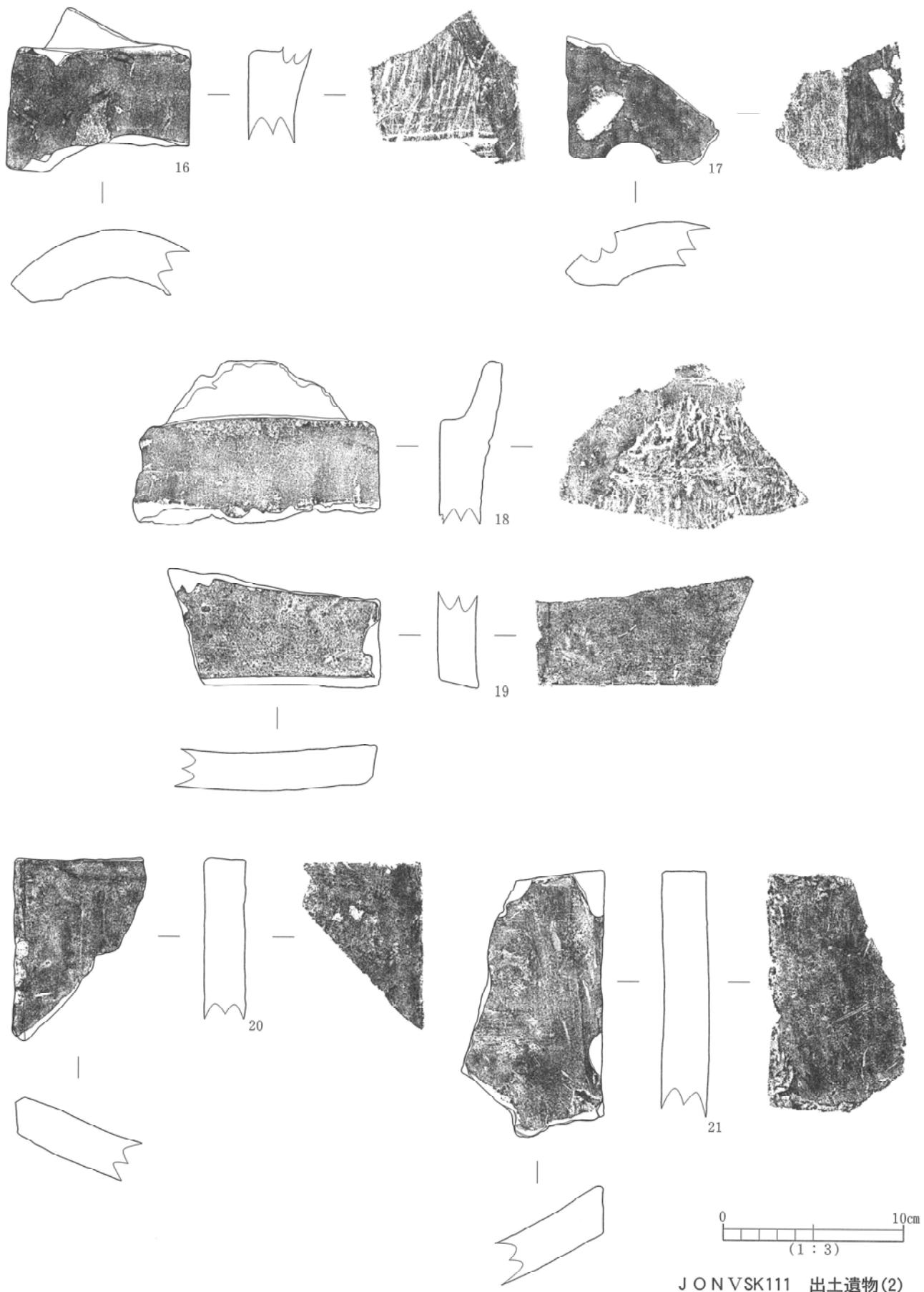
J O N V SK111・SK193平面図・断面図
第199図



JON VSK111 出土遺物(1)

第200図

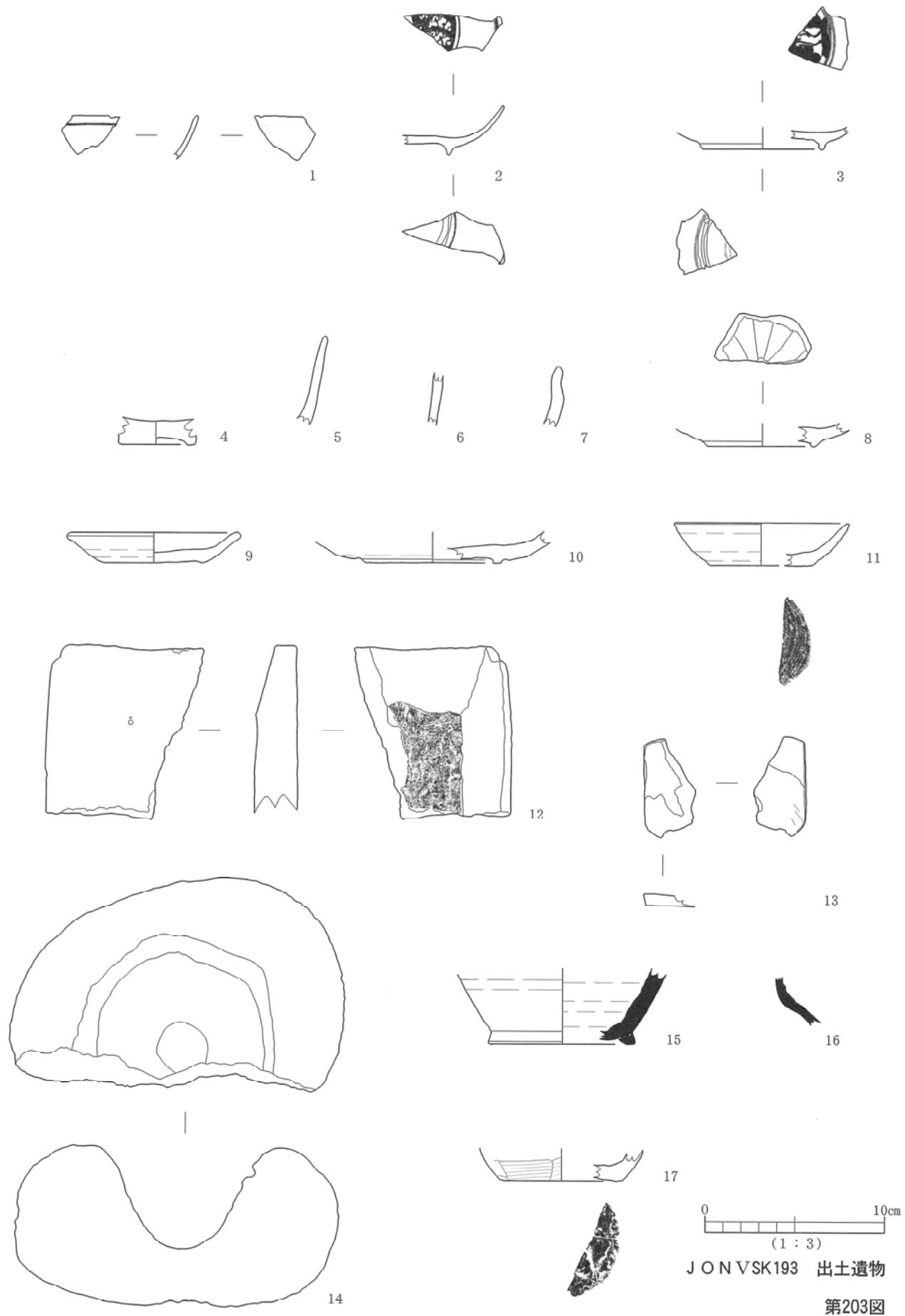
IV 城南町遺跡



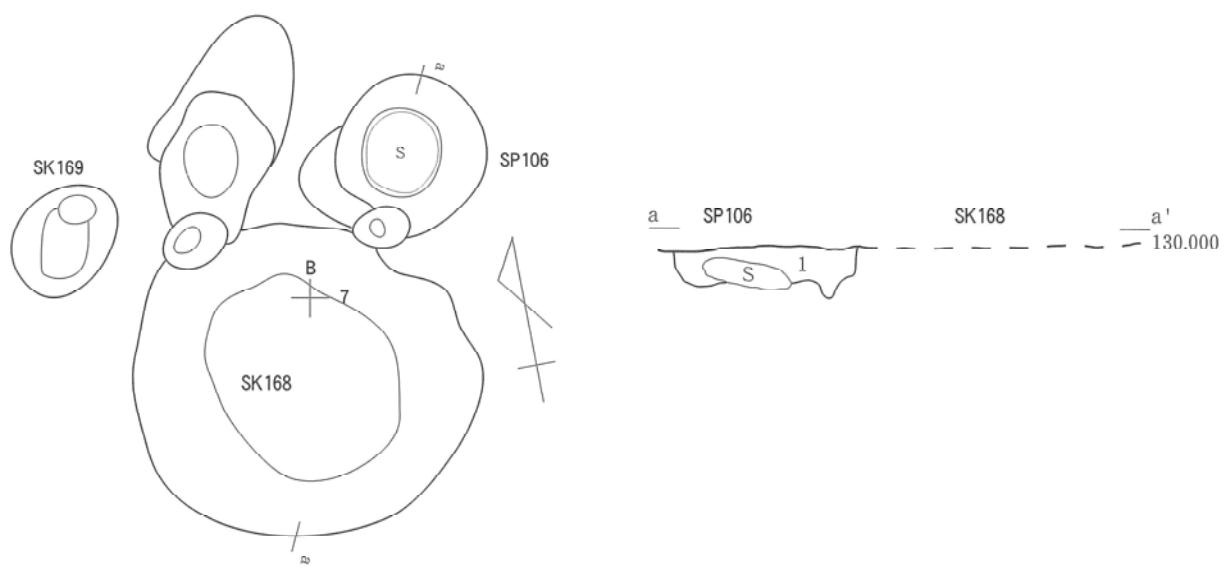
第201図



第202図

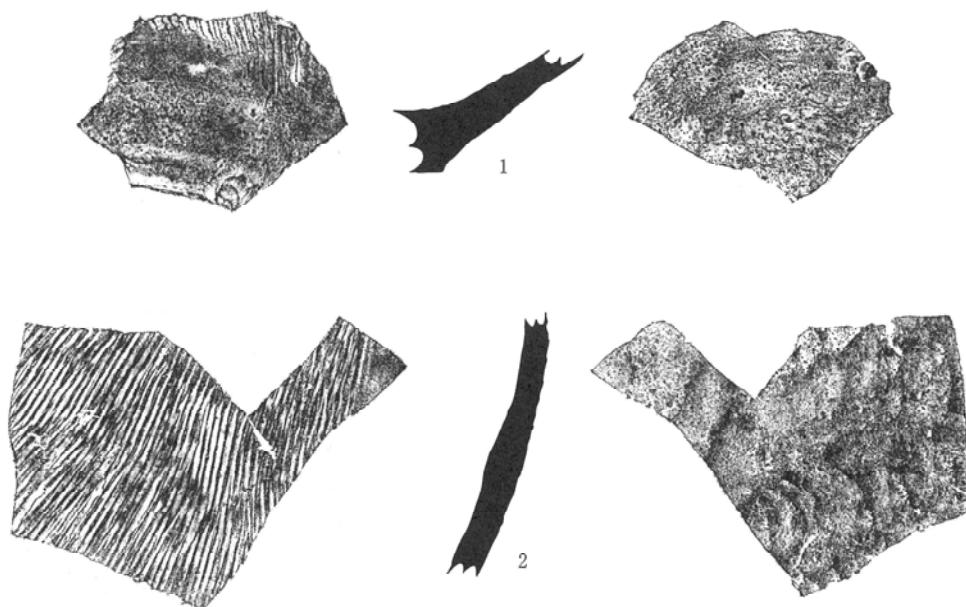


第203図



0 2m
(1 : 40)

JON V SK168 - SP106平面図・断面図

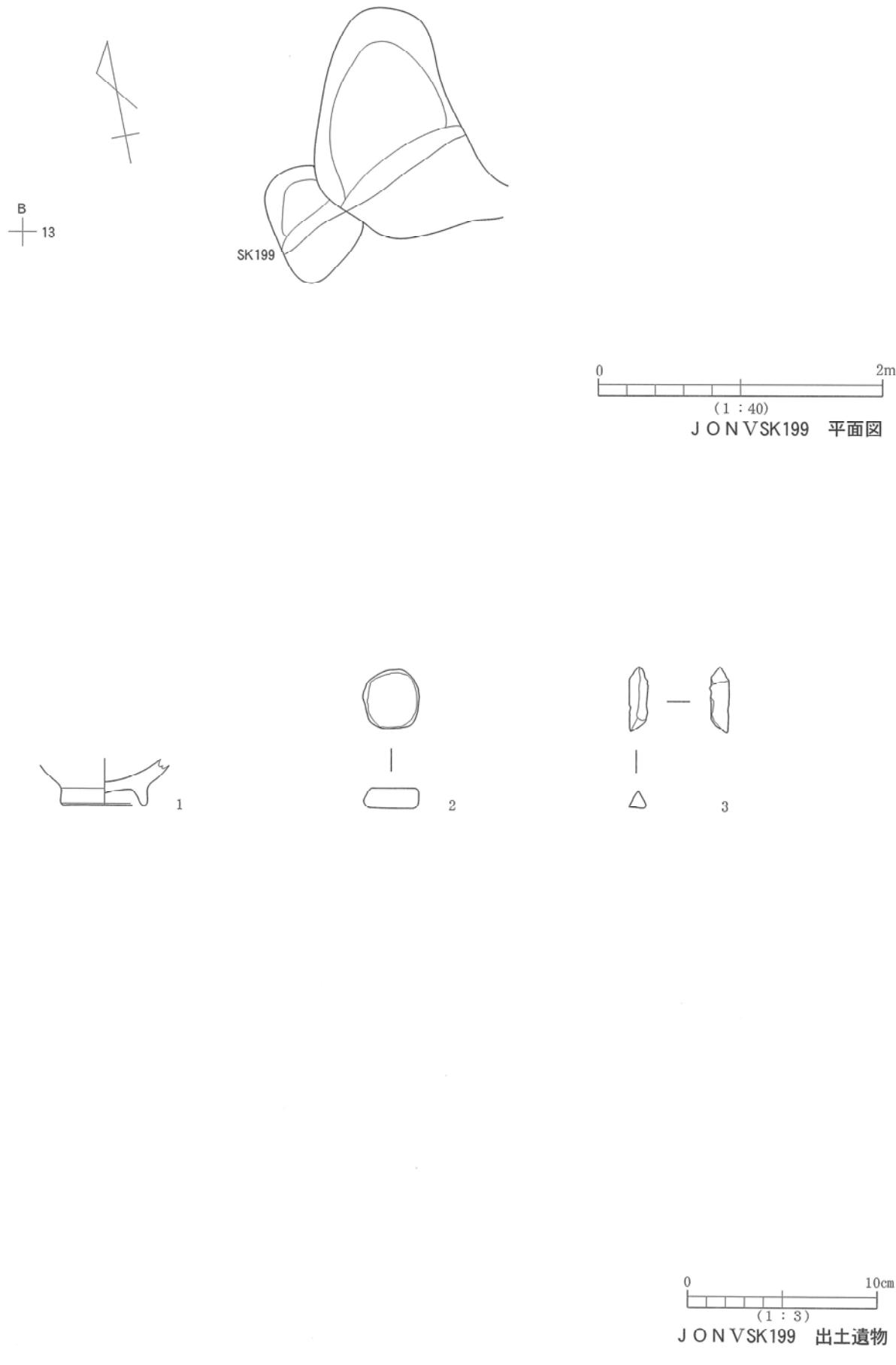


0 10cm
(1 : 3)

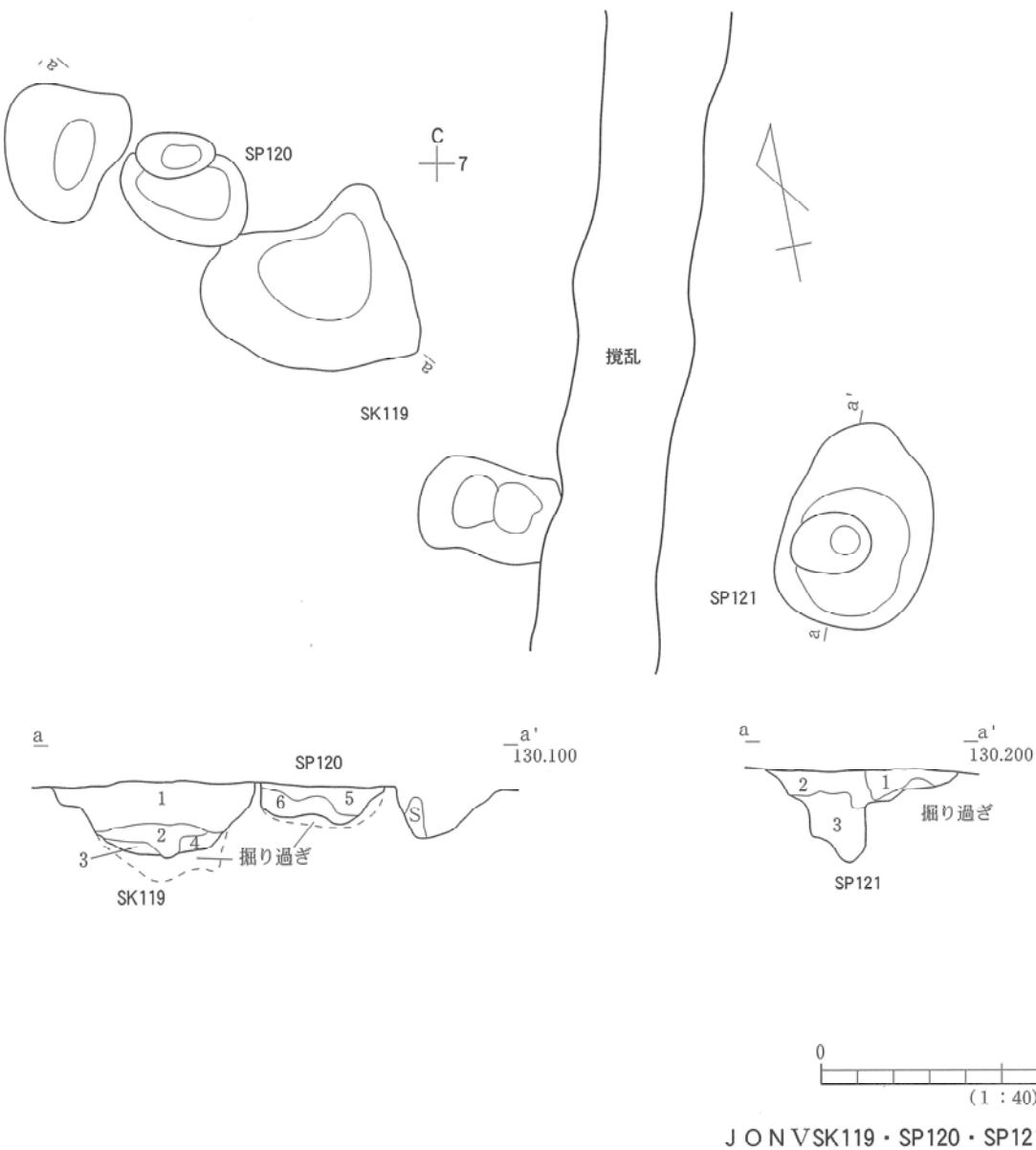
JON V SK168 出土遺物

第204図

IV 城南町遺跡



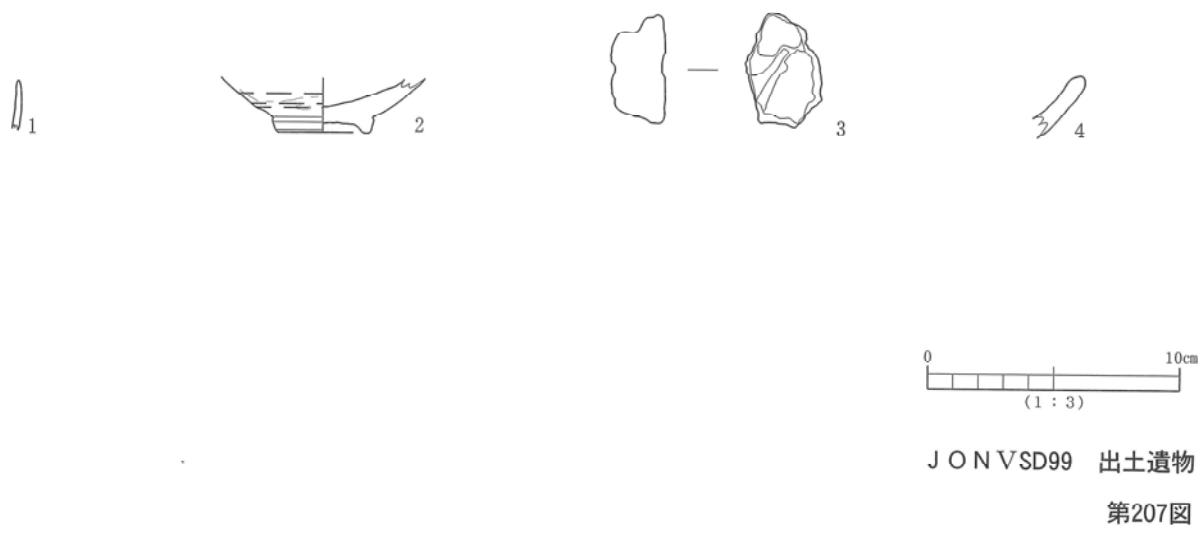
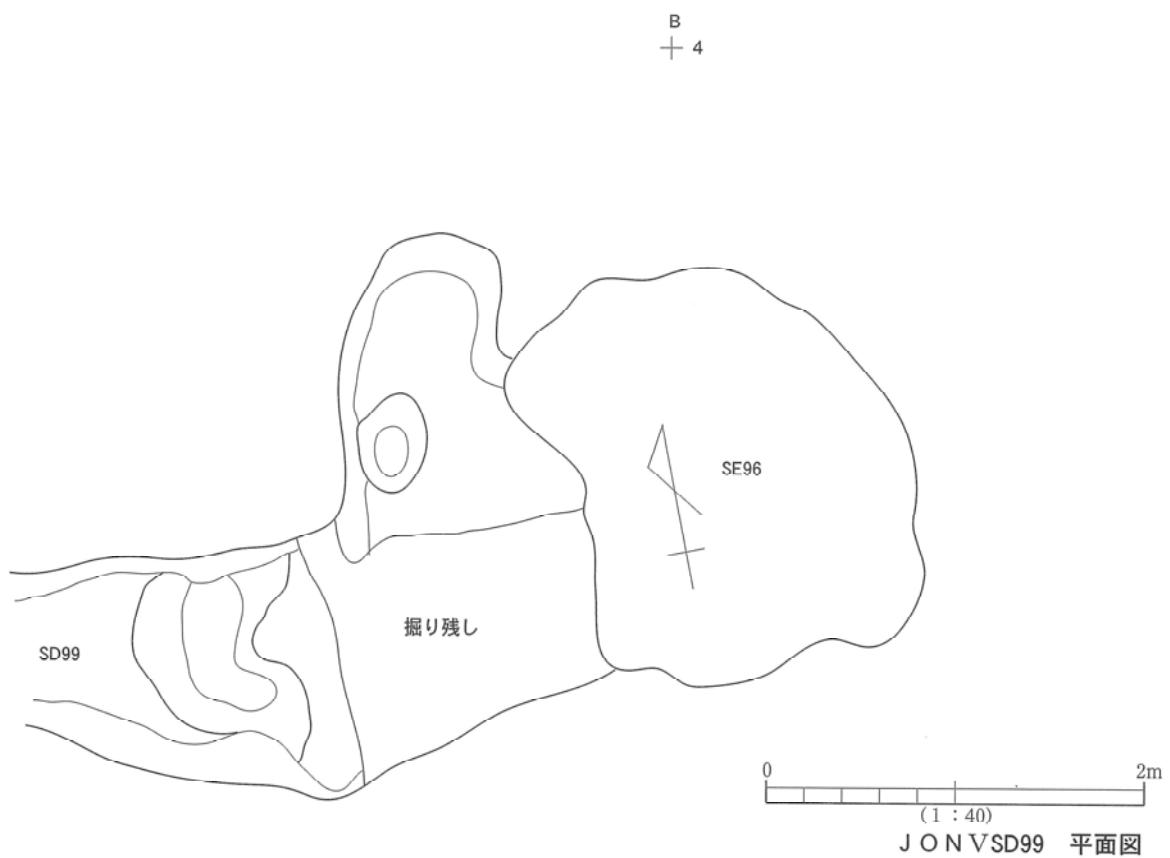
第205図

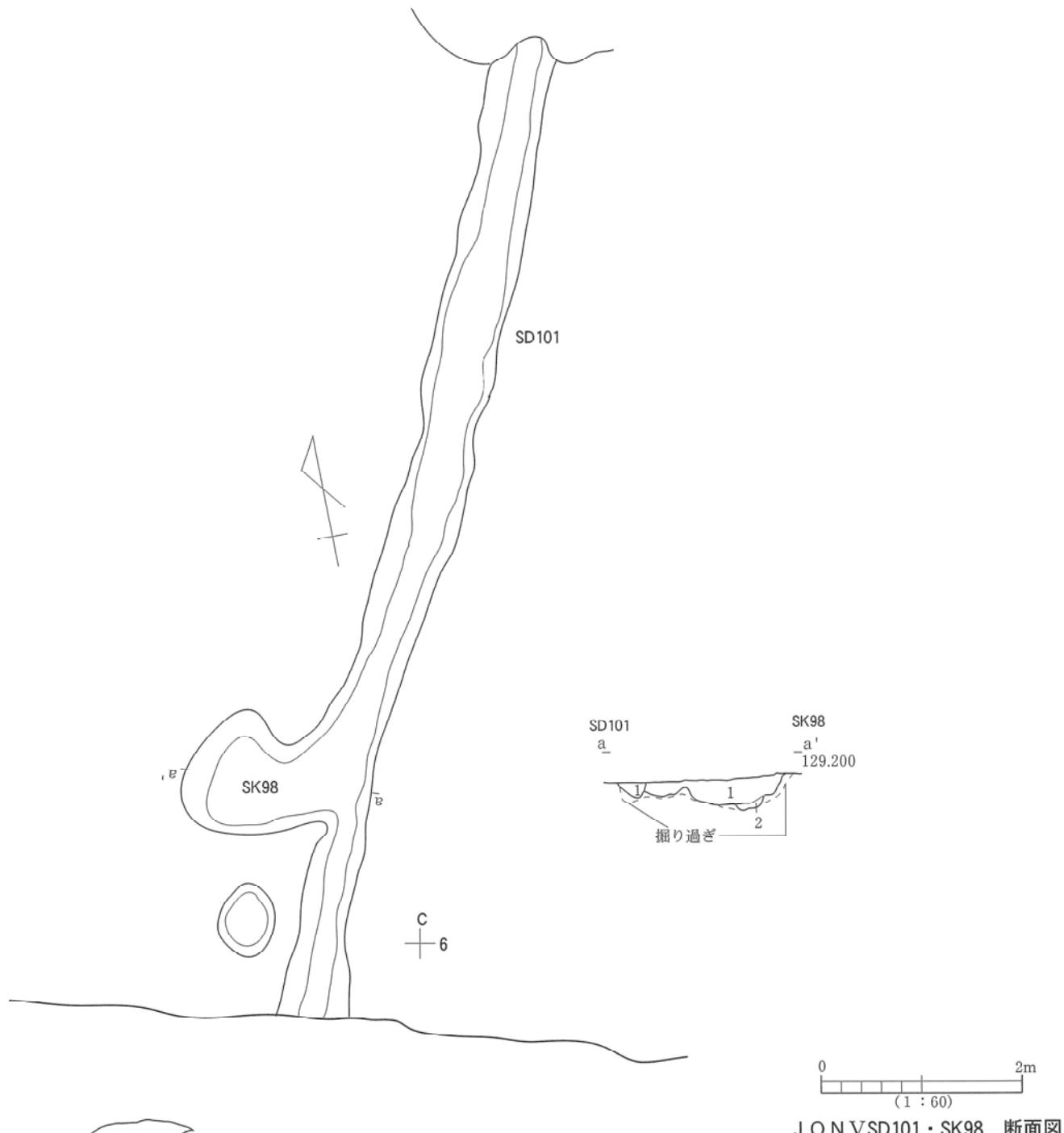


JONVSK119・SP120・SP121 平面図・断面図



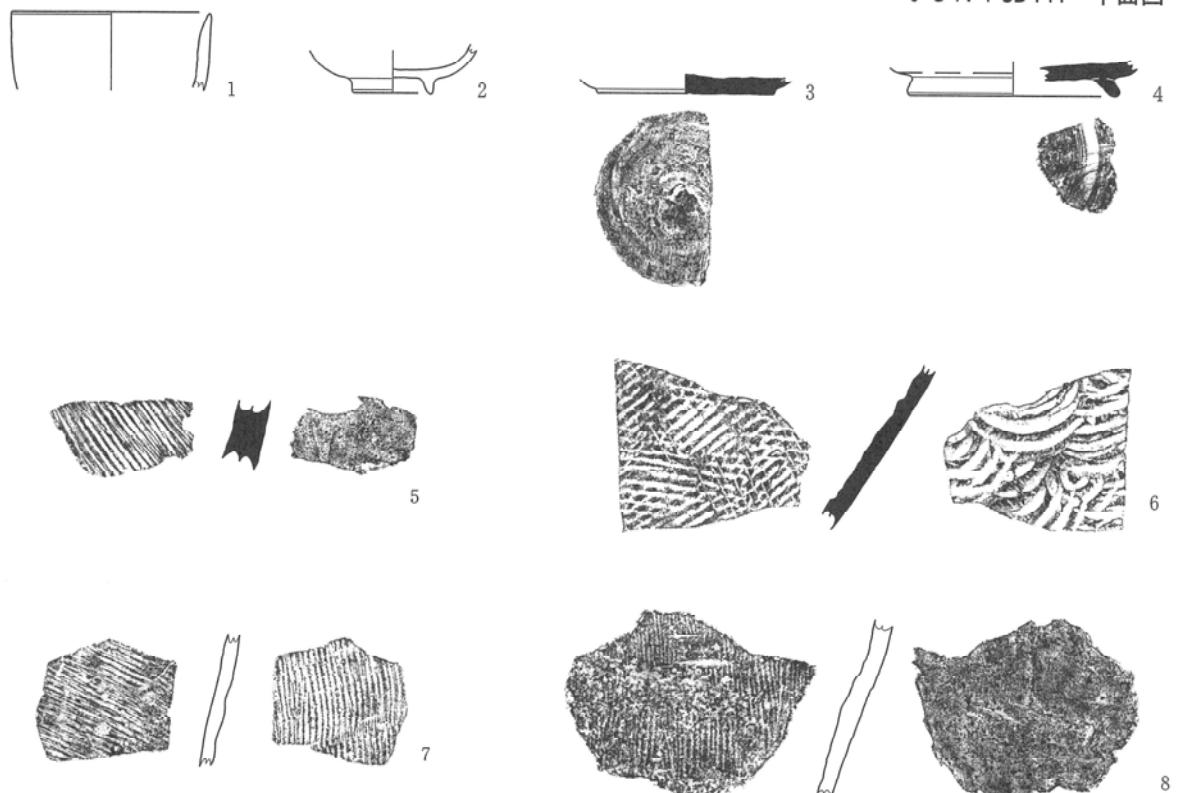
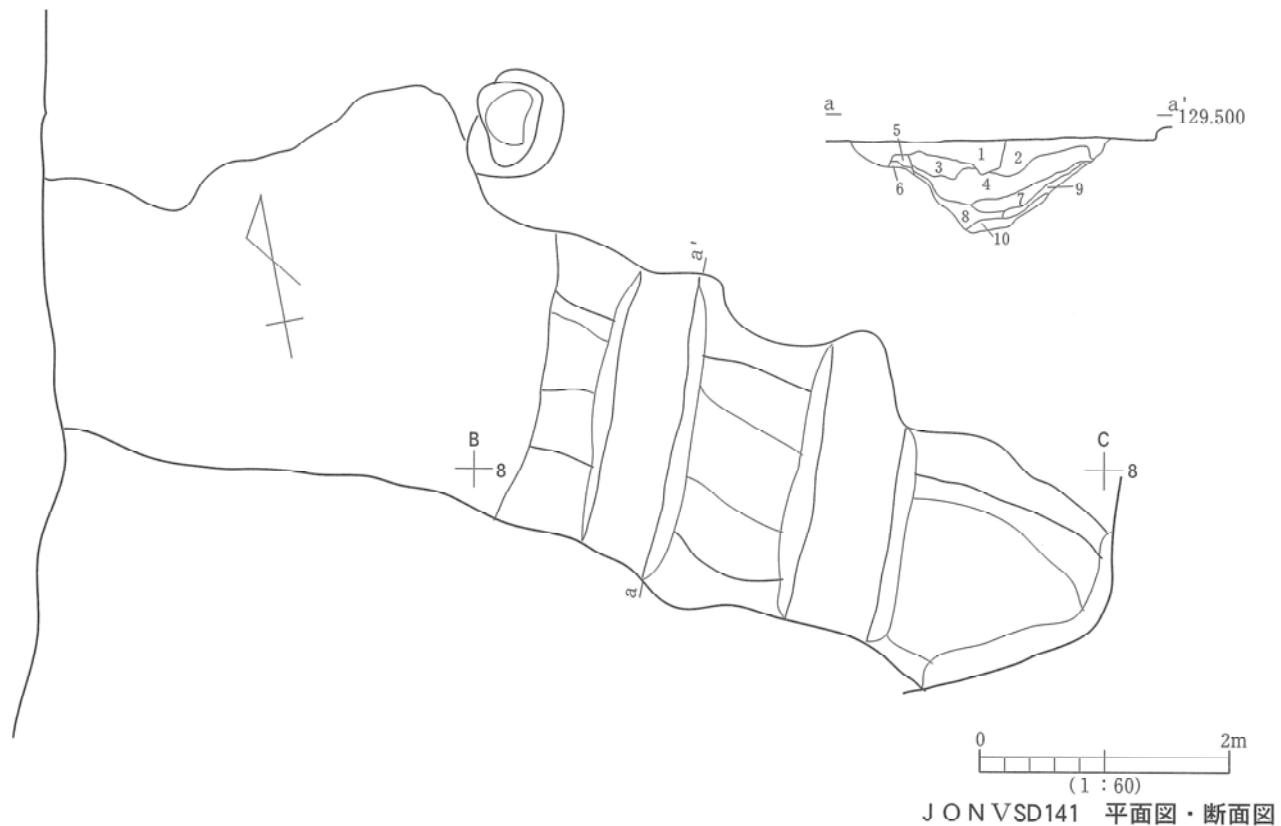
JONVSP118・SP121 出土遺物
第206図



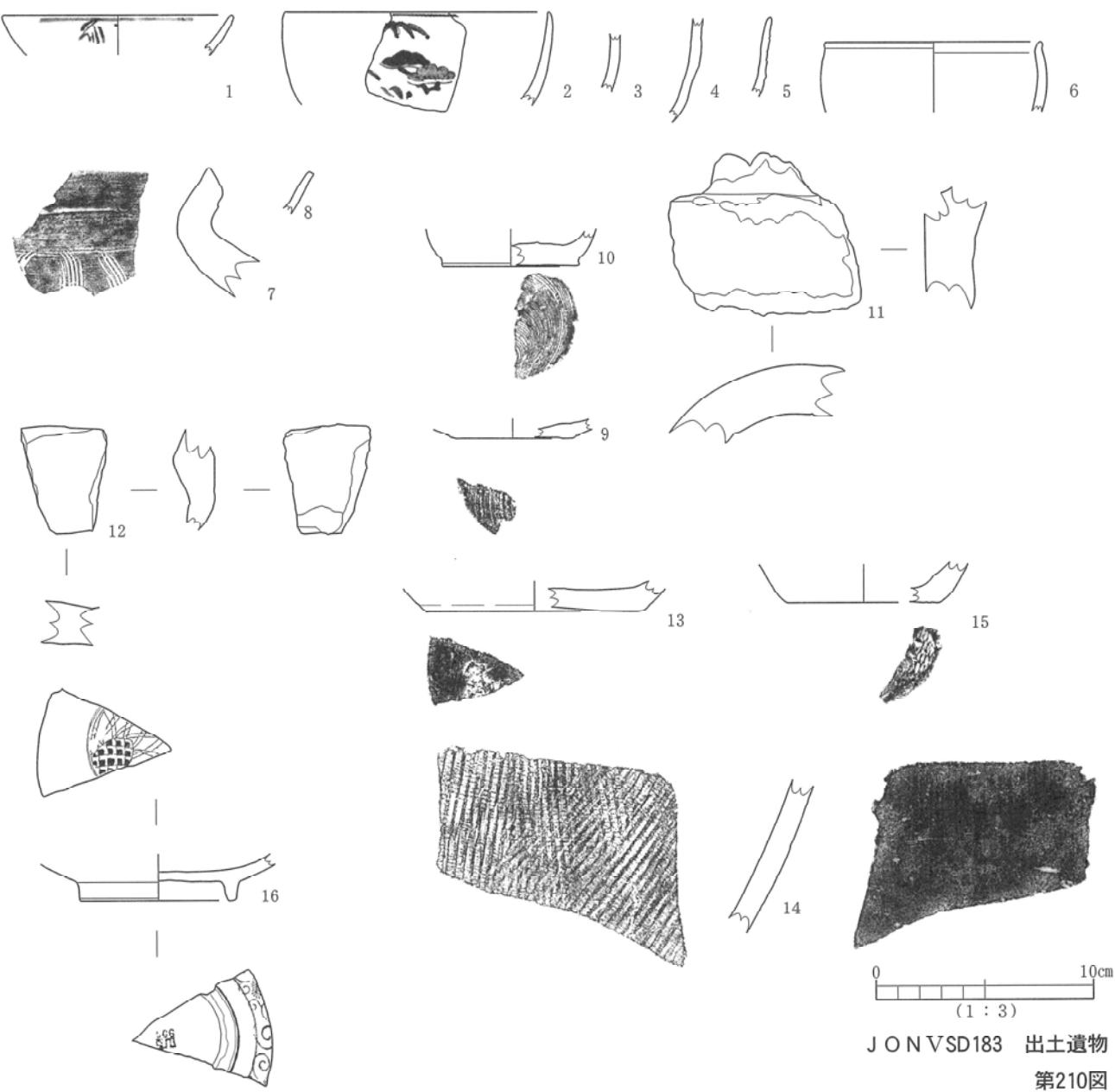
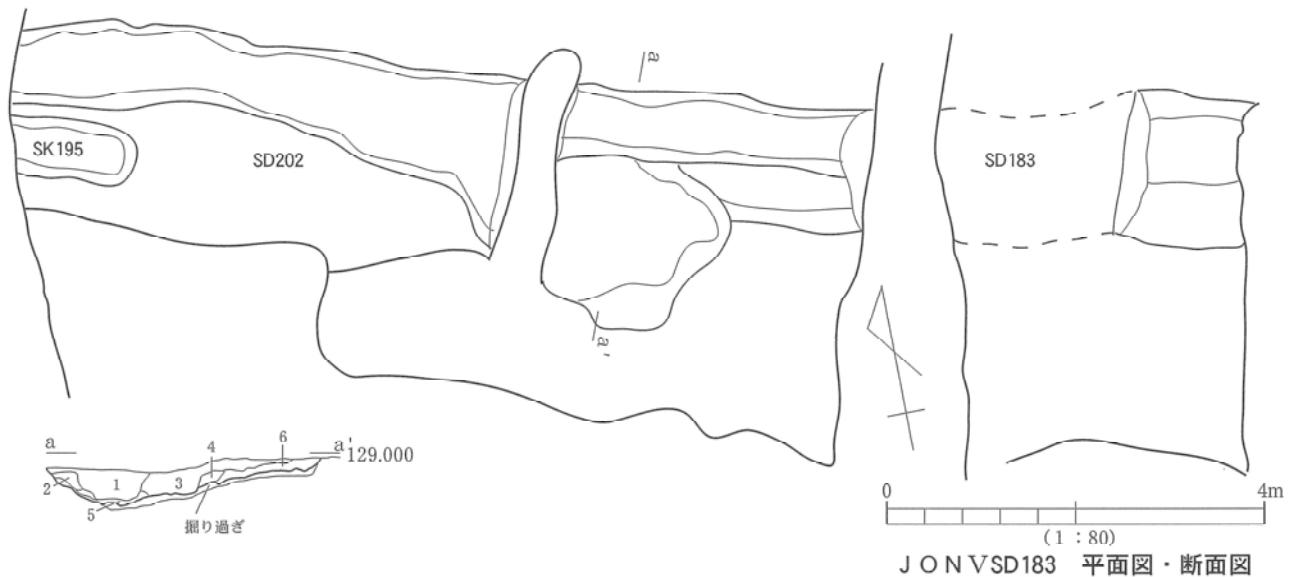


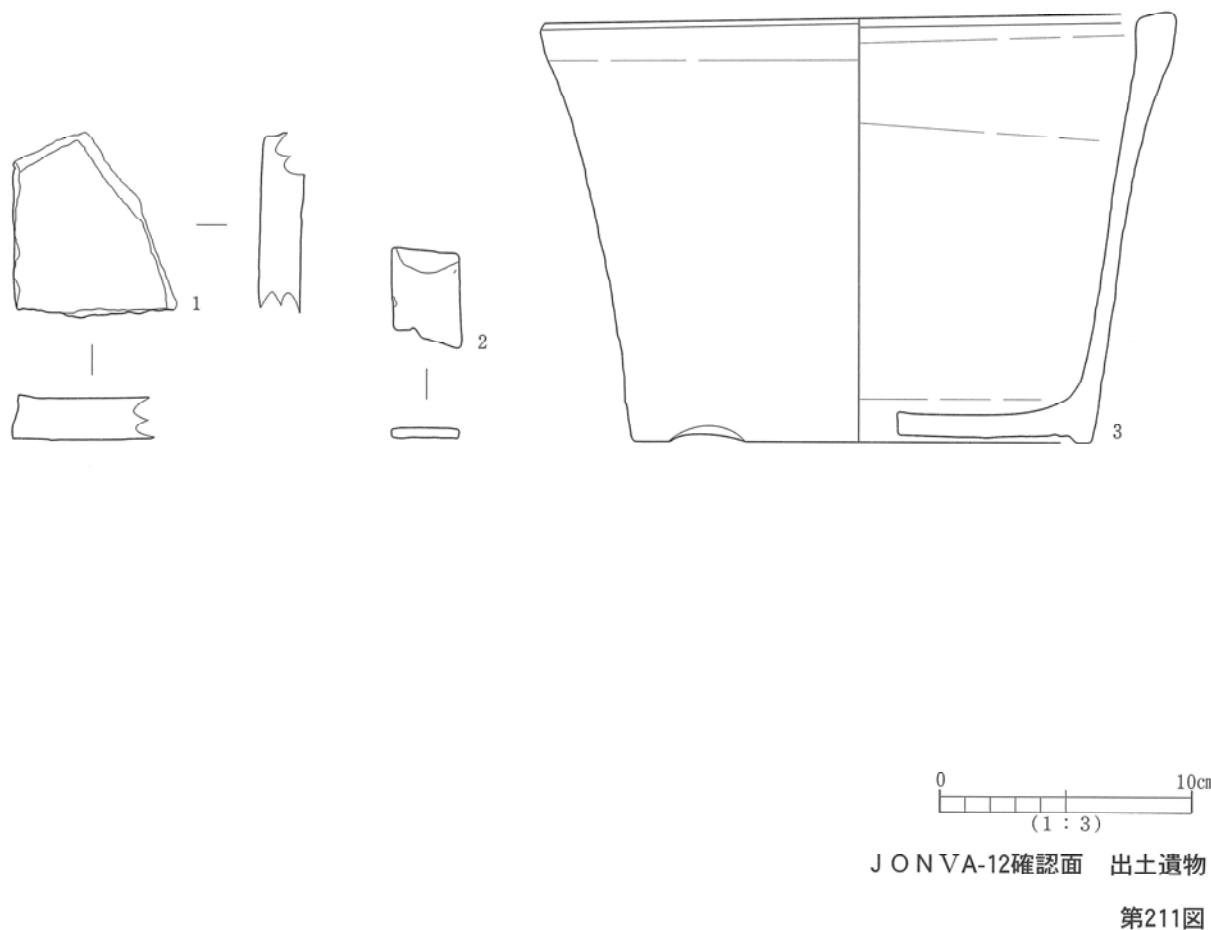
0 10cm
(1 : 3)

JON VSD101 出土遺物
第208図



JON VSD141 出土遺物
第209図





JONVA-12確認面 出土遺物

第211図

なるご教示を頂いた。

それに比して、膨大なピット群を検出するに至り、平面プラン精査段階でそれらが弧状を成し、即ち円形プランの住居がめぐっているものと思われた。しかし柱穴同士の切り合いがはげしく、また前述したように自然営力による削平が行われたせいか、ピット同士を有機的に連結させ得ることができず、住居の様相を明らかにすることはできなかった。双葉町遺跡・城南町遺跡で、縄文時代の集落としての遺構が確認されたのはJONV調査区が初出であり、今後の事例の増加を待ち、詳細については今後の課題としたい。

次に②について述べる。平安時代（9世紀代）と推定したのは出土した土師器・須恵器の形態に依り判断した。SI179は遺構覆土からの出土遺物および遺構の形状から、それを切るSP115・SP117は相対的に平安時代と判断した。出土遺物の様相は9世紀代前～後半に至る様相を呈し、遺構の築かれた時期については明瞭な判断ができない。

③の時期は双葉町遺跡・城南町遺跡全般で広く確認される、山形城三の丸地内であった際の近世初頭の遺構及び遺物である。漳州窯産と推定される中国産磁器の碗や皿、大窯第4段階と推定される瀬戸美濃系陶器の皿、肥前系陶磁器の碗及び皿、焼瓦、砥石や凹み石状石製品などが特に目立つ。

SK111出土の中国産磁器(1)は、器形が瓢箪型を成す瓢形瓶と推定される。同じくSK111出土(2)は「赤壁の賦」と呉須で紋様が描かれる碗である。

遺構は、他の調査区と同様の傾向で、井戸跡・溝跡・廃棄用と推定される土坑群が主体となる。SP106以外は、形状からは柱穴か否かの判断が出来なかった。遺物が大量に出土したSK111や、単体で存在するSK97の覆土中には大量の焼土・炭化物が確認できた。残念ながら当時の建物とそれら炭化物を多く含む土坑の関連性が見出せず、屋敷内での廃棄のメカニズムは明らかでない。また、近世初頭の火災等の記録も残っておらず、機能の詳細については述べることができない。今後の課題である。

④は、出土遺物及び覆土の様相からは近代まで遡り得るが、近年の搅乱ではないもの、として判断した。中でもSD183溝跡は出土遺物も多量であったが、複数の時期の遺物が混入して堆積しており、遺構の機能した年代が詳しくいつの時期に当たるのかは判断することができない。

5 第6次調査（JONVI）

（1）遺跡の層序

本調査区は、標高約131mを測り、東から西に向かって緩やかに傾斜している。基本層序は2区の西壁の南側で観察した。土層は、おおむね水平に堆積している。I層は原況の民家を撤去する際に重機で動かされた土層である。II層～IV層は、近世から近代にかけての堆積土であると考えられる。遺構は、すべてIV層の下層面で検出されている。

（2）遺構と遺物の分布

遺構の検出面は1面のみであり、近世から近代にかけての遺構が検出された。土坑6基、井戸跡が1基、溝跡が1条、ピット1基、性格不明遺構1基が検出された。全体的に搅乱が多く、1区は調査区の南から西にかけて、2区は調査区の東半分が原況の家屋などによる搅乱である。

1区で近世に遡る遺構は井戸1基（SE1）のみである。2区は調査区西側に集中して遺構が検出された。

IV 城南町遺跡

(3) 検出された遺構と遺物

① 近世

J O N VISK 7 (第214図 : 図版98・99・100)

特 徴 西側が調査区外にかかる。土層に地山由来ブロックを多く含み、人為的な堆積と考えられる。

出土遺物 産地不明磁器碗(1)、赤瓦平瓦(2)などが出土した。

時 期 細分は出来ないが、おそらく近世後期～近代であると考えられる。

J O N VISK 9 (第215図 : 図版99・100)

特 徴 東側を若干搅乱に切られる。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 砥(1)などが出土した。

時 期 不明である。

J O N VISE 1 (第215図 : 図版99)

特 徴 素掘りの井戸である。北側が調査区外にかかり、上層は現代の側溝に切られている。土層中に径約20cmの礫を多く含むので、人為的な堆積である可能性が高い。

出土遺物 なし

時 期 不明である。

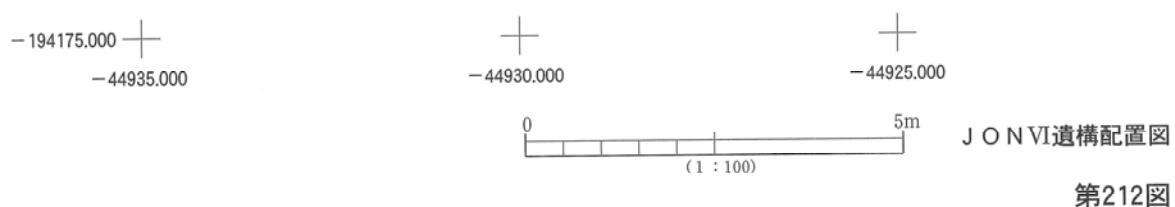
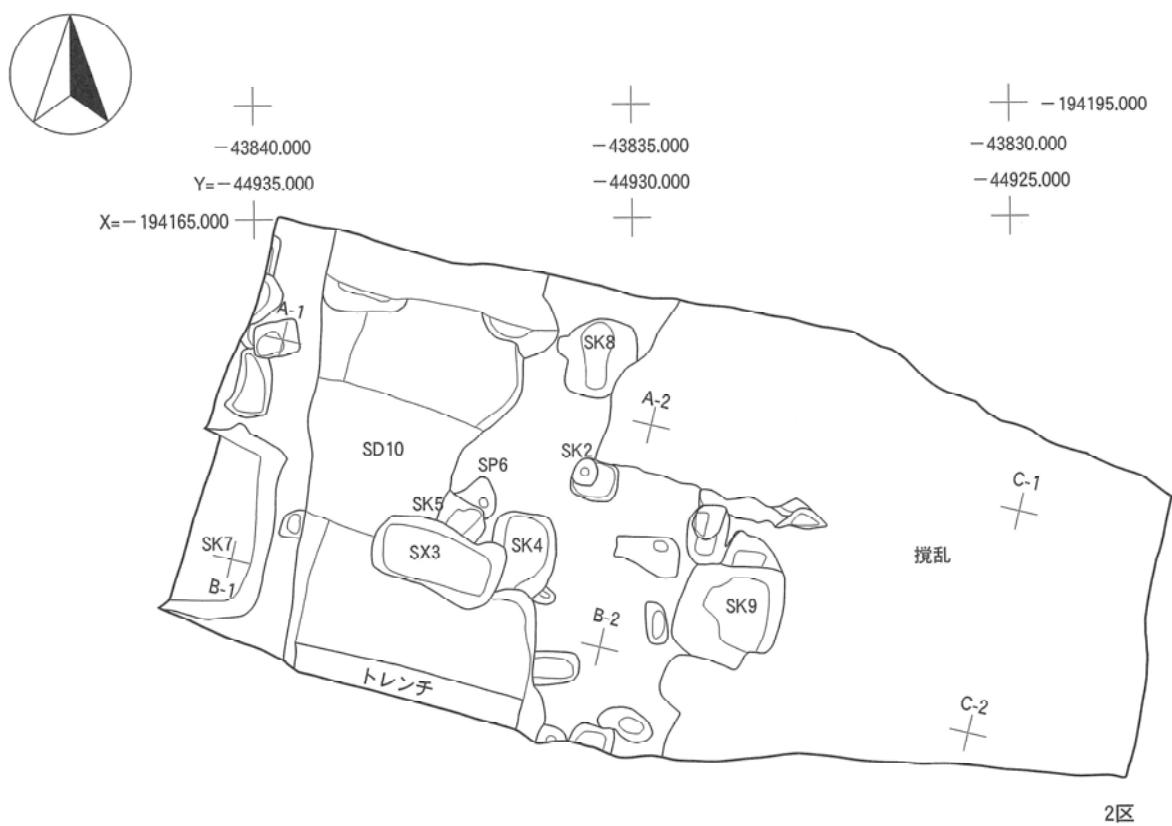
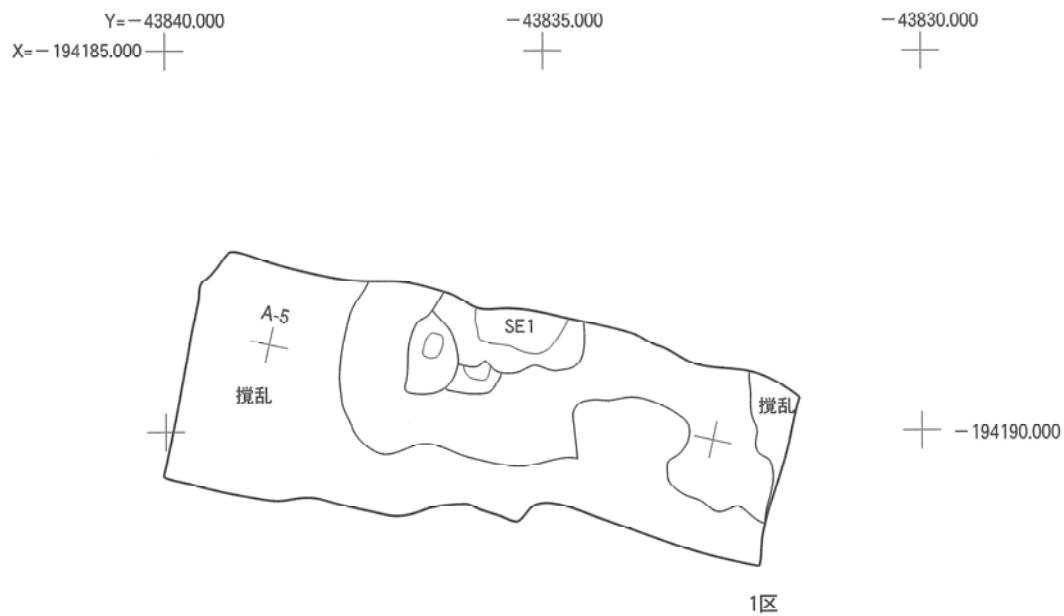
J O N VISD10 (第216図 : 図版99・100)

特 徴 南北に直線的に走る溝である。幅が南端で320cmであるのに対し、中央で158cmと場所によって大きな差がある。

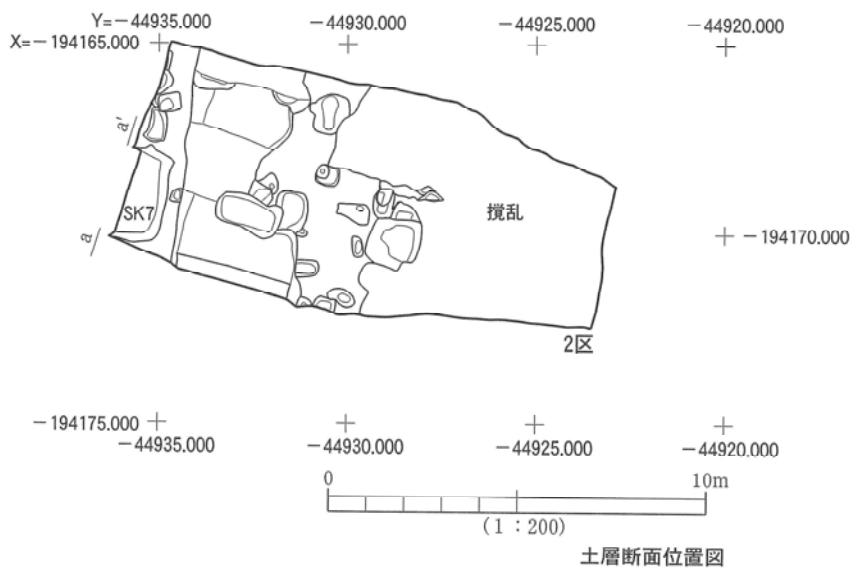
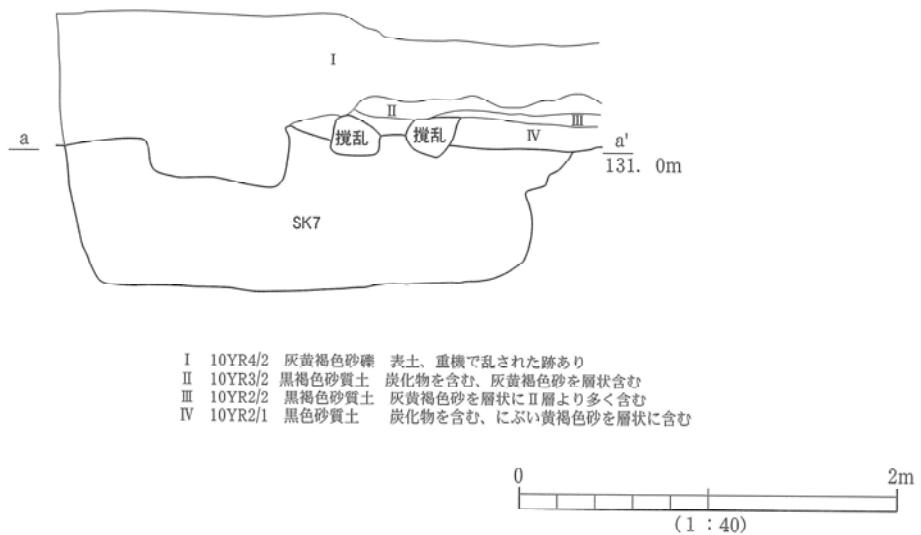
出土遺物 景徳鎮系磁器皿(1)、瀬戸美濃系陶器碗(2)などが出土した。

時 期 (1)からおおよそ16世紀末～17世紀初頭であると考えられる。

IV 城南町遺跡

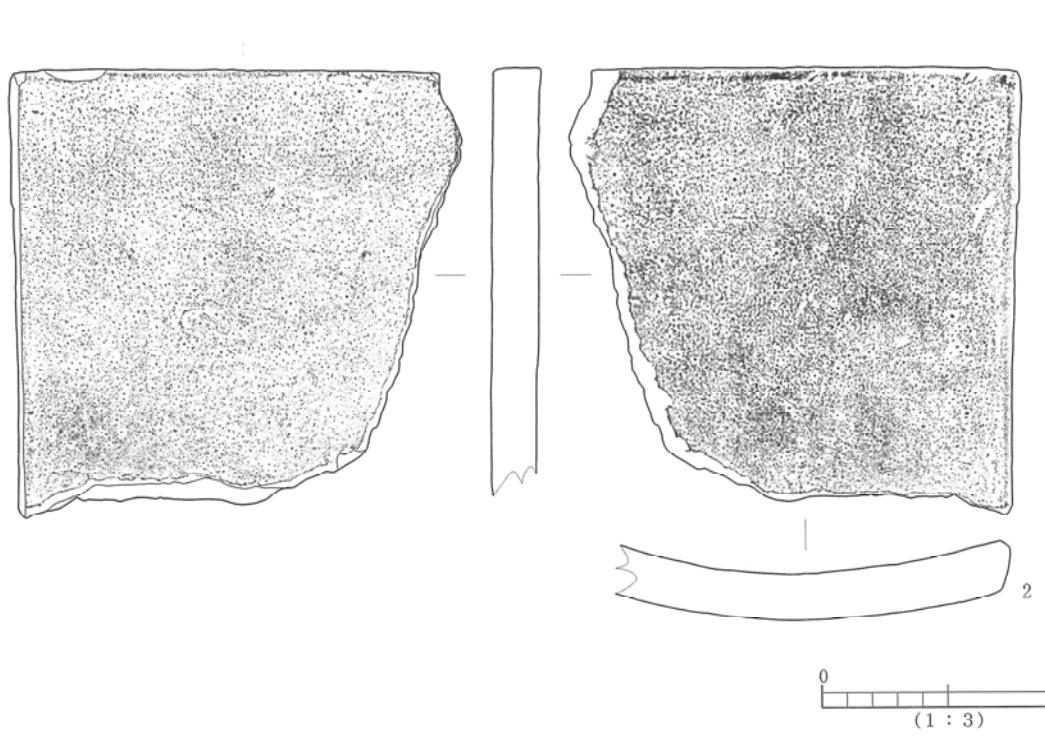
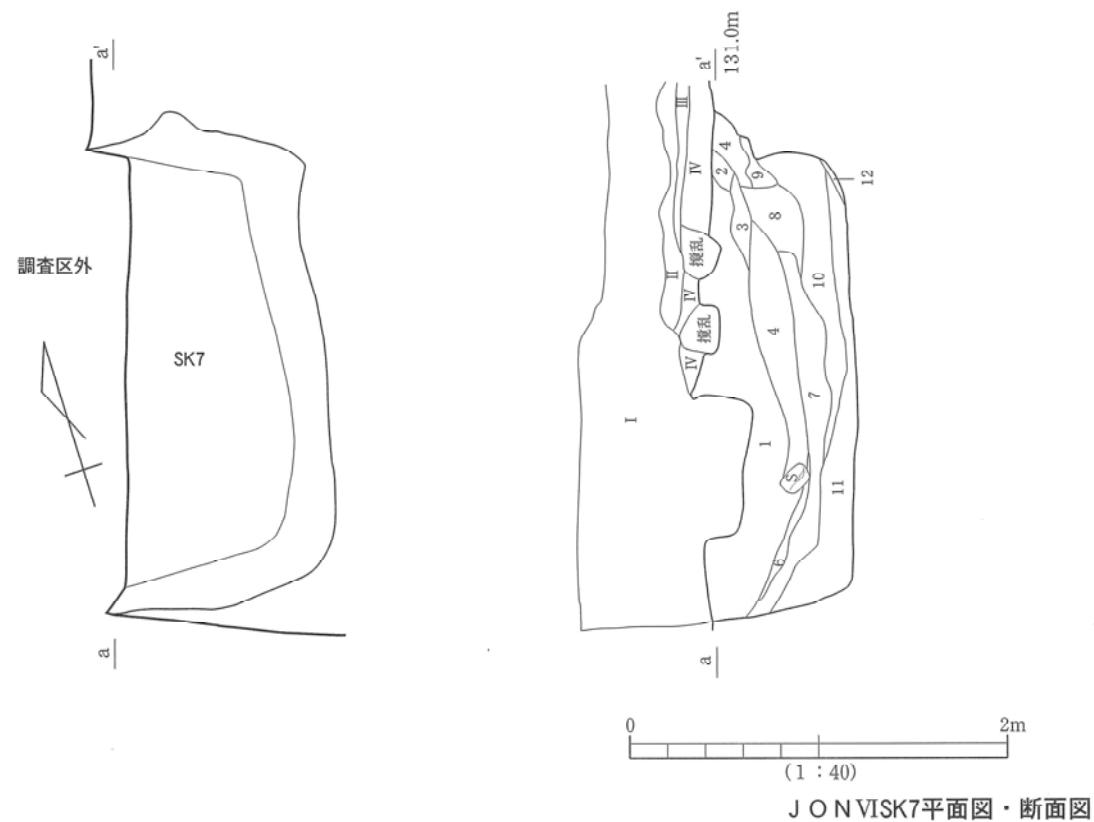


IV 城南町遺跡



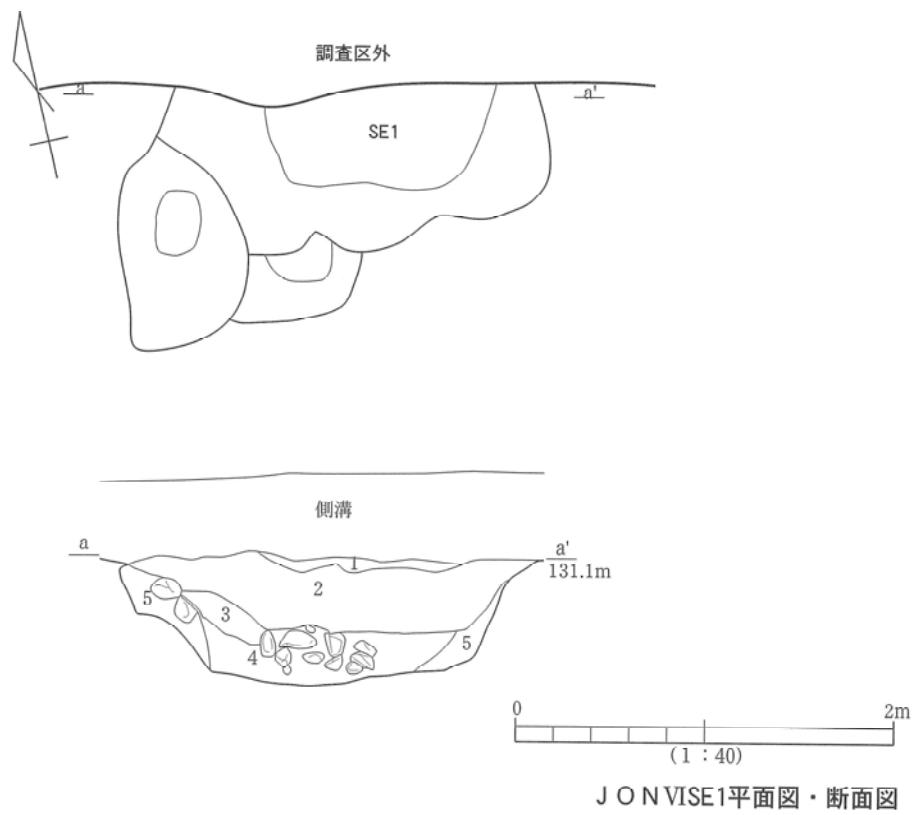
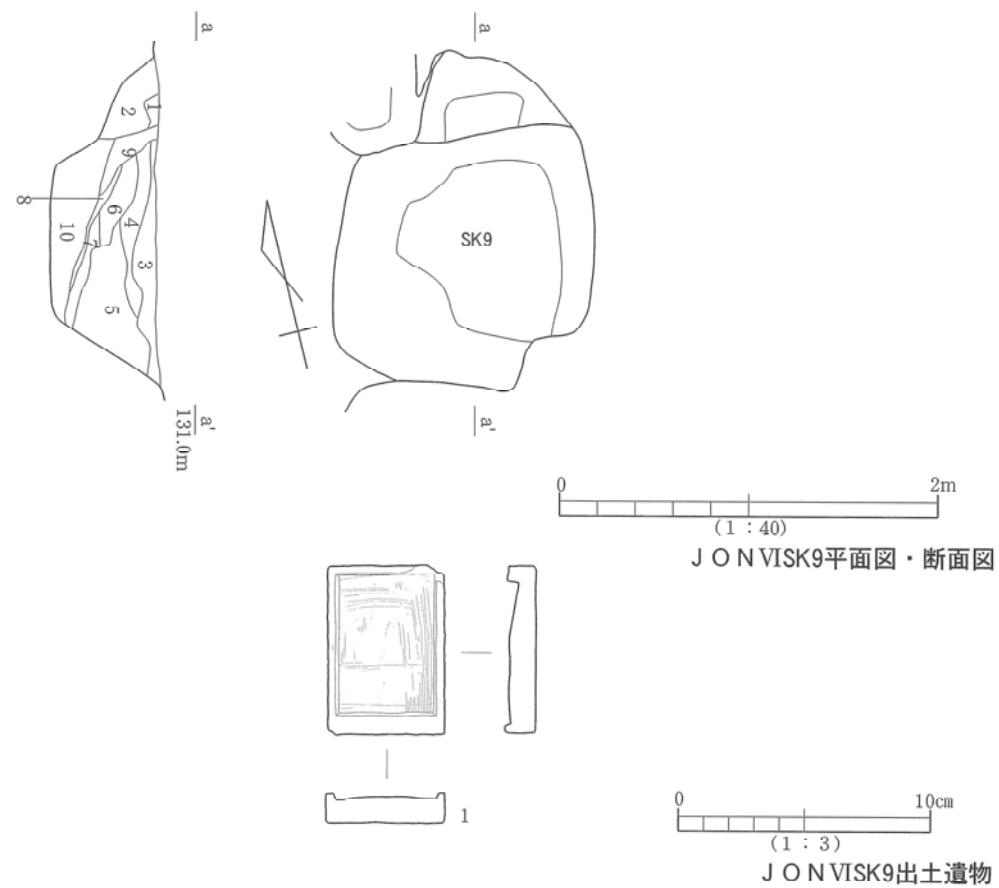
J O N VI基本層序

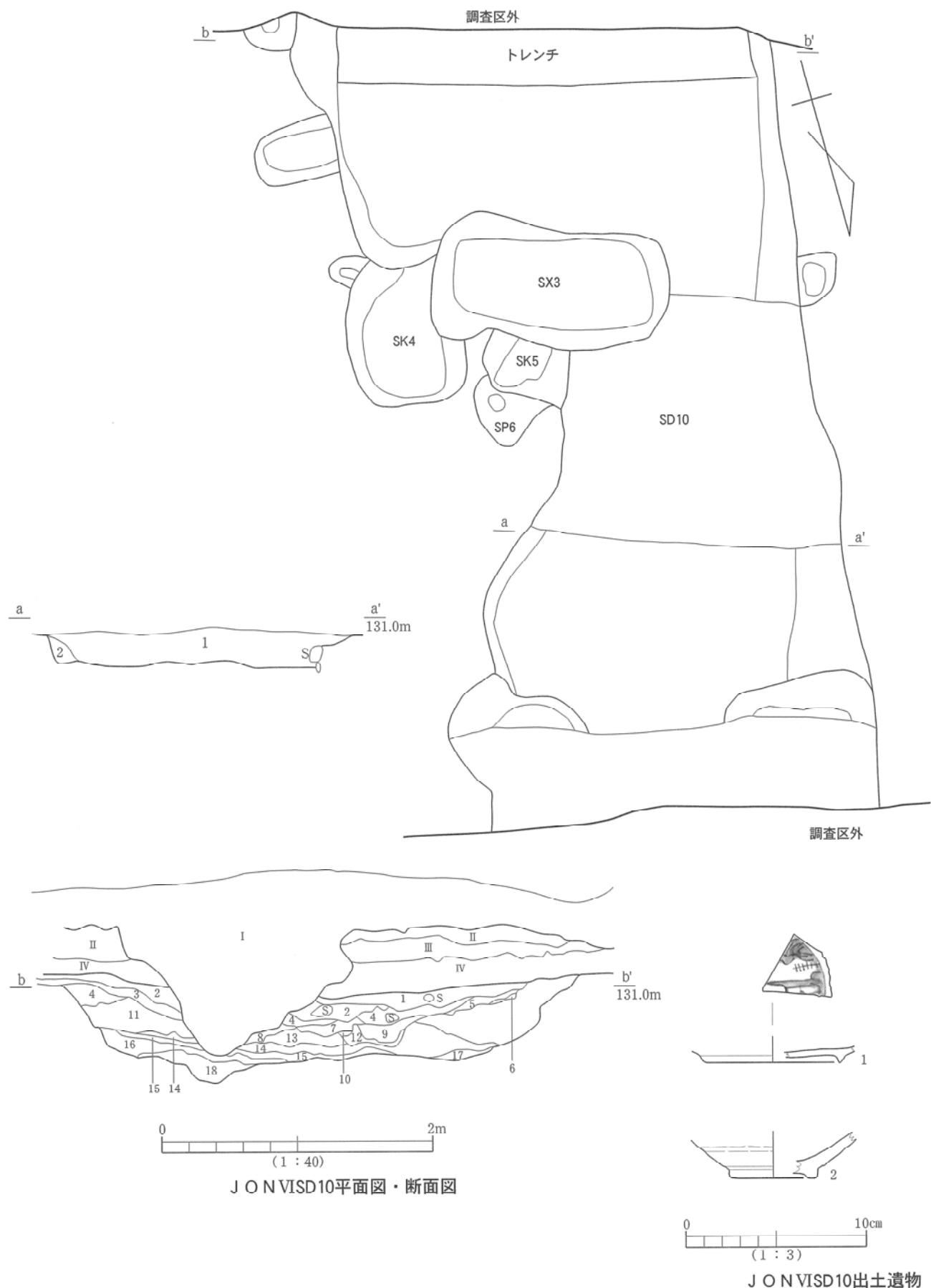
第213図



第214図

IV 城南町遺跡





V 附編

1 山形市双葉町遺跡出土の中世人骨

東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター

はじめに

平成16年度の山形市からの受託業務による遺物保存処理業務の中で、双葉町遺跡の発掘調査で出土した人骨の保存処理及び同定を行った。これらは、主に中世の墓壙と考えられる土坑より出土したものであり、出土人骨の部位や状態を明らかにし、当時の埋葬形態に関する情報を資料化することとした。出土状況等については、『双葉町遺跡（山形城三の丸跡）発掘調査報告書 縄文時代～中世編』（山形市・山形市教育委員会 2005）を参照されたい。同定は東北大学大学院医学系研究科人体構造学分野研究室に依頼したので、以下に署名原稿として掲げる。

山形市双葉町遺跡出土の中世人骨

澤田純明・佐伯史子・百々幸雄（東北大学大学院医学系研究科人体構造学分野）

双葉町遺跡の1997年度から1999年度にかけての発掘調査において、中世に帰属すると思われる土壙4基（1997年度検出：SK354、SK355、SK356；1999年度検出：SK2）から、各1体の埋葬人骨が出土した。人骨に焼成の痕跡は認められず、土葬されたものと思われる。出土人骨は、発掘調査担当者によって出土状況の記録と取り上げがなされた後、保存処理及び人類学的鑑定のため東北大学大学院医学系研究科に搬入された。

人骨の保存状態は全体的に不良で、埋存時における腐蝕や表面の剥落など骨質の劣化が著しい。水あるいはエタノールで洗浄した後に充分に乾燥させてから、溶剤形接着剤（CEMEDIATE C）とアセトンの混合液を骨体内部に浸透させ、形状を固定した上で破片の接合・復元を行ったが、概して形態学的観察は困難であった。原則として骨に付着した堆積土は除去したが、崩壊のおそれがある骨は土とともに保存した。

以下に、各出土人骨の鑑定結果を報告する。出土状況については、発掘調査担当者の記録した写真と実測図に基づいて所見を得た。なお、東北大学に搬入されたSK354出土骨には、埋葬人骨とは別に2体分の人骨の頭蓋破片とウシの右下顎骨が含まれていたが、これらについて出土状況の記録はなく、本来的にSK354土壙に由来するのか、SK354土壙に混入した散乱骨なのか、あるいは取り上げ後の整理段階で生じた混入なのかは、報告書執筆時点では判然としていない。山形市教育委員会の担当者と協議した結果、出土状況の記録があるSK354埋葬人骨をSK354-1、別個体の2体分の人骨をSK354-2、SK354-3として記載する。またウシの下顎骨については本編の末尾に付記する。

SK354-1人骨（写真1）

出土状況

肩関節、肘関節、股関節、膝関節を強く屈曲し、体幹の右側を上に向かた横臥屈葬である。

遺存部位

保存状態が悪く、取り上げられた骨のうち同定できたものは、後頭骨、上顎骨、下顎骨、下部胸椎から腰椎にかけての椎体6点、肩甲骨関節窓と肩甲棘（左右不明）のみである。他に四肢長骨片多数が遺存するものの部位の特定は難しい。上顎骨と下顎骨には、上顎の左第1・第2小白歯、左右第1・第2・第3大臼歯、

下顎の左第2小白歯、左右第1・第2大臼歯、右第3大臼歯が植立する。齲歎などの病変は見当たらない。

年齢・性別

骨体の大きさからみて成人である。上・下顎の第1大臼歯の咬耗はプロカの2度、他の歯の咬耗はプロカの1度であることから、死亡年齢は20～30歳代と推定される。性別は不明。

SK354-2人骨（写真2 上）

後頭骨と頭頂骨を含む頭蓋冠破片である。頭蓋の縫合が内・外板ともにほとんど閉塞していることから熟年～老年と思われる。性別は不明。

SK354-3人骨（写真2 下）

左右の頭頂骨と後頭骨からなる。矢状縫合とラムダ縫合の一部が内・外板とも閉塞していることから壮年～熟年と思われる。外後頭隆起および後頭骨の筋付着部がやや発達していることから男性的な印象を受ける。

SK355人骨

出土状況・遺存部位

出土時の記録から頭蓋および左右の上肢が痕跡的に確認される。上半身は仰臥で、右上肢を肘関節で屈曲した状態である。保存は非常に悪く、ほとんどの骨体が粉末様を呈しており形態学的観察は困難であった。

年齢・性別

大きさからみて成人ないしそれに近い段階まで成長していたと思われる。性別は不明。

SK356人骨

出土状況・遺存部位

出土時の記録では下肢と思われる長骨の痕跡が認められるが、SK355人骨と同様に保存が悪いため、形態学的観察は困難であった。

年齢・性別

成人ないしそれに近い段階まで成長していたと思われる。性別は不明。

SK2人骨（写真3）

出土状況

頭蓋と四肢長骨片が観察されるが埋葬姿勢は不明。

遺存部位

前頭骨から左右頭頂骨にわたる頭蓋冠破片、下顎骨の右臼歯部、遊離歯14点（上顎右側の犬歯、第1第2小白歯、第1・第2大臼歯、下顎右側の第1中切歯、犬歯、第1・第2小白歯、第1～第3大臼歯）、上腕骨？の骨幹部と大腿骨？の骨幹部が認められた。他に四肢長骨片多数が残存する。齲歎などの病変は見当たらない。

年齢・性別

上・下顎の第1大臼歯の咬耗はプロカの2度、他の歯の咬耗はプロカの0～1度であり、特に下顎第3大臼歯がほとんど咬耗していないことから、死亡年齢は20歳代と推定される。性別は不明。

V 附編

付記

SK354ウシ下顎骨（写真4）

右下顎骨の臼歯部とこれに植立する前臼歯および後臼歯の破片である。歯冠表面の剥落が著しく歯種の特定はできなかった。咬合面の状態も明瞭ではないが、残存する歯冠長からみて咬耗は進んでおらず、比較的若齢の個体と思われる。

写真の説明

写真1 双葉町遺跡 SK354-1人骨

写真上：（上段）後頭骨と上・下顎骨 （下段）下位胸椎と腰椎

写真下：（上段左から）右上顎第3大臼歯、右上顎第2大臼歯、右上顎第1大臼歯、左上顎第1小白歯、左上顎第2小白歯、左上顎第1大臼歯、左上顎第2大臼歯、左上顎第3大臼歯
（下段左から）右下顎第3大臼歯、右下顎第2大臼歯、右下顎第1大臼歯、左下顎第2小白歯、左下顎第1大臼歯、左下顎第2大臼歯

写真2 双葉町遺跡 SK354-2人骨（上）・SK354-3人骨（下）

写真上：SK354-2人骨 頭蓋冠破片

写真下：SK354-3人骨 左右の頭頂骨と後頭骨

写真3 双葉町遺跡 SK2人骨

写真上：頭蓋冠と下顎骨

写真下：（上段左から）右上顎第2大臼歯、右上顎第1大臼歯、右上顎第2小白歯、右上顎第1小白歯、右上顎犬歯

（下段左から）右下顎第3大臼歯、右下顎第2小白歯、右下顎第1小白歯、右下顎犬歯、右下顎中切歯、左下顎第1大臼歯

写真4 双葉町遺跡 SK354ウシ

後臼歯破片と右下顎骨の前臼歯部

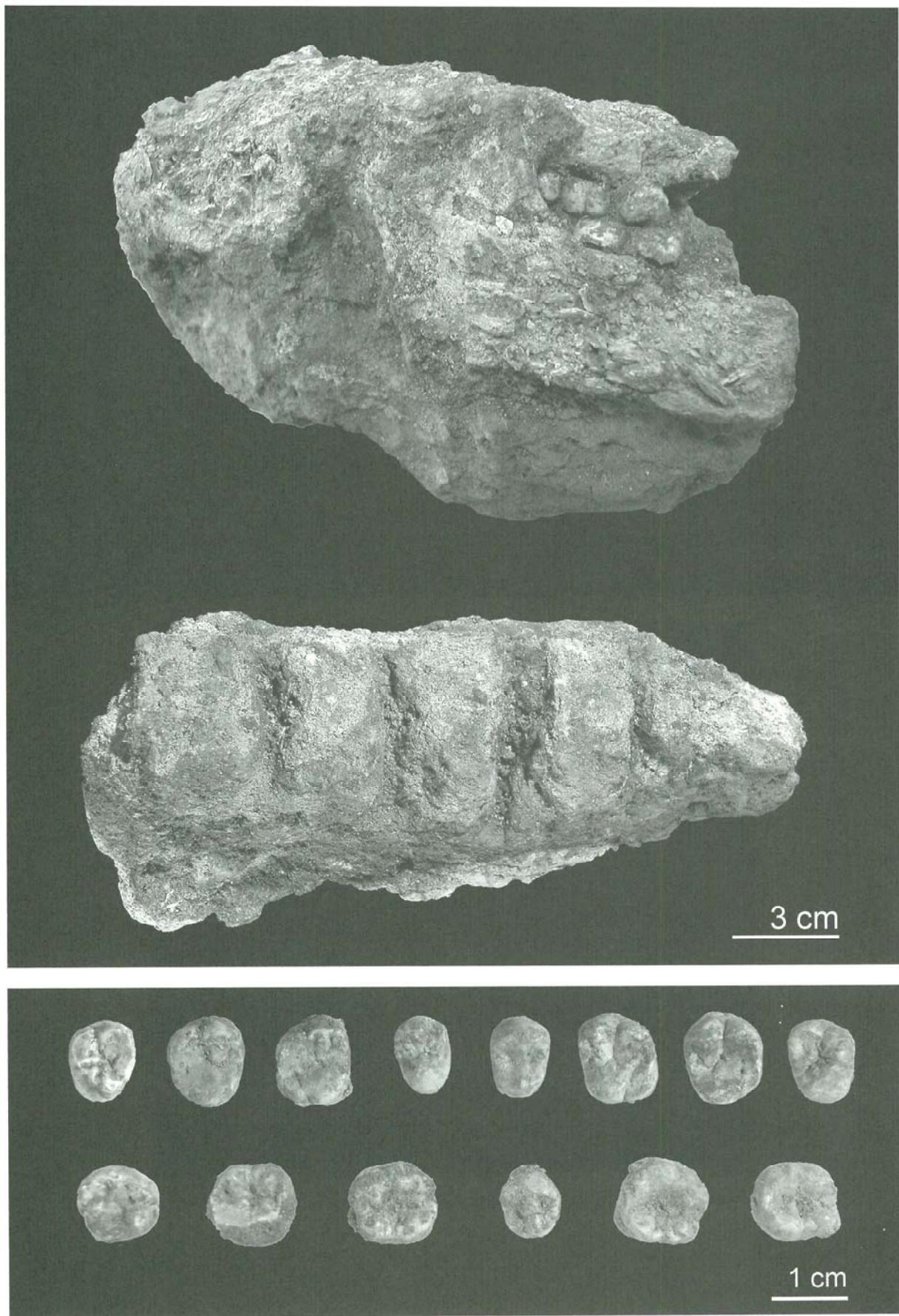


写真1 双葉町遺跡SK354-1人骨

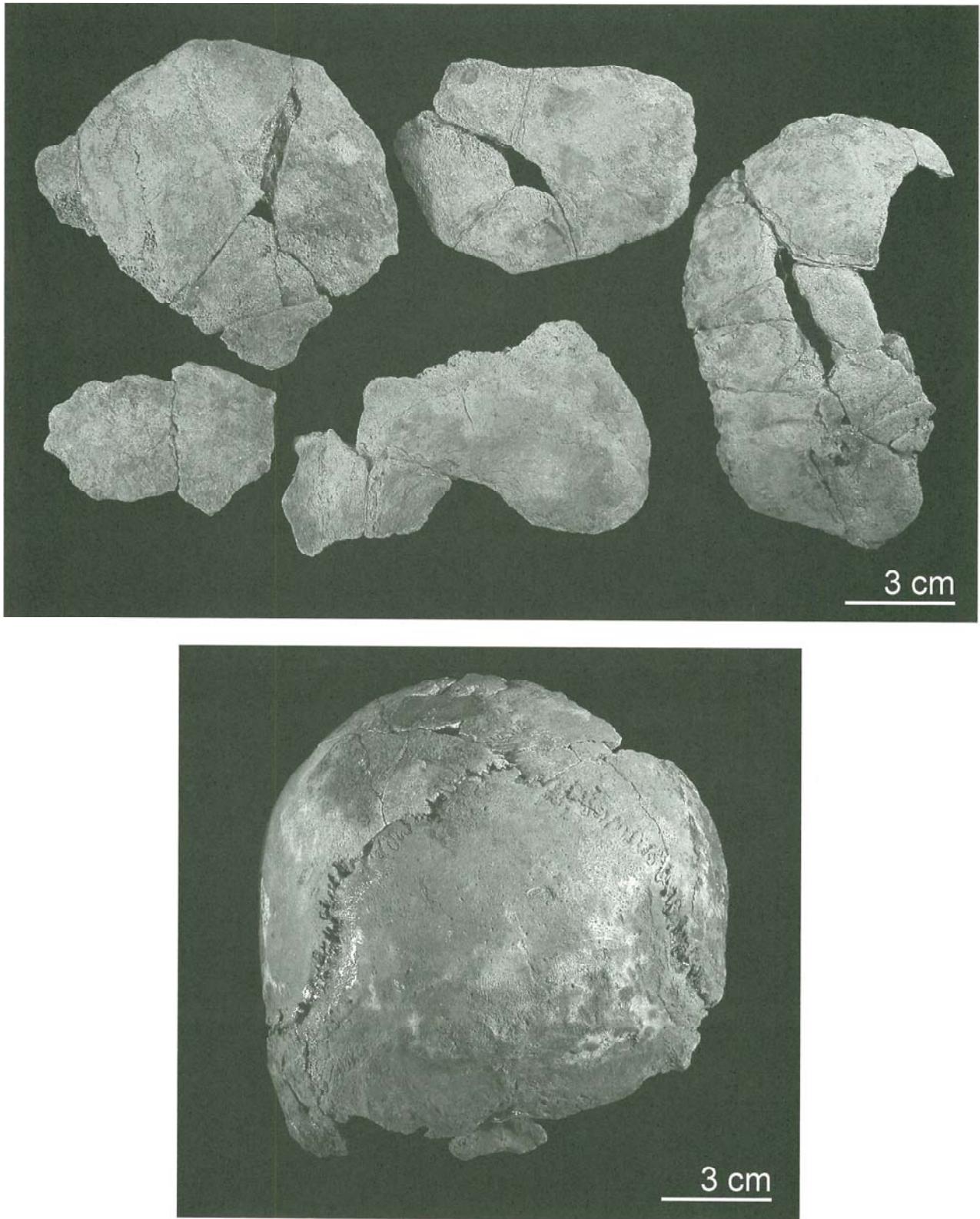


写真2 双葉町遺跡SK354-2人骨（上）・SK354-3人骨（下）

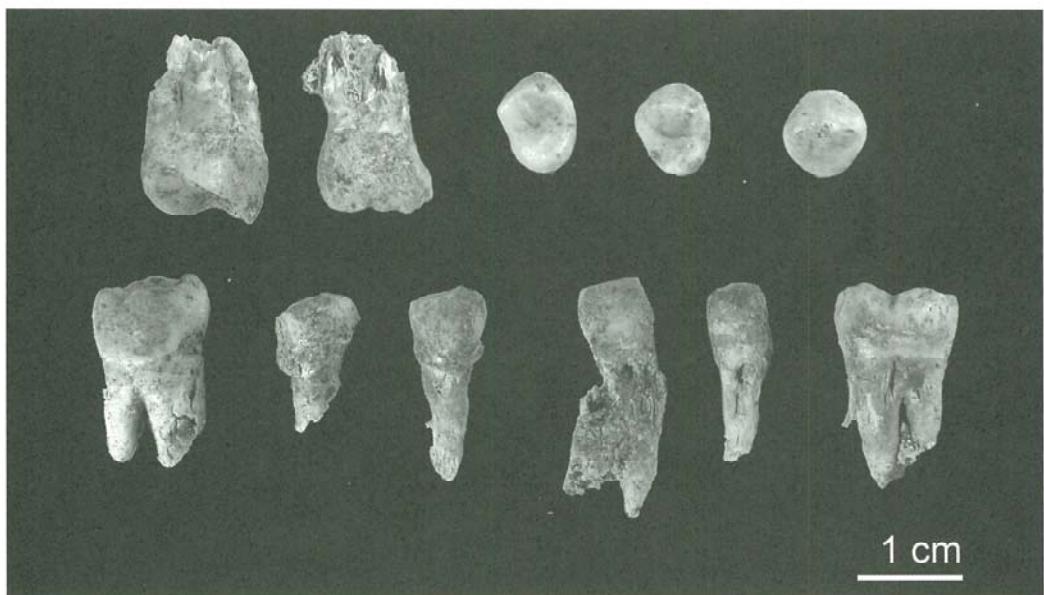
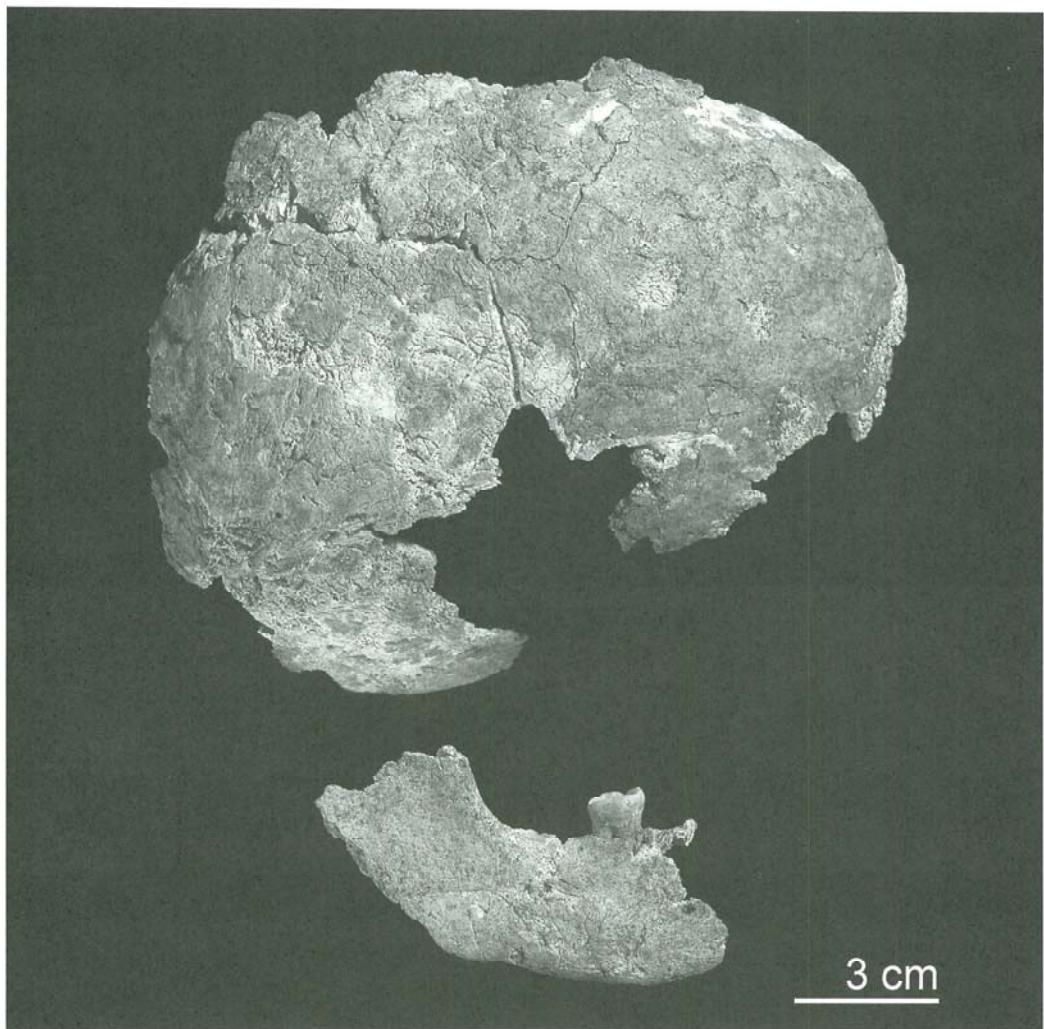


写真3 双葉町遺跡SK2人骨

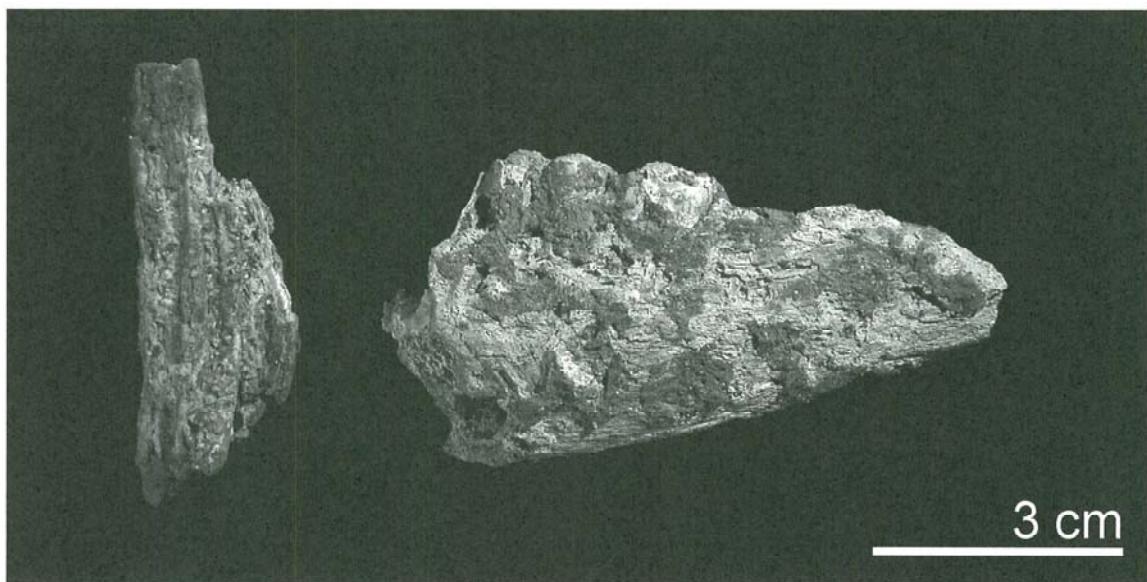


写真4 双葉町遺跡SK354ウシ

2 山形市教育委員会調査 双葉町遺跡出土土器・陶磁器付着物の フーリエ変換赤外分光分析 (FT-IR) 結果報告

東北芸術工科大学
文化財保存修復研究センター
手代木美穂 宮沢 愛

1. はじめに

考古資料の対するフーリエ変換赤外分光分析 (FT-IR) は漆の同定や土器の胎土分析などに用いられており、有機質遺物のみならず無機質遺物にも汎用可能な分析として有効である。

この度、山形市教育委員会が調査した双葉町遺跡出土土器・陶磁器の付着物が漆か否かを判断するために、前述分析を適用した結果を下記の通り報告する。なお、FT-IRの特性から土器に付着した赤色顔料に対しても本分析を適用した結果も共に報告する。

2. 資料

双葉町遺跡より出土した肥前産、珠洲産などの陶磁器片などの付着物12点、二重口縁壺に付着した赤色顔料1点、以上13点の資料から、考古学分野の情報を欠如しない部分を考慮しながら、分析に供する試料を採取した。

表1 分析資料一覧

遺構番号	No.	種別等	分析試料
F T BSK1260	3	漳州碗	付着物 (漆か否か)
F T BSK1494	3	肥前系陶器皿	付着物 (漆か否か)
F T BSK1260	1	肥前系陶器皿	付着物 (漆か否か)
F T BSD301	6	漳州皿	付着物 (漆か否か)
F T BSD307	1	漳州皿	付着物 (漆か否か)
F T BSD1045	4	口クロかわらけ	付着物 (漆か否か)
F T BSD1061	5	瀬戸美濃志野皿	付着物 (漆か否か)
F T BSD1068	1	珠洲甕	付着物 (漆か否か)
F T BSD1077	6	肥前系陶器皿	付着物 (漆か否か)
F T BSD1129	1	肥前系陶器皿	付着物 (漆か否か)
F T BSE305	1	瀬戸美濃皿	付着物 (漆か否か)
F T BSE1050	1	肥前系陶器碗	付着物 (漆か否か)
F T BST3001	2	土師器壺	付着物 (赤色顔料)

3. 分析方法

分析にはPerkinElmer社製顕微赤外分光分析器を用いた。資料より採取した試料をKBr錠剤法で調整した。採取した試料の大きさによって錠剤を1～3個作製し、分析結果の精度向上を試みた。得られた赤外線スペクトルを用いて漆か否かの判別を行った。スペクトルの縦軸は反射率《T%》、横軸は波数(カイザー)《cm⁻¹》を示している。

4. 結果考察

漆と同定可能であった資料はFTBSK1494およびFTBSD1077資料であった。漆と同定する要素である 1475cm^{-1} 、 1465cm^{-1} 、 733cm^{-1} 付近に幅広い反射率の低下、言い換えればブーロドな吸収が見られた。

他、FTBSE305およびFTBSD1061は漆の赤外線スペクトルは漆のそれと酷似しているが、同定までには至らなかった。さらに、FTBSD1129、FTBSD1068およびFTBSE1050は得られたスペクトル同士が酷似しており、同一成分のものである可能性がある。

FTBST3001の赤色顔料は 1035cm^{-1} 付近の粘土鉱物の主成分である珪素および酸素の存在を示すスペクトルが高く、土器胎土の粘土ではないと仮定した場合、赤色顔料が土壤由来のものである可能性も否定できない。

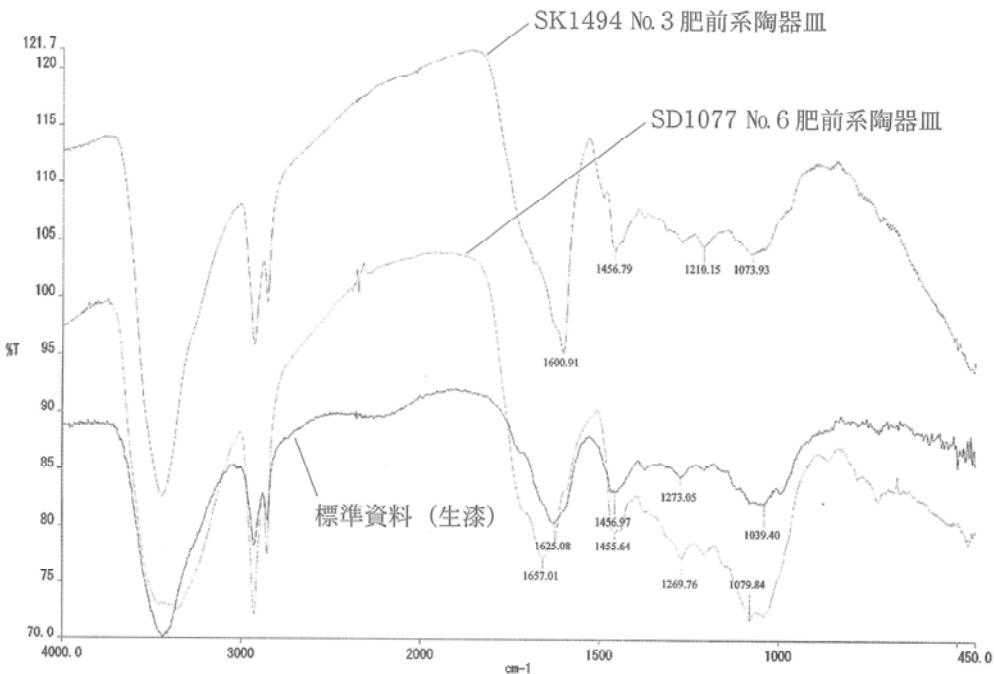


図1 分析資料および標準資料のスペクトル線

VI 考察

(1) 調査の成果

双葉町遺跡及び城南町遺跡は、山形市内を流れる馬見ヶ崎川により形成される扇状地扇端部上に立地する、縄文～近代にわたる集落跡及び城館遺跡である。近世には山形城三の丸跡の範囲に含まれる。本報告書掲載の内容は、平成9～16年度にかけて実施した、山形駅西土地区画整理事業地内における都市計画道路敷設その他の工事を原因とする緊急発掘調査の報告である。

(2) 検出された遺構及び遺物について

① 縄文時代

FTBⅢ調査区確認面で縄文土器深鉢、FTBVII調査区で陥穴状遺構、JONV調査区で住居柱穴と推定されるピット群が検出された。

各々の帰属時期は、古い順から列挙するとFTBⅢ出土の縄文土器深鉢（第33図-1）は大木6式期並行・縄文時代前期末葉の土器形式であった。

JONV遺跡出土土器の時期は縄文時代後期前葉及び晩期中葉のものが大勢を占める様相であった。県埋蔵文化財センター調査区の城南一丁目遺跡からも縄文時代中期前葉～晩期中葉に渡る遺物が確認されている。遺構は無数のピット群が切り合う様相（第170図）であり、当該時期の住居跡のピット群であったものと想定されるが、住居壁面の立ち上がりを確認することができず、住居構成を組み上げるには至らなかった。今後の課題である。

FTBVII調査区からは縄文時代の遺物の出土はなく、遺構の形状から縄文時代の陥穴としたが、時期は不明であった。遺構は分散して確認される様相であり、帰属時期の変遷もはっきりとしない。

上記の理由から、狩猟の場であるキルサイトとして利用された時期と、縄文時代後～晩期にかけて集落跡が築かれた時期の2時期の利用があったものと推定できる。

② 古墳時代

FTBVI・FTBVII調査区を中心とする双葉町遺跡範囲の西側に竪穴住居跡・溝跡がまとまって検出された。主体は、竪穴住居跡（FTBVIST25・45・49・81・126・FTBVIST144・146・196・230等）から古墳時代後期末葉～飛鳥時代（7世紀後半～8世紀前葉）の遺物が出土している。竪穴住居構造の傾向として、住居北西寄りにカマドが付き、平面規模は一辺が5m前後の規模のものが多い。双葉町遺跡第1次調査区（齋藤・須藤2004・2005）でも、FTBVI・FTBVII調査区隣接の区域に同時期の竪穴住居跡が集中して検出される傾向であった。FTBVIST244出土遺物（第108図）に上記出土遺物より一段階古い住社式併行の遺物が含まれる。双葉町遺跡第1次調査では古墳時代前期の遺構及び遺物が検出されたが、本書掲載の区域ではそれらの遺構・遺物は確認されなかった。

古墳時代後期末葉～飛鳥時代の遺跡については、山形市域のみならず県内で確認されている遺跡の数も少なく、双葉町遺跡出土資料は今後本県内における当該時期の指標となる事例と考えられる。

③ 奈良～平安時代

FTBVI・FTBVII調査区を中心とする区域、及びJONⅢ・JONIV調査区で竪穴住居跡群が検出された（FTBVIST45・49・131・91・FTBVIST146・234・271・JONⅢST122・JONIVST42・43等）。FTBVII調査区では、素掘りの井戸跡も数例検出されている（FTBVISE15・FTBVISE105・147・220等）。ピークとしては、

VI 考察

奈良時代末～平安時代初頭（8世紀末～9世紀前半）の時期に集中する傾向にある。竪穴住居構造の傾向として、住居北側にカマドが付き、平面規模は一辺5～6×5m程度の規模のものが多い。井戸跡は平面直径が0.8～1.5m、深さが0.8～1.4mを測る。

山形市街周辺地域には数多く同時期の遺跡が確認されているが、双葉町遺跡・城南町遺跡付近における同時期の遺跡は山形西高敷地内遺跡のみであり、市内南部には吉原遺跡群が確認されている。双葉町遺跡・城南町遺跡周辺を含む現在の山形市街地は、『和名類聚抄（高山寺本）』によれば、最上郡最上郷に比定される（柏倉1982）。双葉町遺跡・城南町遺跡は最上郡最上郷に含まれると仮定するならば、これらの遺構群は最上郷の集落様相の一端である可能性が想定できよう。集落の生業や、集落内遺構配置等の検討については時間的制約もあり、十分な検討を行うことができず今後の課題である。

④ 中世

双葉町遺跡側調査区に井戸跡・土坑・溝跡がまとまって検出され、城南町遺跡側調査区では希薄であった。時期は、13～14世紀の井戸跡・土坑群（FTBVISE6・8・11・104・FTBVISE159等）がやや古い時期のものと判断される。16世紀～17世紀初頭の中～近世移行期にあたる時期（FTBⅢST72・FTBⅡSD08・FTBVII SD13など）の遺構も集中して検出された。

FTBⅢSK2は人骨が出土しているため墓壙と考えられる。双葉町遺跡第1次調査の検出例と比較すると、上記の中～近世移行期の遺構よりやや先行する時期のものと判断されるが、共伴遺物が無いため具体的な時期はわからない。FTBⅢSD26（FTBⅡSD02）はFTBⅢSD24（FTBⅡSD08・FTBSD6035）を切る幅3m前後を測る溝である。JONIVSD33は幅8.9mを測る大溝であり、出土遺物の様相から16世紀代の年代が推定される。

双葉町遺跡・城南町遺跡が山形城三の丸範囲内に含まれることもあり、上記の遺構群は近世の山形城建設前段の遺構群として重要な性格を持つと考えられ、今後詳細な検討を要すると考えられる。

⑤ 近世

全ての調査区で遺構・遺物が確認された。時期は17世紀初頭前後を中心とし、確認された遺構の種類は掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・堀跡・土坑・柱穴等である。出土した遺物は中国製磁器・瀬戸美濃系陶器・肥前系陶磁器・かわらけ・瓦・石製品・金属製品等多岐に亘る。

掘立柱建物跡で検出されたのはFTBⅢSB114・SB129・FTBVII SB322のみであり、調査面積に比してごく少ない。井戸跡・土坑・溝跡は膨大な数の遺構が検出された。

山形城三の丸の武家屋敷の区割りの変遷と上記の遺構の変遷がどのように対応するのか、詳細な検討ができていない。今後の検討課題である。

⑥ 近代

FTBⅡ調査区及びFTBⅢ調査区で近代の練兵場に付随する塹壕と考えられる溝跡が数多く検出された。全ての調査区で産地不明陶磁器・金属製品等が出土している。調査・整理期間の制約上ほとんど詳細な検討を行うことができなかった。今後の検討課題である。

<参考文献>

- 阿子島功・黒坂雅人 2002 「山形市馬見ヶ崎川扇状地扇端部の城南一丁目遺跡の地下水位」『山形応用地質』22
- 阿子島功・齋藤仁 2004 「山形市馬見ヶ崎川扇状地扇端部の井戸遺構と地下水位復元」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第5号
- 阿部明彦・水戸弘美 1999 「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局
- 五十嵐一治 2005 『東根小屋町遺跡』秋田県文化財調査報告書第387集 秋田県教育委員会
- 五十嵐貴久 2005 「山形城跡」『第4回 北日本近世城郭検討会「城を守るもの 堀と土塁 一城絵図の考古学―」』第4回 北日本近世城郭検討会 山形大会事務局
- 伊藤邦弘・高桑登・多田和弘 2005 『山形城三の丸跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第142集
- 氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯
- 押切智紀・楨綾 2003 『米沢城跡第3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第135集
- 小野忍 1996 「山形県の8世紀の土器」『日本土器事典』雄山閣
- 柏倉亮吉・後藤嘉一・江川 隆 1981 『山形城跡発掘調査報告書』山形市教育委員会
- 柏倉亮吉 1982 「5 和名抄による郷の分布」『山形県史 第一巻 原始・古代・中世編』山形県
- 菊地政信 2000 『米沢城東二の丸跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第68集
- 國井修 2003 『山形城三の丸跡(山形市立第一小学校敷地内)発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 黒坂雅人・國井修・稻村圭一『城南一丁目遺跡』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第69集
- 齋藤仁・須藤英之 2004 『双葉町遺跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書 近世編』山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 齋藤仁・須藤英之 2005 『双葉町遺跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書 繩文時代～中世編』山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第24集
- 佐藤正俊 199 『山形西高敷地内遺跡 第4次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 集
- 佐藤庄一・水戸弘美 1993 『山形西高敷地内遺跡 第5次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第192集
- 佐藤禎宏 1996 「山形県の7世紀の土器」『日本土器事典』雄山閣
- 渋谷孝雄・黒坂雅人 1988 「山形盆地の奈良～平安時代の集落構造の変遷」『山形考古』第4巻第2号 山形考古学会
- 須賀井新人 2003 「山形県内の黒色土器編年について」『山形考古』第7巻第3号 山形考古学会
- 菅原哲文・大村和弘 2002 『鶴ヶ岡城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第99集
- 高桑登・黒沼幹男 1999 『米沢城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第66集
- 鈴木良仁・須賀井明子 1996 『富山2遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第41集
- 高橋信敬 1974 『最上時代 山形城下絵図』誌趣会
- 東北芸術工科大学芸術学科 田中哲雄研究室監修 2000 『史跡「山形城跡」(三の丸)整備基本構想』山形市教育委員会
- 西田泰民 1996 「堀之内式土器」『日本土器事典』雄山閣
- 丹羽茂 1996 「大木式土器」『日本土器事典』雄山閣
- 藤村東男 1996 「大洞式土器」『日本土器事典』雄山閣
- 村山市史編さん委員会 1981 『作野遺跡遺物集成』村山市史編集資料第9号
- 財団法人 最上義光歴史館 1990 『図録 山形県城郭古絵図展』
- 山形県 1982 『土地分類基本調査 山形』
- 山形市 1992 『史跡・山形城跡 二ノ丸東大手門復原建設工事報告書(概要版)』
- 山口博之・渡辺薰 1996 『渡戸遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第35集

挿図	遺構番号	層序	土色	土質	備考
第140図	F T B (c-c')	1	10YR2/2	黒褐色砂礫	土壘盛り土。
		2	10YR2/3	黒褐色砂質シルト	しまりなし、径5~15cmの礫を含む。
		3	2.5Y4/1	黄灰色シルト質砂	
		4	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	しまりあり。
		5	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	やや粘性があり、しまる、陶器片出土(1片)。
		6	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	やや粘性あり。
		7	2.5Y4/2	暗灰黄色砂質シルト	やや粘性あり。
		8	10YR3/1	黒褐色シルト	やや砂質、しまりあり。
		9	2.5Y3/1	黒褐色シルト質砂	
		10	5Y4/1	灰色シルト質砂	
		11	2.5Y4/1	黄灰色砂質シルト	ややしまりあり、やや粘性あり。
		12	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	やや粘性あり、しまりなし。
		13	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	ややしまりなし、礫(径10cm~20cm)を含む。
		14	10YR3/2	黒褐色砂質シルト	ややしまりなし。
		15	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	ややしまる。
		16		礫	径5~10cm、径20cmの礫(土壘法面か?)。
		17	10YR5/4	にぶい黄褐色砂	径20cm程度の礫を含む。
		18	5Y5/2	灰オリーブ砂礫	
		19	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	径5~10cmの礫を均一に含む。
		20	10YR4/4	褐色砂礫	
		21	10YR3/2	黒褐色砂礫	やや土質。
		22	10YR5/6		均一な砂層。
第140図	F T B (d-d')	1	10YR3/1	黒褐色砂質シルト	しまりややあり、植物の根を含む、褐色土(10YR6/4)ブロックを含む。
		2	10YR6/4	にぶい黄橙色砂礫層	しまりなし。
		3	10YR4/3	にぶい黄褐色砂質シルト	しまりあり。
		4	10YR5/3	にぶい黄褐色砂質シルト	しまりややあり、径5~30cmの礫を含む。
		5	10YR6/1	褐灰色砂層	しまりあまりなし。
		6	10YR5/2	灰黄褐色砂層	しまりあまりなし。
		7	10YR2/2	黒褐色砂質シルト	しまりあまりなし、植物の根を含む、土壘築造前の表土か?
		8	10YR5/6	黄褐色砂礫層	しまりなし。
		9	10YR4/2	灰黄褐色砂礫層	しまりあまりなし。
		10	10YR5/1	褐灰色砂質シルト	しまりややあり、植物の根を含む、土壘築造前の表土か?
		11	10YR6/2	灰黄褐色砂礫層	しまりなし。

遺構番号	帰属グリッド	重複関係	規 模	平面形状	時 期	備 考	挿図番号	図版番号
J ON VSP126	D-4		0.6×0.5	円形	繩文	2つのピットが切り合う。	170	—
J ON VSP127	D-5		1.2×0.4	不整円形	繩文	複数のピットが切り合う。	170	—
J ON VSP128	D-4~5		0.7×0.4	円形	繩文	複数のピットが切り合う。	170	—
J ON VSP129	D-5		0.4×0.3	円形	繩文		170	—
J ON VSP130	C-5		0.45×0.3	円形	繩文		170	—
J ON VSP131	D-5	SI179に切られる。	0.8×0.3	円形	繩文	複数のピットが切り合う。	170	—
J ON VSP132	C-5		0.9×0.5	円形	繩文	複数のピットが切り合う。	170	—
J ON VSP134	D-4		0.5×0.3	円形	繩文	複数のピットが切り合う。	170	—
J ON VSP135	C-5	SP136に切られる	0.7×0.4	円形	繩文		170	—
J ON VSP136	C-5	SP135を切る	0.7×0.3	円形	繩文		170	—
J ON VSP137	D-4		0.8×0.9	円形	繩文		170	—
J ON VSP138	C-5		0.6×0.4	円形	繩文		170	—
J ON VSP146	C-5		0.5×0.4	円形	繩文		170	87
J ON VSP152	C-4	SP153を切る	1.1×0.7	円形	繩文		170	84
J ON VSP153	C-4	SP152に切られる	0.6×0.3	円形	繩文		170	84
J ON VSP157	D-4	SP158を切る	0.3×0.3	円形	繩文		170	—
J ON VSP158	D-4	SP157に切られる	0.3×0.3	円形	繩文		170	—
J ON VSP159	C-4	SP160に切られる	0.5×0.3	円形	繩文	複数のピットが切り合う。	170	—
J ON VSP160	C-4	SP169を切る	0.6×0.5	円形	繩文	複数のピットが切り合う。	170	—
J ON VSP161	C-4	SP160・SP159を切る	0.3×0.3	円形	繩文		170	—
J ON VSP170	C-5		0.6×0.3	楕円形	繩文		170	97
J ON VSP190	D-5		0.6×0.3	楕円形	繩文		177	—
J ON VSP204	C-6		長軸1.7	長楕円形	繩文		185	—
J ON VSK192	D-5	SI179に切られる。	1.7×1.5	不整方形	平安？		177	—
J ON VSP115	D-5		0.65×0.4	長楕円形	平安		176	—
J ON VSP117	D-5		0.45×0.45	円形	平安		176	—
J ON VSK202	A-13	SK203を切る。	長軸2.1	不整円形	近世初頭		189	82
J ON VSK203	A-13	SK202に切られ、SE194を切る。	5.2×5.1	不整円形	近世初頭		189	82
J ON VSK84	B-3		2.0×1.6	不整円形	近世初頭		190	—
J ON VSK85	B-3		1.8×1.3	不整円形	近世初頭		190	—
J ON VSK86	B-4		0.9×0.8	円形	近世		192	—
J ON VSK92	B-2		1.6×1.0	不整方形	近世～近代		193	—
J ON VSK97	A-4~5		1.5×1.2	長楕円形	近世初頭		194	—
J ON VSK98	B-5	SD101に切られる。	幅1.2×0.9	不整円形	近世		208	—
J ON VSK100	B-5	SK103・SK104・SK105に切られる。	4.3×1.7	長楕円形	近世初頭		196	—
J ON VSK103	B-5	SK100を切る。	2.8×1.4	不整円形	近世初頭		196	—
J ON VSK104	B-5	SK100を切る。	1.3×0.9	円形	近世初頭		196	—
J ON VSK105	B-5	SK100を切る。	0.7×0.4	不整円形	近世初頭		196	—
J ON VSK110	C-1		1.2×0.8	不整円形	近世		198	—
J ON VSK111	B～D-6	SK193との切り合い不明。	—	不整円形	近世初頭	長軸1.5m前後の土坑が切り合う。	199	—
J ON VSK193	B～D-6	SK193との切り合い不明。	—	不整円形	近世初頭	長軸1.5m前後の土坑が切り合う。	199	—
J ON VSK168	A-7		1.9×1.6	円形	近世		204	—
J ON VSP106	B-6		0.9×0.8	円形	近世初頭		204	84

遺構番号	帰属グリッド	重複関係	規 模	平面形状	時 期	備 考	掲図番号	図版番号
J ON VSK199	B-12		0.8×0.6	円形	近世～近代		205	—
J ON VSD99	A-4	SE96に切られる。	幅1.1	蛇行	近世初頭		207	—
J ON VSD101	B-5～6	SK98を切る。	幅0.7	直線	近世～近代		208	—
J ON VSD141	A-7～B-8		幅2.5	直線	近世初頭		209	—
J ON VSD183	A～C-11		幅1.4	直線	近世～近代		210	—
J ON VSD201	B～C-14		幅1.5	直線	近世		170	84
J ON VSP120	B-7		0.8×0.5	円形	近世		206	—
J ON VSK119	B-8		1.2×0.8	円形	近世		206	—
J ON VSP121	B-8		1.1×0.8	円形	近世		206	—
J ON VISK 7	B-1		2.50×1.06以上	隅丸方形	近世後期～近代		214	98・99
J ON VISK 9	A-2		1.35×1.30	隅丸方形	不明		215	99
J ON VSD10	A-1～B-1		5.75×1.58～3.20	直線	16世紀末～17世紀初頭		216	99